

●中村炭礦 全炭山は空知郡歌志内村字神威にあ
り、礦區面積三百六十万坪海拔千四百呎、礦主は
中村彌六氏にして明治三十八年十月の創業なり、
炭層は四尺以上十二尺以下を以て廿二層をなし水
準以上一億五千六百万噸の見積なり而して坑道の
長さは三万六千尺にして一ヶ月六千噸を採掘す
といふ、炭質は極めて良好にして、分拆成績は百分
中比重一、二三水分二、九五固形物九七、〇五分
分四、一〇挥发五九、九六炭素量五五、八六揮發
物四〇、〇四硫黄〇、八三六挥发状態焙合し、使
用坑夫は百餘人なるが全礦現在の主任は前澤濱次
郎氏にして其他庶務係工務係等の設けありて役員
總數約十數名なり、殊に大島工學博士全礦の總顧
問をなし追つてコークス製造所を設立し外資を輸
入して大發展をなすの計畫なる由なるが日下其販
路は主に京濱地方なるも又札幌旭の三地方に輸出
する數量も却々少額にあらざといふ。

●福西炭礦 全炭礦は空知郡歌志内村字神威にあ
り初め曰井炭礦と稱せしものなるが近年組織變更
と全時に福西炭礦と改稱するに至れり。

●山治後藤商店 歌志内炭山市街地に於ける荒物
雜貨店として信用ある後藤商店は後藤直藏氏の經
營する處なり氏は數年以前當市街地に現業を開き
一意薄利を旨として顧客の便利を計り精勵克く經
營の功を奏し遂に現時の隆盛を來したるものなる
が尙ほ近來神威市街地の下手に方れる字大曲にも
支店を出し華客の信用を博しつゝあり。

●山カ森山商店 歌志内炭山市街中多くの荒物雜
貨商店間において信用の厚きを以て知らるゝ森山
商店は森山龜七氏を經營主宰す、開店以來着實
と勉強を以て専ら顧客の利便を計りつゝあるが故
に店頭常に市をなすの繁昌を來しつゝあり。

●山長梅津商店 全店は歌志内炭山市街地に於け
る荒物雜貨店中第一の地位を占む店主梅津長吉氏
は靜岡縣の人にして江湖に信用厚く前途有望を以
て矚目せられつゝあり。

●九大兩角分店 歌志内炭山市街地中興服太物商
を以て有名なるを兩角分店となす店主は廣瀬巳之
吉氏にして薄利と勉強は全店の特色なり。

●一〇五十嵐藥舖 歌志内炭山市街地中藥種商を



日本赤十字社總會の景

以て名あるを五十嵐藥舖とす、店主は五十嵐久五
郎氏にして藥品の精選と勉強を以て今日の隆盛を
來せり。

●九大大久保商店 全店は歌志内市街地に於ける
唯一の荒物雜貨店なり品宜しく價廉なるの評あり

●中山合宿所 全合宿所は中山氏の經營する處に
して炭礦船會社員の合宿所たり客室多く清潔な
り。

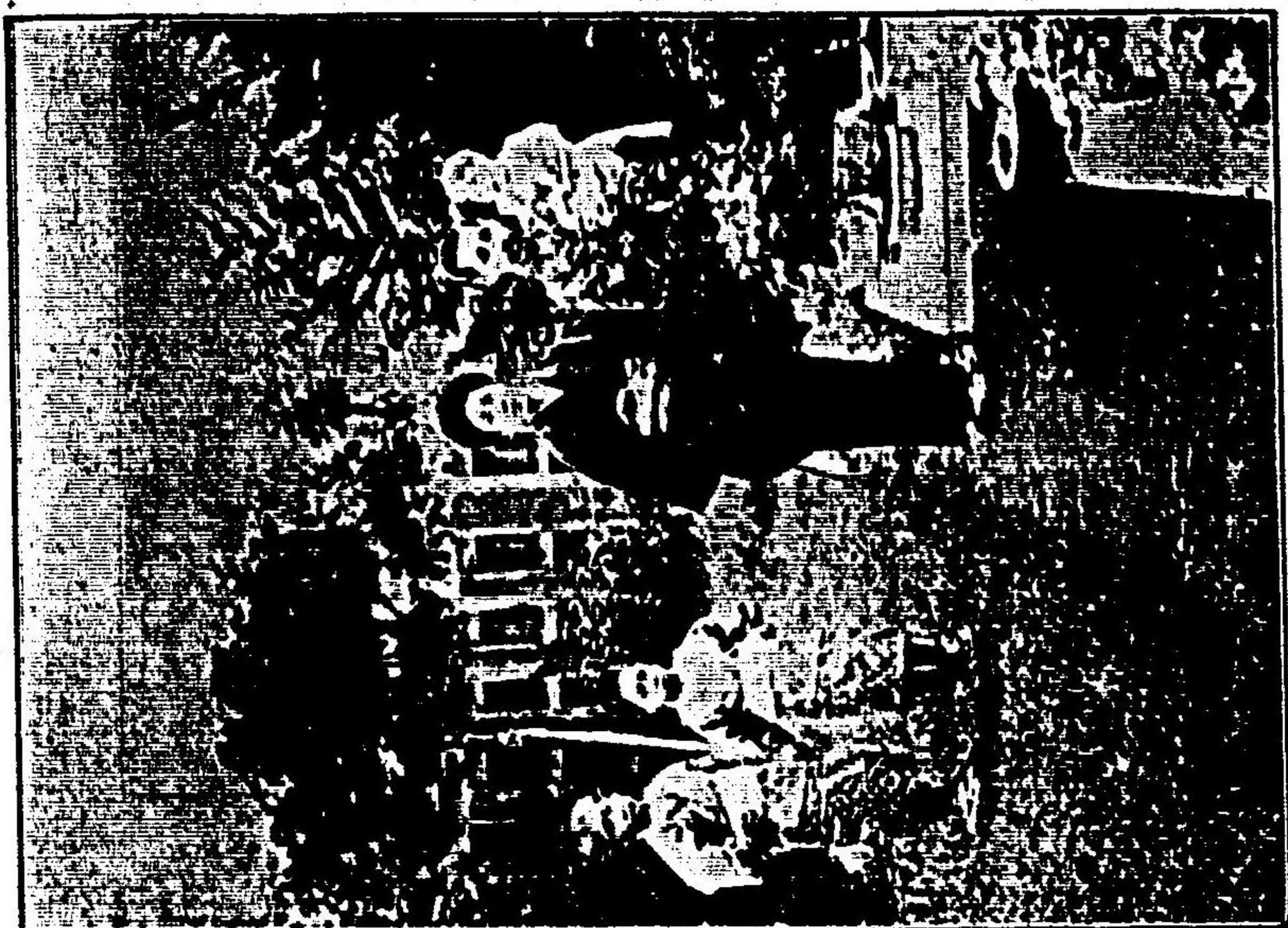
●九三城川商店 全店は神威市街地に於て米穀荒
物雜貨を販賣し信用高き商店なり店主城川實之助
氏は傍ら力を公共事業に盡し第四部長學務委員等
に選ばれ名聲噴々たり。

●カ印阿部商店 全店は神威市街地に於て米穀雜
貨商を營み傍らラマキ製造をなし江湖に信用汎し

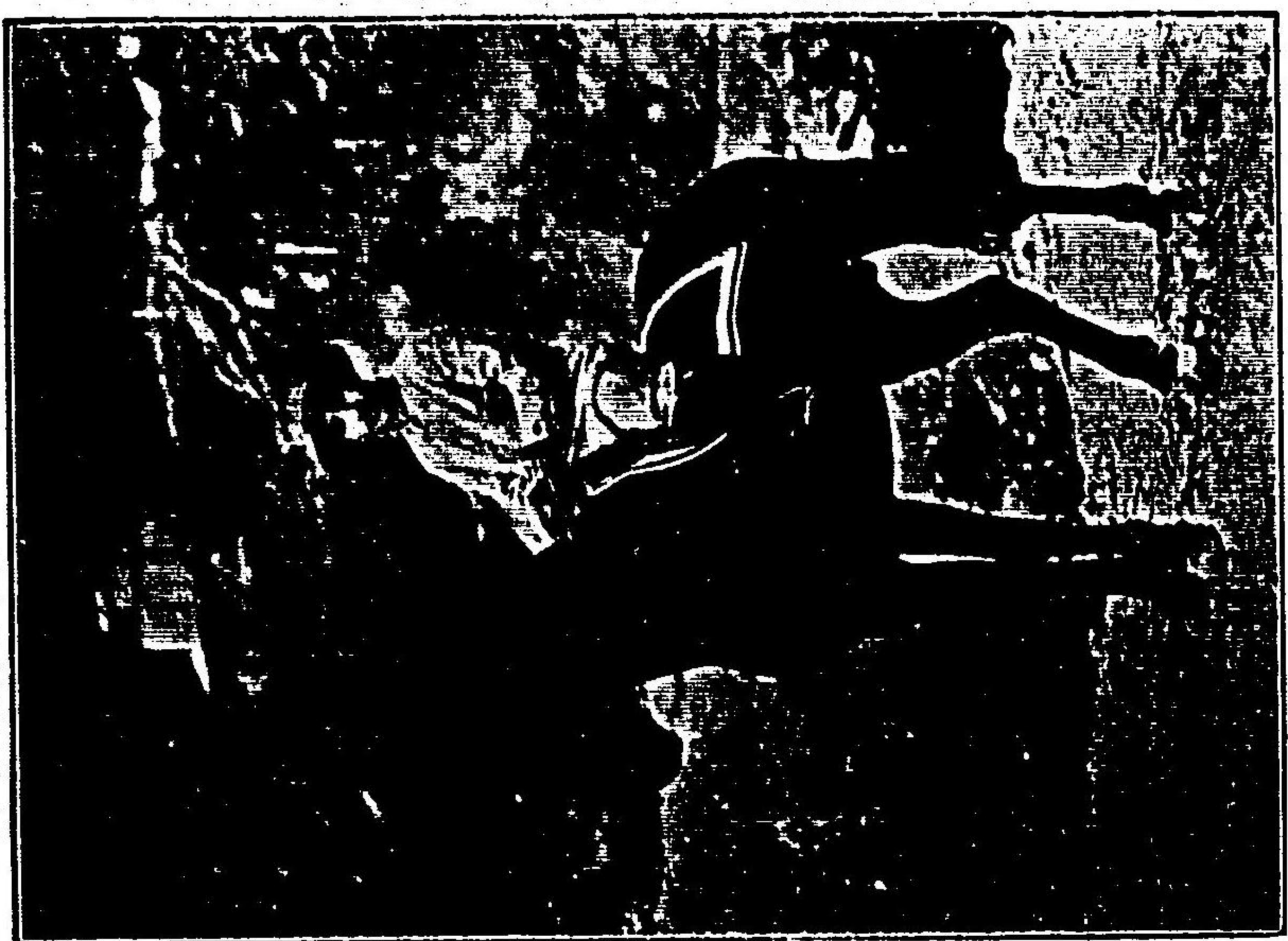
●角館旅館 角館久二氏の經營する處にして神威
市街地にあり町味親切を以て特色とす。

●九福桑原商店 全店は神威停車場前に在り菓子
洋酒雜貨を販賣し傍ら鐵道貨物取扱業を營む。

●丸宮木島藥舖 堀勉強堂の支店にして神威市街
地に在りて藥種及化粧品を販賣せり。



上川 編
徳島知足君の圖



上川 編
徳島知足君の圖
百六

（徳島）徳島知足君（空知郡歌志内村）
 北海道炭礦汽船株式会社空知炭礦々長として其名遠近に噴々たるものを徳島知足君とす、君は肥前大村の人、明治三年三月を以て生る、元姓を川原と稱し後出で、長崎徳島家に養はる故に姓を徳島と改む、君幼にして穎悟人皆賞賛して崑山の碧玉と稱す、然れども生家財政不如意にして、遠く學を大學に修むるの資なく、漸く他人の援助と自營とに依り、京都第三高等小學校工學部探礦冶金科を修め、明治三十三年其業を卒へ工學得業士となる、卒業後君は筑前の人、中野徳次郎氏に雇聘せられ筑前山田炭礦の長となり、初めて多年苦學の卓上論を實地に經驗するの機運に接せり、居ること二年餘然るに君熟々考ふるに、探礦の技術家たらんには實に常識の發達したるものにて足る只一頭地を抜くの、エーナルインヂナヤーとなるには須からく、機械學の思想を發達せしめざる可からずと、茲に於て豁然として志を決し山田炭礦長の職を棄て郷里長崎に歸へり三菱造船所に入り、今所々風工業學校の教師と爲り兼て全所圖書館主

上川 編

幹の任に當り、傍ら志を機械製作及び組立に心を注ぎ居ること二ヶ年餘大に其術の經驗と進歩とを得るに至るを以て是れを實地に應用し社會に益する處あらんと暗に其機會を待ちたりしに、恰も好し阿部博士の紹介に依り北海道炭礦鐵道株式会社に入ることになれり、之れ即ち明治三十九年なりき、爾來今日に至るの間敢て長年月と云ふにあらざるも、君が從來苦心せし實力と凡衆の得て得べからざる獨特の手腕とを以て探礦の術を講じつゝ、あるの結果今や本礦の成績は舊日の比にあらざるに至れりと云ふ、君は英姿聰明にして堅忍不拔の資性なる而已ならず、人に接する洒々落落真に當世の快男子なり、故に人稱して君は鐵心鐵腕の人なりと云ふ、君の令聞を梅子と呼び二男二女を擧ぐ常に一家團圓和氣霽然たり、之れ畢竟するに令聞が内政を司るの注意周到なると貞節の全きとに由るものとす、尙令聞は歌志内婦人會長として盡力せられ、一朝坑夫其他の細民にて不時の災害に罹る者あれば卒先して是れが救恤の法を講ずる等實に貞節温良の賢婦人と謂つべき也。

百七

言行端正にして、寛仁大度、稚兒も尙親昵するの風貌ある中、一種抜くべからざる威嚴と識見とを存するものを北海道炭礦汽船株式會社空知礦主事倉林豊彦君とす、君は慶應元年六月而も世は徳川の混亂宛然亂麻の如き時、東京市赤坂區高山に生る、後明治維新の改革に接し嚴君に連れられて静岡に移住し、全地に於て人と成れり明治十七年沼津中學校に入り十九年横須賀造船所に就職せり而して君が青年時代は彼の板垣退介氏が熾んに民權自由を唱導せし當時にして一般の士氣動もすれば粗暴過激に偏し、口に自由を説き筆に立憲の大義を唱ふるも事實は之に反し徒らに腰間の秋水鐵斷るべしを放言するに過ぎざりき、此秋に當り君は自重の態度を以て克く自己の職責を守り、苟も



倉林豊彦君

放浪湖海の野望を敢てせず、常に實業の方面に向つて其目的を達せんと圖りたり、時恰も北海道炭礦會社の創立に際し重役某氏の薦舉に依り遂に全社に入る事となれり、廿五年本社の重役附となり非上理事の秘書に任せられ頗る重用せられたり卅六年室蘭賣炭所長となるに及び名聲一時に揚り信用内外を一撼せり、四十一年四月現職に榮轉し爾來一層君が信用の度を高めたり蓋君が英邁の天才は時に本道を吞吐するの概あるべく、或は起業回天の策なきにあらざるべきも過ぎたるは尙及ばざるが如しの格言を守り二十年一日の如く汝々として本職に居られ、而も今日の樂天地を得たるは眞に至幸と謂つべき也君今年齡四十を越す漸く四五前途尙見るべき者益々多くなり遠からずして大成を期するの日あるや必せり

高柳 鐵太郎君

身は富豪に生れたるを以て、金錢財寶は天然に自己の介座を充たすものと思ひ、米麥菜蔬は自然に田圃に生ずるものと信じ、金錢米鹽の處世に貴さを知らず、所謂坊ちゃん成育より數年の修學を成し一躍して、北海道炭礦汽船株式會社空知炭礦病院長となりたるものを高柳鐵太郎君とす、君は静岡縣濱名郡北庄内村堀江の人にして、父を和佐次と稱し代々豪農を以て地方に聞ゆ、君は其の三男にして明治十三年を以て全所に生る、幼より才氣群童に超絶し其小學に在るや常に級の上席たり小學卒りて静岡中學に入り、優等を以て全所を卒業し直ちに千葉醫學專門學校入學試験に應じ、合格を以て入校し、明治三年五年全科を卒業せり、翌三十六年現住所に聘せられ病院長となる、君は實性廉直にして德行あり、議論明快事理縝密自ら患者に接するや溫顔柔容、一見以て其親切なるに悦服せざるものなし、加之君が最近に於て修得せし内科の嶄新なる手術は、偶々以て斯學界の熟練老巧者を瞻着たらしむること一再ならざりしよ

り、開業幾干もなくして活手術名醫の聲全般に高く信用亦一時に揚りたり、爾來今日に至る六年間急病者に對しては晝夜の別なく迅速の治療を加へ緩急能く其の度に應じ、貴賤貧富亦敢て懸隔あるなく毎に仁術を以て本分となす、是れ蓋君が今日の名聲と信用とを博したる所以なるべし、君令聞あり全郡村柳村柳原時次郎氏の二女にして一女を舉ぐ、淑徳にして介名あり、父は全縣々會議員常置委員たりし現今静岡第三十五銀行の重役なり、君家に在りては貞節の妻女あり出で、は國手名醫として尊重せらる何ぞ夫幸なる哉。

仙 勝太郎君

歌志内市街醫院の開祖とも稱すべきものは北洋醫院なり、院主は仙勝太郎氏にして群馬の人明治十一年八月を以て生る、氏天稟磊落豪放にして遠大の志あり、男子須らく事を成さんと欲せば新開の地に如かずと、躍然郷里を辭して本道に渡り各地を涉獵したる后歌志内に足を入れ炭山開發の實況を視察せり、然るに全地は巍峨たる山間の一市街なるも前途益々有望の地なるに、良醫殆んど見

る事なく住氏疾病に罹れば病軀を忍びて遠く瀧川若くは札幌地方の病院に入院するか若しくは賣薬に委して貴重の生命を不安の裡に放擲し居るを常とせるの状なりき、君熟々考ふらく、人の艱難に種々ありと雖も病みて是を治療するの途なきの苦悶なるはなし、須らく此地に良醫を招きて病者の懊惱を救治する亦社會公益に盡すの道なると乃ち北洋醫院を開業し關野氏を聘して院長とし仙氏自ら院主として經營の任に當れり、蓋北洋醫院の名聲嚇々たるは仙氏が滿腹の經倫を以て仁慈德行の實踐躬行を旨とせしに由るへきも、院長關野氏善く患者に懇切を盡せるの効亦大ならんも今は他に轉じて非ず。

天 野 喜 一 君

出で、は千軍万馬の間に馳馳して流血淋漓たる傷者の手術に盡瘁し入りては顔色憔悴殆んど死に瀕したる病者の治療に餘念なきものを天野喜一君とす、君は愛知縣三河國寶飯郡豊川町の産にして静岡中學校卒業后千葉醫學專門學校に入り三十六年卒業せり今年十二月一年志願兵として近衛歩兵

四聯隊に入營し日露交戦の爲め陸軍三等軍醫に任せられ三十七年八月砲船司令部附屬として營口に赴任し、今年十月近衛師團衛生隊附に轉じ、正八位に叙せらる三十九年十月二等軍醫に昇進し三十九年十二月除隊となる、其后瀨川小兒科醫院に就職せしも四十年三月佐々木森雲堂に轉職し全年十二月辭職せり然るに四十一年一月適々空知礦神威診察所よりの聘に應じて其所長となれり、君は活淡果決にして毫も事に躊躇せず、威容儼然氣骨稜々、虎嘯て猛風起り、龍吟して大雨降るの慨あるも、手術の巧妙にして患者に接する温容なるは蓋是れ君が特性にして最も諸人に信頼せらる、所以也、君年齒未だ壯前途猶茫々たり。

◎歌志内 市街の中央に廣潤壯大なる店舗を有し吳服太物西洋織物洋小間物化粧品其他學校用品一切を販賣する全地第一の商店を印廣瀬店舗とす店主己之吉氏は温厚にして先見の卓識あり組合組織以來其牛耳を探りて茲に至る年あり會員皆氏の誠意に服し該規約に背くものなしと蓋氏の徳大なる哉。

胸襟洒落小節に拘らず、豁然として光風霽月の如く外剛健にして中抜くべからざるの至誠と、存ふべからざるの熱情とを有するものを流場義造君とす、君は宮城縣互理郡小堤村の産にして、明治六年五月伊達公と共に本道に渡り有珠郡伊達村に移住せり明治十二年十二月開拓使學務局に奉職し幾何もなく工業局に轉任し、十五年札幌縣に就職し、十七年農商務山林局に轉任全時に札幌縣へ出仕命せられ十九年有珠郡書記に轉じ二十三年九月御料局技手補に轉任二十四年有珠出張所長心得命せられ三十二年五月現任歌志内郵便局長に任せられたり此の如く明治十二年以來現今に至る君が官海の經歷に付ては、或は壯快雲を凌ぐの概に出で、或は失脚非底の痴蛙たる嘆なきにしもあらざりし、



天 野 義 造 君

然れども君が淺々の奇骨と豪放の膽は常に此の波亂に對抗して遂に能く今日あるを致せり、君今や郵便局長の任に在りと雖も、財豊にして一家富然たり只た憾くは近々探薪の患ありて平常の壯快を見る能はざるを左れと君が擔任せる郵便局の規律整然として、事務の敏速なるは明治四十年度の取扱事務多數なるとに不拘、些の欠如なきを見て知ることを得べし

四十年郵便發信、二十九萬〇九百五十五通、全着信、二十六萬八千〇十通、爲替振出、二十八萬二千五百四十七八錢五厘

全支拂二十八萬七千六百四十九錢七厘、電報發信、六千二百七十二倍、全着信、六千二百六十九倍なり。

歌志内村神威市街に一偉人あり、齡將に古稀に垂々として白髮の雪を欺くも尙鏗鏘として壯んと往時陣頭に立つて敵軍を壓殺したる慨ある者を粟山弘齊翁とす翁は舊會津藩醫にして博覽強記醫術亦巧妙なりき、皮疔の役に戰轉して屢々死地に陥りたりしも辛ふじて一生を得王政復古の后福島縣安積郡福嶋住民の請に由り同地に醫術を開業し産科婦人科を主として手術を施せり當時我邦にて民間の醫士と稱するものは所謂藪家竹庵の類ひのみにて少しく其術に長ずるものは何れも藩士の抱擧たりし也、故に翁が會津藩醫たりし拔群の手腕と令名とを以て此地に開業せし事なれば未だ其手術に遇はざるに既に死を起して生に回せらるゝの心持して患者の續々來るもの門前市をなすの狀



君齊弘山粟

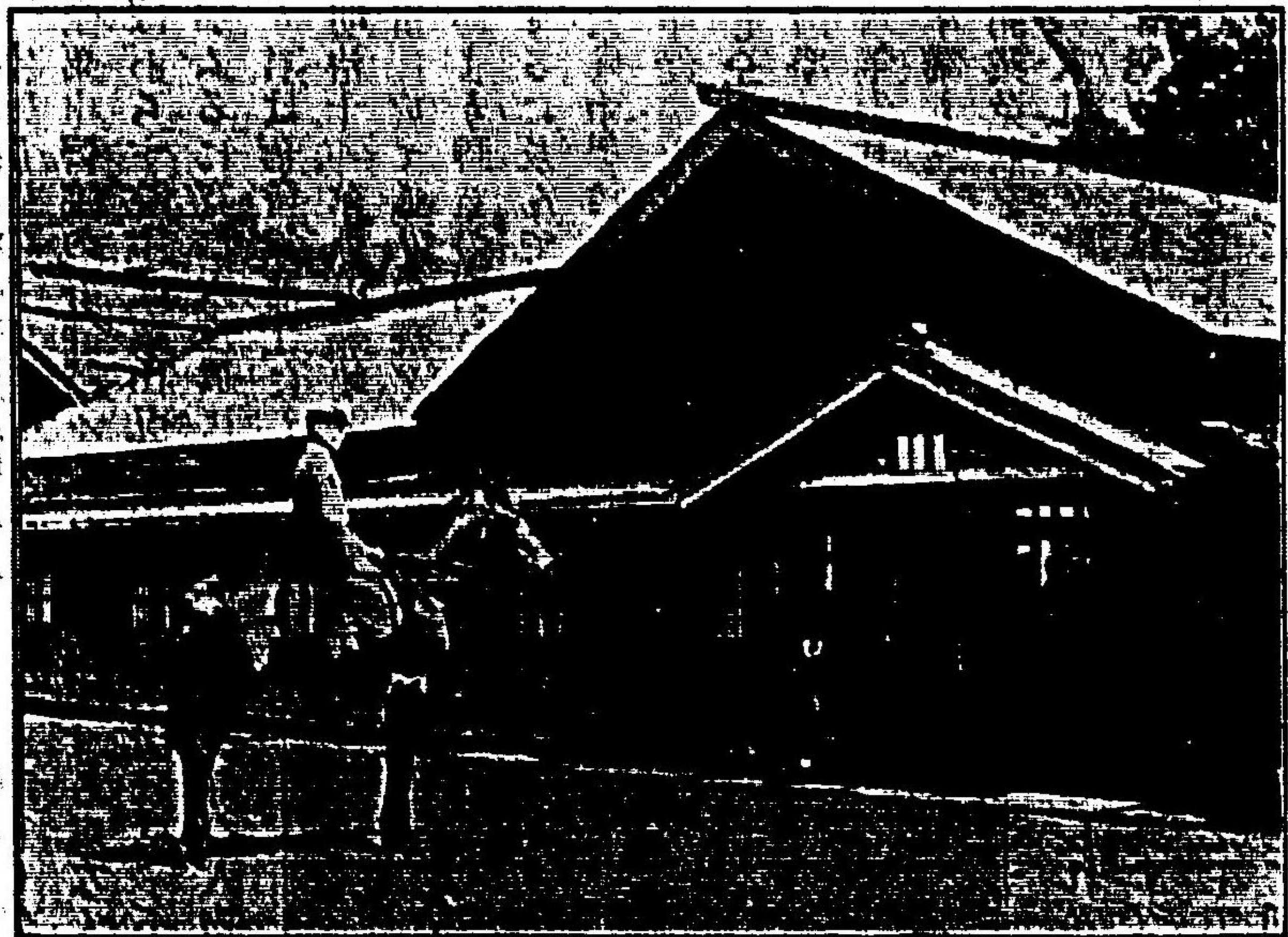
態なりき爾來明治三十九年に至る間或は村會議員に舉げられ或は安積郡醫會幹事に薦舉せられたる等公共上に盡されたる事蹟は枚舉するに遑あらざるなり且つ翁は明治二十六年より向ふ五ヶ年間安積郡日和田村外五ヶ村の貧民に對し無料にて患者を治療せらるゝの仁慈に出でたる廉を以て時の縣知事より三ッ組の木杯を下賜せられたりと聞く明治三十九年長子弘忠氏業卒へて歌志内村に醫業を開くに當り共に渡道せられて現在の地に居を構ひ年老ひたりと雖ども空しく光陰を送るべきにあらすとして全じく醫業を開きたる者なり蓋翁が老て益旺んなるは其實其氣共に平々凡々者流と異なる處あるに由るべきも畢竟するに平素の營養と運動の適度なるに因る者ならん翁にして尙今日の如くならん乎百歳の齡を保つべし

空知炭礦の名遠近に知れ亘りたると均しく有隣堂栗山醫院の好評噴々たるは其由來する處なくんばわらず院主は栗山弘忠氏にして年齒壯草率不羈加ふるに寛仁大度量に刀圭家として恰好の人物なり君は舊會津藩士にして明治十一年八月福嶋縣郡山に於て孤々の聲を揚ぐ幼より神童の聞あり長するに及んで東都に出で大成中學校に入り二十二年優等を以て全科を卒業し全年直ちに仙臺醫學專門學校醫學科に入學し卅八年十月亦も優等を以て卒業し三十九年二月醫術開業免狀を授與せらるる全年六月偶々歌志内有志より全地に開業せられん事を懇望せられたるより北海の新天地事を爲す又一得ならず遂に開業の運びに至りたり然るに君が手術の巧妙にして嶄新なるは一二月にして同地



君忠弘山栗

人の認むる處となり歌神文珠福西角久岡四炭山の主治醫を囑托せられたり爾來君が手腕と活手術とを以て患者に接する親切なる急病者を外診する迅速なる眞に仁術たるの本分に背かざる處より名聲は益々高く德業は彌々揚りたり君は又歌志内神威其他各學校醫囑托及び警察醫遊脚檢徴醫を兼ね更に東京日宗生命保險會社より診察醫を囑托せられたり加之君は空知外三郡醫會評議員として其名高く信用の厚きは何人も知る處なり目下代診三名助手藥局五名の多きを置き其業に従事せり蓋君が名聲德業共に隆々たるは刀圭家の本分たる仁術を以て任ずるの致す處なるべきも令聞亦貞節にして内助の實を舉げ淑徳の令名に背かざるに由來するべし聞く令聞は夙に東京麻布女子學校を卒業せしものなりと。



栗 山 醫 院

空知郡歌志内市街地

有 隣 堂
栗 山 醫 院

院 長 **栗 山 弘 忠**

神威村出張所

醫 師 **栗 山 弘 齋**

容姿温雅にして資性邪厚、一見人をして信頼せしめ稚兒をして又親悦せしむるものを北信次君とす、君は福嶋海士にして明治十五年を以て郷里に生る、幼にして聰明なり人呼んで神童と稱す小學を卒へたるの時已に成人を凌駕するの氣概あり君意へらく吾邦維新以來文物の發展は日に月に駿々乎として長足の進歩を來し、殊に日清の戦役以來諸事靡然として舊套を脱したるも我國古來の傾圮た藩閥の惡弊と言論自山の禁歴は未だ以て時勢の風潮に背反せるを遺憾とし如かず男子一度び此世



に生を棄けたらんには己れの希望を己れの目的とに猛進して社會の惡弊を掃除せざる可からずと既に中學に在る間に於ても憤慨の念禁する能はざりし也、然るに中學の業卒るや君が少年時代より或

一時の刺激にて藩閥の弊風言論自山の禁歴と朝夕念頭に離れざりし觀念は雲を拂ひしと均しく消散せり蓋是れ君は海士にして幼年より藩公其他上司の暴歴を厭ひたりしに由來せるなるべきも學成り社會の情狀に通曉せし結果十年の迷務一時に飛散して茲に初めて醫學に身を投ずることゝなれり、三十九年仙臺醫學專門學校を卒業し

北 信 次 君
一時福嶋縣検査官に任せらるれしも君が特性として官海に拘束せらるゝを府とせず遂に四十一年六月現在の地即ち空知郡普別村々醫とし

性勤勉にして熱誠醫術亦拔群にして起死回生の腕あり赴任未だ日淺きの今日既に村民の信頼厚く全村の人命は殆んど君の双肩に擔ひつゝありと云ふも敢て過當の辭ならざるを信する處也。

歌志内市街の開発と共に宏壯なる殿宇堂塔の建
立成りて四時讀誦音經の絶間なきものと眞宗本願
寺派廣大寺とす全寺は明治二十六年八月札幌本願
寺別院の説教所たりしを以て初めとし爾來三十年
に至るまで布教師の交替
數名ありしも檀徒僅かに
三十戸内外にして萎靡不
振なるより今年八月現住
職佐々木哲夫師を派遣し
若々として開教布教に従
事せしめたり而して三十
一年に至りては頗る檀徒
の數を増し説教所狹隘を
告ぐるに至りたるより市
街に移轉して在來の建物
三十坪の外七十坪の建物
を増築せり然るに炭礦の開発及び空知川沿岸拓殖
の進歩と共に人口増加し檀徒は日に月に其數を加
へ随つて人心の傾向するもの漸く多く随つて寺號
公稱の必要あるを認めたるより是が手續きを履行



佐々木哲夫

せんと圖りしに寺號公稱の許可を得るには敷地七
百坪を要する條規ある爲め全市街地の狹隘にして
僅かに三百戸の民家すら容るゝに困難なる場所に
於て寺院敷地七百坪を得んとするは到底不可能と
苦心せし結果有志諸士の盡
力にて村共有地五百分三百
七十五坪の地交換を村長及
有志者に交渉し併せて炭礦
採掘會社有力家の盡力を以
て前記共有地後方歌志内神
社境外豫定地の一部を割き
寺院敷地に充用するの議繼
まり三十六年十二月三日を
以て寺號公稱の許可を得た
り此間有志及び哲夫師の苦
心は筆紙の盡す能はざる處
なりと云ふ卅七年四月解雪と共に七百有餘の夫
を以て土均し工事を行ひ卅八年四月に九月に跨り
本堂庫裡合せて百坪餘の建築竣り全九月入佛式を
執行せり現在檀家三百餘ありと。

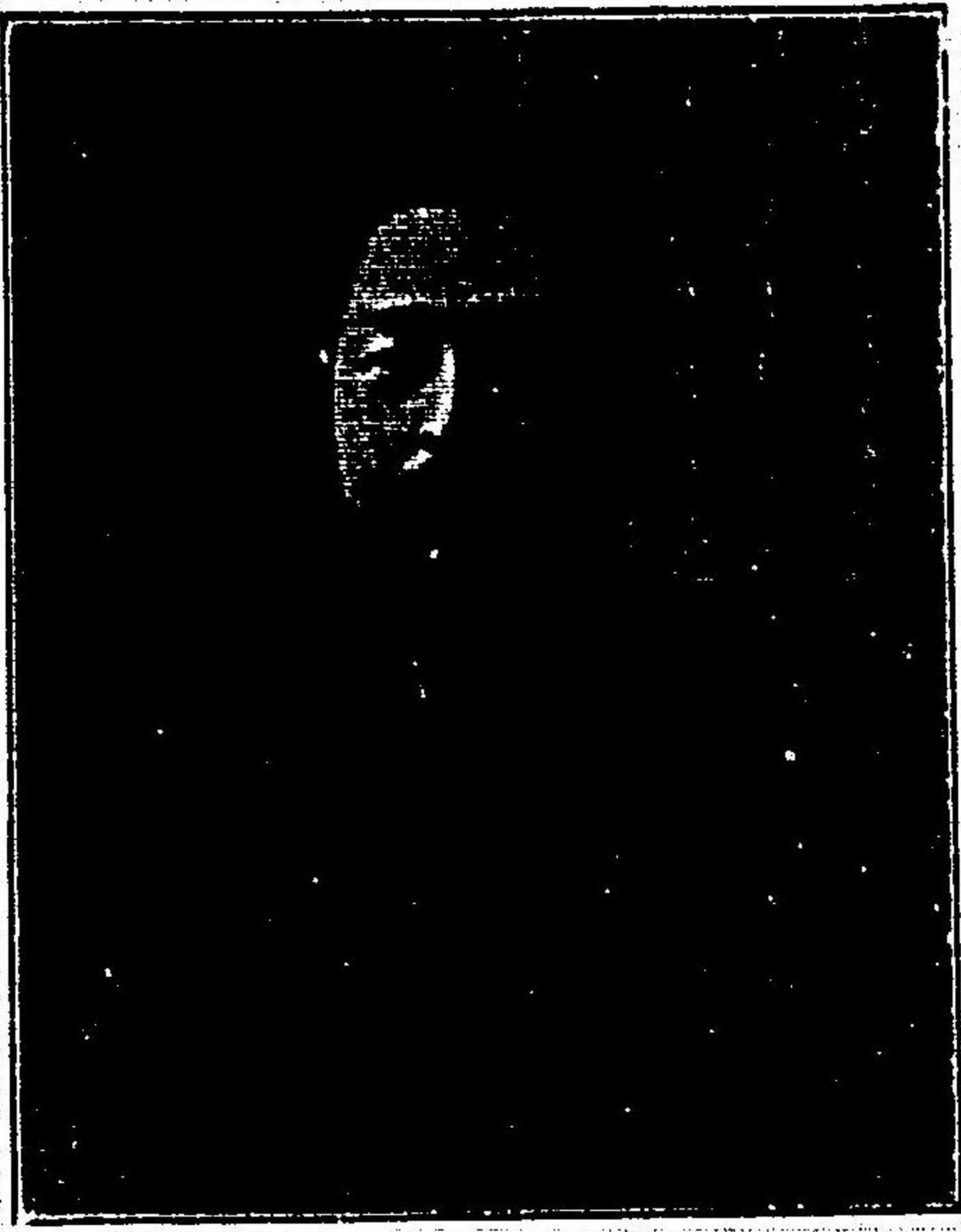
鯨々として山の如き艦船を浮ぶる蒼洋の水もど
是溪間朽葉をくゞり土塊に妨げられし細流の集合
なり不折不撓の難苦を洩き夜々吃々後始めて素戔
を達し得るは蓋是人世の常なるべし、歌志内炭山
に快男子を以て聞ゆる一
人物あり鈴木岩太郎君と
稱す、君は岩手縣の産に
して明治廿三年空知炭礦
の開坑と共に坑夫を引率
して本道に來り爾后同礦
採掘請負業を爲し幾干も
なくして礦夫世話役とな
り大に斯界の信用する處
たり卅八年以後坑夫募集
掛りとして手當を給せら
れ尙一層信用の度を高め
たり而して君は遂に村會議員に選舉せられ現に其
任に居れり君、人と成りや敢て他に驕らんとすの
野心なく又富貴權門に媚びんとするの陋劣心なく
燃度蕭散にして眞に磊落、常に善く酒を飲み時に



鈴木岩太郎

或は連日に亘ることあり偶々交友の貧を聞けば自
ら若る處の衣を脱て之に與ふ、蓋君は來道以來既
に二十年の間彼の頑迷にして粗暴過激なる幾多の
坑夫に相接し二十年一日の如く、彼れに厚く是に
薄きの偏倚なく紛擾なく、
此渦中を抜涉し來りたる手
腕は、寧ろ學才と曰はんよ
り頓智頓才即ち機に望み變
に應ずの奇才ありしと天性
義に勇み情に厚き起因す
るや大なるべし、されど一
利一害は數の逆れざる處君
が才藻にして時に情に溺れ
却つて飼犬に手を噛まるゝ
の失なしとせず、君は又卅
三年の米穀荒物雜貨商を營
み薄利を以て販賣するの好評高く今や全市街全盛
の商舖たり君今や歌志内千幾百人中上下貴賤の別
なく曲々商店主の名を知らざる者なく尙快男子と
して賞賛せられつゝある所以は豈偶然ならざる也

容貌温雅襟度肅散にして、形體を土木視し、毀譽得喪すべて度外に付し、富貴を見る傲履の如く五尺の満身只是れ血涙而已なるものを渡邊定吉君とす、君は慶應元年十月を以て新潟縣三島郡田尻村に生る明治十年家族と共に札幌に移住し全地に於て人と成る、君少年より資性剛直にして放縱全居し土木建築請負業に従事せり當時歌志内は炭礦採掘着手の時に加ふるに砂川より鐵道開通の前接なりければ請負業の頻繁なること實に寸暇なき程なれば、二三年を出でずして相應の請負者となる而已ならず、君が元來義氣に富みたる處より嶄然として全地の顔役俗に云ふ職工頭親分と稱するに至れり、爾來今日に及ぶまで二十年の久しき終始一貫敢て一日も變る



渡 邊 定 吉 君

なく業務に當つては自ら工夫を獎勵して、其工事の完全ならん事に力め、又職工人夫を役するに温成兼ね加へて決して苛酷暴慢に出でず、強を挫き弱を助け貧を救ひ孤を恤み、隱徳仁慈殆んど至らざるなきは之れ君が天性の然らしむる處にして今日の繁榮を來す起因たるべし蓋君が齡四十を超ゆる漸く三四にして既に今日の如き大地盤を造り且つ君が子分手下と稱すべきもの神威西山其他數ヶ所に於て二百人以上を有するに至りたるは其威望と潜勢力の強大なる確かに一角の重鎮として事を起すに餘りあるべし加之君の一家族は廿七人の多きに達し子男女十一人家庭團樂些の紛擾することなく、和氣肅然たるの間に秋の夕暮の日を嬉々乎として運りつゝあるは眞に是れ君が積善の餘慶と謂ふべき也。

其氣懇凌として山岳を凌ぐも一に若實にして敢て人を暖かず、且人と交はるや一見舊知の如くにして怒も城廓をさうけず洒々落落として高談放論するものを阿部貞藏君とす、君は秋田縣鹿角郡の人、元治元年全郡尾去澤礦山に於て生る、明治二十三年初めて本道に來り歌志内に移住し鍛冶工場を開く、當時木村は砂川より炭礦鐵道分岐線の開通せし翌年なりければ各地より入込むもの陸續として賑を接し、市街の繁榮に赴くは一ヶ月を争はれざる程なりき、左れば鍛冶工場の如きも其營業の昌んること今日の比にあらざりしなり然るに二十八年に至り少しく都合ありて小樽稻穂町に轉居し従前の營業を開くと共に岩内馬鐵工場の請負に従事し數多の工夫を役して是が速成を計り事



阿 部 貞 藏 君

業竣りて后再び歌志内に轉住し土木建築請負業に従事せり君は元來鍛冶工場を開業すと雖も志望遠大にして概括的人なれば區々として其業に甘んずる能はず、時に或は回天的の事變を起さんとして失敗に終はりたることなしとせずされど君は公共の觀念と義氣天に漲るの概あるを以て遂には歌志内村總代として村治の改善を企圖し、教育衛生土木の点に至るまで一として傾注せざるなく殊に全村市街地の狹隘にして宅地を開くべき途なきを憂慮し百方有志と會合し前後の策を回ぐらしたるは何人も諒とせし處なり君今や人生實を結ぶの好時期に接す、尙既往の辣腕に一步を進めて内は事業の經營を企圖し外は村治公共の開展に盡すあらば之れ所謂終始一貫克く國民の義務を盡したるものと稱するを得べき也。

中 島 勝 利 君

剛直にして才氣群に超ぬ、容姿温良にして動止
閑雅説明精實にして事理に通じ其人に接するや賢
を避けず愚を捨てず、遠近能く望を属するものを
中嶋勝利君とす君は新潟縣の人にして漢學に長じ
明治二十三年徒手空拳本道に渡り根柢節に遭遇
したる結果遂に能く今日あるを觀る、蓋君が歌志
内有志家とし公共事業に盡瘁せるは四十年八月全
村尋常高等小學校に於て空知教育講習會閉會式の
席に於て陳述せし旨辭及び祝辭に於て推知するを
得べし。

今回第五回空知郡教育講習會の終了式に臨み高
橋支廳長、立花視學、東京、島崎、米倉、徳島
の三講師其他炭礦會社員、村内有志諸氏の列席
を辱ふし、此盛大なる祝典を挙げらるゝは本村
否な地方人士の幸榮是れに過ぎざる處でありま
す而して土地の發展とは申しながら此僻邑なる一
小村に於て斯る講習會を開催せらるゝの舉あら
んどは夢にだも想はざりし處なるに、而も第五
回の講習會をして本村に開かるゝを得たるは畢

竟するに前田校長の盡力と感謝の外ありません
故に此の喜びの情禁する能はざる爲り失禮を
も顧みず一言呈します、諸君幸に諒せられん事
を望む。

祝詞、山寂々として水澄み金風蕭々として春に
親しみ業を勵むの好期に當り、茲に第五回空知
講習會の閉會式を舉ると共に本校多大の設備等
總へて其功を奏したるは、前田校長の力與つて
大なり茲に本校創立の當時は狹隘なる校舍にし
て、百般の準備完整に至らず、仮に星野君其任
に當りしが、炭礦會社の開發と本村の隆運と共
に併行して長足の進歩を來したるより、遂に今
日の完成を告ぐるに至りたる所以なり本村民た
るもの誰れか欣喜せざるものあらんや、不肖勝
利窮陋の身を以て此盛大なる典儀に列するの光
榮を膺ふ眞に感謝に堪へざる也、希くは講習員
各位益々奮發して堅忍不拔の精神を以て實踐窮
行子弟の師表となり健強秀美の善士淑女の輩出
せしむるに努められ、以て其職責を全ふし將來
國家に遺憾なからん事を望む云々。



中 路 盤 平 君

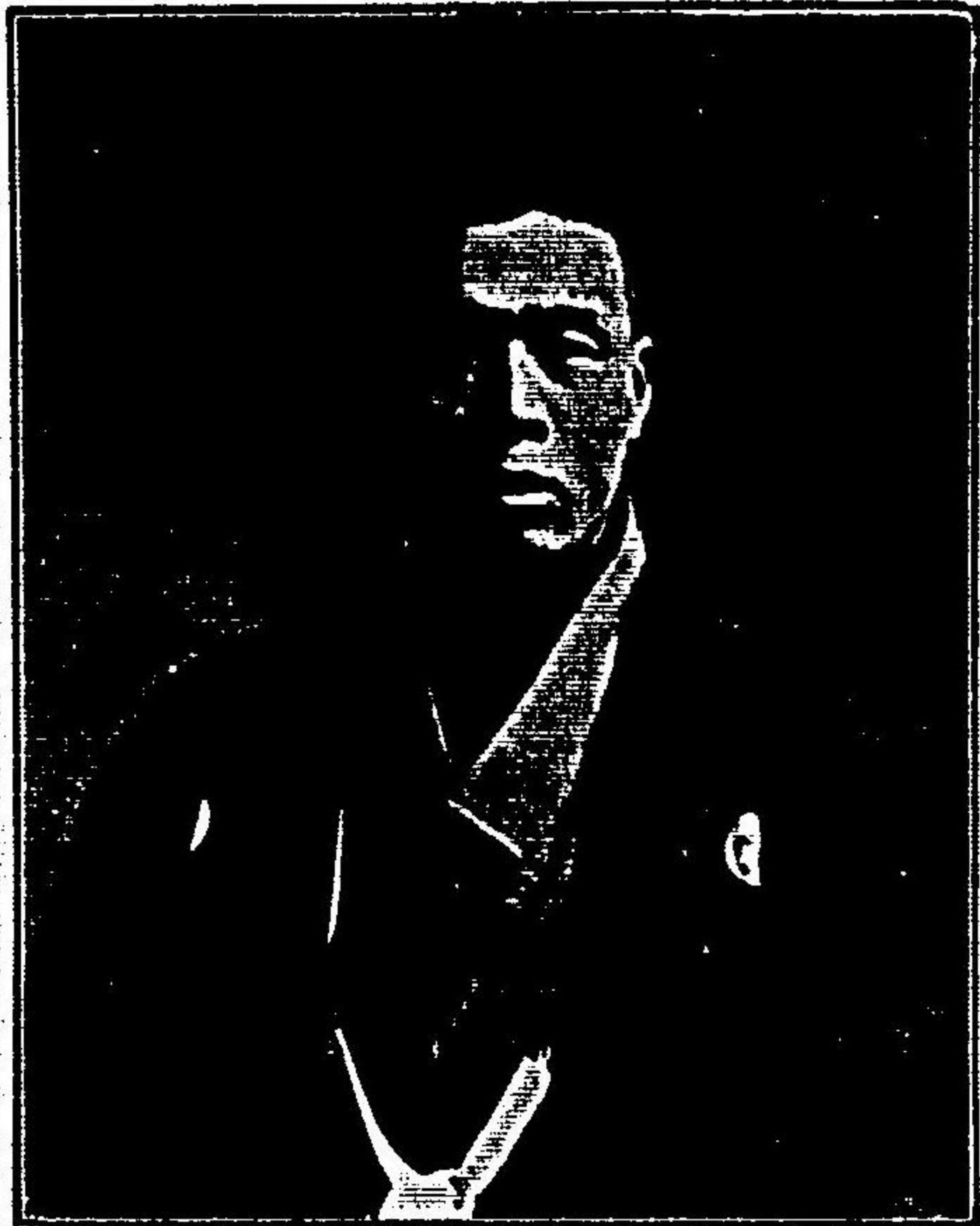
氣宇瀟大にして恬淡洒落、來るものは拒まず、
去るものは追はず、來らざるも敢て求めず、去ら
ざるも亦咎めず、胸襟の潔白なる白玉のごとく、
腦裡の清淨なる磨なき鏡の如きものを歌神炭礦長
中路盤平君とす、君は千葉縣成田の産、幼より敏
捷にして才氣に富む、校成るの後放浪湖海の志起
り慨然として郷里を辭し大坂に遊ぶ、幾干もなく
して二三同志と結合し、大に資本を募りて支那朝
鮮地方に商業を試みたりしに目的は志と反し幾干
ならずして失敗に終はれり、後明治三十五年本道
に來り現在の炭礦に入り礦長たるの任に當れり、
蓋君が才藻と瀟大なる經倫とを以て今日の成功は
敢て一大飛躍と云ふべきにあらざるも年齒漸く不
惑に垂々たるの身を以て既に一角の霸權を握り得
たるは一の成功を贏ち得たるものと云ふべし而し
て君は又頗ふる馬を愛するの人なり、嘗つて横濱
根岸競馬に於て逸物なりし駿馬一頭を千二百圓に
購入し常に是れに跨つて散策するを無常の快樂と
す君も亦馬道樂の人と謂ふべき也。

聰明鋭敏にして憤沈大度、小節に拘泥せず豁然として浴流の意想外に立つものを梅野留君とす。君は福岡縣の出身にして明治三十九年六月本道に來り炭山調査の爲め無人の山間溪谷を披渉するに五ヶ月に及びたり、四十年五月空知炭礦に職を奉じ技術主任たりしが四十年四月に至り歌神炭礦に接續せる一角に於て炭燥を發見し全年六月より採掘に着手すること、せり、是より前君が本炭燥を發見せんとして職務の餘暇或は斷崖絶壁たる岩礁を攀ち、或は樹林蒼鬱猛獸の脚下に蟠居するも計り難き深山に陥入り、殆んど歸路を失ひたりと一再にして止まらざりしと云ふ、されば君が此の炭燥を發見せし當時の歡喜は所謂龍の腮の玉を得たるか將不俱戴天之親の仇を得たるが如く、



眞に天に登る心地せしなるべし、而して全礦着手以來三尺坑五尺坑の兩坑を穿ち、内坑夫四十人坑外夫二十人を使役し役員三名是が獎勵を促かじ晝夜兼行にて採掘に従事せし結果開坑以來三ヶ月にして三尺坑は二百尺、五尺坑は四百尺の深きにまで開掘するに至れり、目下一日の採炭高は八十噸乃至百噸にして馬車十數臺を以て運搬せり、炭質は空知煤炭にて頗る良好糊力あり、只憾むらくは斷煤少量の見込にて百万噸内外ならんと云ふ事務主任は小川澤五郎氏にして坑内一切の事務は梅野氏自身是に當り最も熱心を以て採掘を圖りつゝ、あれば其成功を期して疑ひなかるべし、而して本礦事務所の外坑夫長屋二棟仮設して坑夫を收容し、かれども尙多勞の坑夫を使役せる目的にて長屋數棟を建設せる計畫なりと云ふ

君は岐阜縣大垣の人、明治二十年齡十六歳にして本道に渡る、當時函館以西小樽に至る海岸福山江差より岩内壽都地方は彼の松前侯の膝下なりし爲め稍々一市街を爲せしも其他山間の地に至りては何れも無人の荒野にして人跡殆んど稀れなりし也、然るに君は大膽不敵にも未だ乳臭の身を以て漂然として此地に足を印し前途期する處おらんとせしは蓋冒険と曰はんより寧ろ其未開にして難地たるを知らざるに由るなるべし當時（現在君が令閩の父）角館久治氏後志國余市郡沖村字泊内に於て礦山事業に従事せる折柄君は同所に於て角館氏の龍を受け居ること數年々齒二十一才にして全氏の養子となり長女某を嫁る爾來君は或は獨立に或は角館氏の援助により各地に於て礦山事業を経營



したるも俗に云ふ山師事業のことなれば七轉び八起き其冒険なること宛然丸木橋を渡ると全一なりとなり、意ふに君が特性として此冒険の事業に従事して以來既に二十有餘年の久しき敢て不屈不撓の氣色なく尙益々斯業の開發を期せんとしつゝ、あるは如何に鐵心にして鐵腕の人なるかを想像するに難からざるべし君年齒未だ不惑に達せず、前途遠邁意氣益壯となれば今後其起業せらるべき礦山事業は如何に本邦斯界の發展に資するあるかを仰望する處なり蓋世人が礦山事業を目して山師仕事なりと稱するは國家財政の一原素たる生産事業を無視する滑々者流の言にして苟も國家觀念を冒頭に置き社會公共の福利を増進せんと欲するものならんには斯る事業を経營する者に對しては大に賛同の意を表して可なるべき也

上川線營業案内

● 鑛泉浴場 ●

● 位置ハ 空知郡音江村字沖里川ニシテ風景眺望頗ル其ク深川停車場ヲ距ル約五十丁
 ● 設備ハ 旅館浴場ハ清潔ヲ旨トシ空氣ノ流通ハ勿論衛生上ニ適ス(白炊等ノ設備アリ)
 ● 取扱ハ 丁寧懇切ヲ旨トシ輕便ニシテ食用品ハ 新鮮ヲ極ム自然御保養ニハ最モ宜シ
 ● 鑛泉ハ アルカリ―炭酸泉ニシテ含有成ハ十二種アリ浴服用用共ニ効驗ノ著大ナル事
 他ニ其比ヲ見サル所ナリ
 其他諸大家ノ証明スル所ナリ

空知郡音江村字沖里川



鑛泉場 紅葉館

● 北海の 勝地 神居古潭の絶景

温泉 旅館 遊心館

湯主 安藤彦松

御待合所

上川郡神居古潭驛
 ● 伊勢安次郎
 ● 通運會社荷扱所

早達組代理店 栗山合資會社
 運送株式會社 内國通運株式會社
 丸福合資會社 上川運輸合資會社
 北海運輸組 各 荷 扱 所

上川郡伊納驛前

加 鎌田嘉七

鐵道 荷物取扱所

石狩國上川線伊納驛
 千葉長次郎
 北都組代理店

吳服
物商
太

雨龍郡納内市街地

③ 北島屋吳服店

電話(〇三)



誠實
勉強

雨龍郡納内停車場前

③ 阿部旅館

③ 木炭卸專業部

會席

御料理

特別勉強

雨龍郡一巳村納内市街地

⑦ 榮樂亭

店主 森竹次郎

●鐵道貨物取扱店

- 丸 丸 福 組
- 本 共 立 社
- ① 日 本 組
- ③ 共 立 運 送 組

●新聞雜誌取次所

内國通運株式會社取引店
 栗山組合資會社取引店
 早 運 組 代 理 店
 北 都 組 代 理 店
 運送株式會社代理店
 運 送 組 代 理 店
 札幌倉庫株式會社代理店
 北海運送組代理店
 上川運輸合資會社代理店
 旭川輸送合資會社取引店

雨龍郡一巳村納内停車場前

③ 早川運送店

店主 早川源治
 電略(ハヤ)又ハ(ハ)

汽船 鐵道 貨物取扱所

上川線納内驛

主任 田山平吉
 電略(ヤマヘ)又ハ(ヤ)

風味佳良 和洋菓子製造
 卸小賣



宇高商店

店主 宇高荒吉

雨龍郡一巳村納内市街地

電略(ウ)又ハ(ウ)

米穀荒物 洋酒罐詰 肥料雜貨 卸小賣



七 清部商店

店主 清部勇次郎

雨龍郡一巳村納内市街地

電略(セ)又ハ(セイ)

米穀荒物
清酒醬油
洋酒罐詰
肥料雜貨
其他各種
卸小賣

山北出商店

雨龍郡一巳村字納内市街地

電話(キタイ)又ハ(キ)

店主 北出岩次郎

はノ九

和洋藥舖

營業品目

營業品目

武末武藥舖

電話(山夕ケ)又ハ(夕)

- 和漢洋藥種
- 各國有名賣藥
- 化粧品小間物類

- 學校用文房具類
- 洋酒罐詰煙草類

(雨龍郡一巳村納内市街地)

はノ八

雜 穀
荒 物
肥 料
商



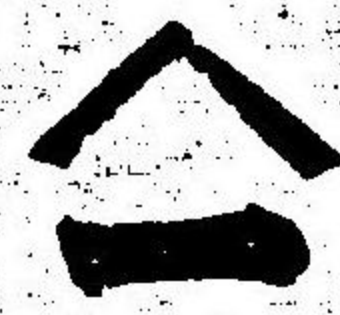
雨龍郡深川本町

坪田商店

電器(〇イ)又ハ(イ)

はノ十

銅 鐵
及 物
量 衡
器 度
打



雨龍郡深川本町

井出商店

電信略號(イ)

●入院●

雨龍郡深川仲町

姉齒醫院

●隨意●

院長

醫學
得業士

姉齒正雄

はノ十一

米 雜 穀
肥 料 商

廣 辰 繁 商 店

雨龍郡深川仲町

電略(クック)又ハ(ク)

はノ十二

寫 眞

撮影迅速

北海道深川仲町

寫眞師 川村保衛

内 科
外 科

渡 邊 醫 院

雨龍郡深川

銘 入 川
酒 東 川
釀 造 元

下 東 野 商 店

雨龍郡深川

電略(カキト)又ハ(ヒ)

客 室 清 楚

調 理 新 鮮

懇 切 叮 寧

大 川 村 旅 館

雨龍郡深川仲町

はノ十三

石狩國雨龍郡深川村



無限責任

糸屋銀行旭川支店深川出張所

雨龍郡深川本町

時計 眼鏡

商



一宮惟一

- 時計、小樽岩永時計店ノ特約店
- 眼鏡、東京川邊眼鏡店ノ特約店

石狩國雨龍郡深川停車場前



谷口運送店

電略(タニ)又ハ(タ)

海陸貨物運送取扱
 諸新聞賣捌廣告取扱
 帝國生命保險株式會社代理店
 日本海上運送保險株式會社代理店

雨龍郡深川停車場前

余森山旅館

電略(ヤマタ)

誠實勉強
 親切丁寧

銘 黄金

神通川 釀造販賣
酒 北之友

米雜穀 藪肥料商

石狩國妹脊牛

⊙ 高田由次郎

共濟生命保險株式會社代理店

帝國生命保險株式會社代理店

米穀 荒物

生藪 乾燥所

雨龍郡妹脊牛市街地

今山本商店

電話(ヤマヨ)

鐵道 汽船

物貨 取扱



吉田運送店

石狩國妹脊牛停車場構内

電信略號(ロシ)又ハ(ロ)

吳服 太物 商



山田支店

店主 山田久次郎

雨龍郡妹脊牛市街地

劇場

妹脊牛座

座主 小坂藤藏

明治四十一年九月新築落成

雨龍郡妹脊牛市街地

雜穀買入
肥料販賣
商

三岡安商店

店主 岡安隆一郎

雨龍郡妹脊牛市街地

電信路號(ヲカ)又ハ(ヲ)

吳服
太物

商

吉村吳服店

店主 吉村傳次郎

雨龍郡妹脊牛停車場通

裝蹄 葛原蹄鐵工場

家畜治療

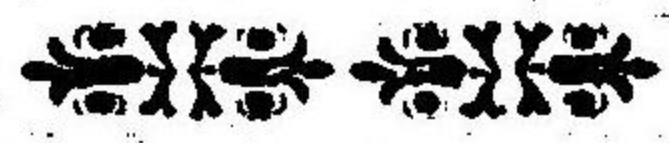
獸醫 葛原好太郎

米穀酒類
雜貨販賣

毛越後屋商店

雨龍郡妹脊牛市街地

農産
肥料
賣買



允大野長太郎
電信掛號(オオノ)

空知郡瀧川本町五丁目

はノ二十

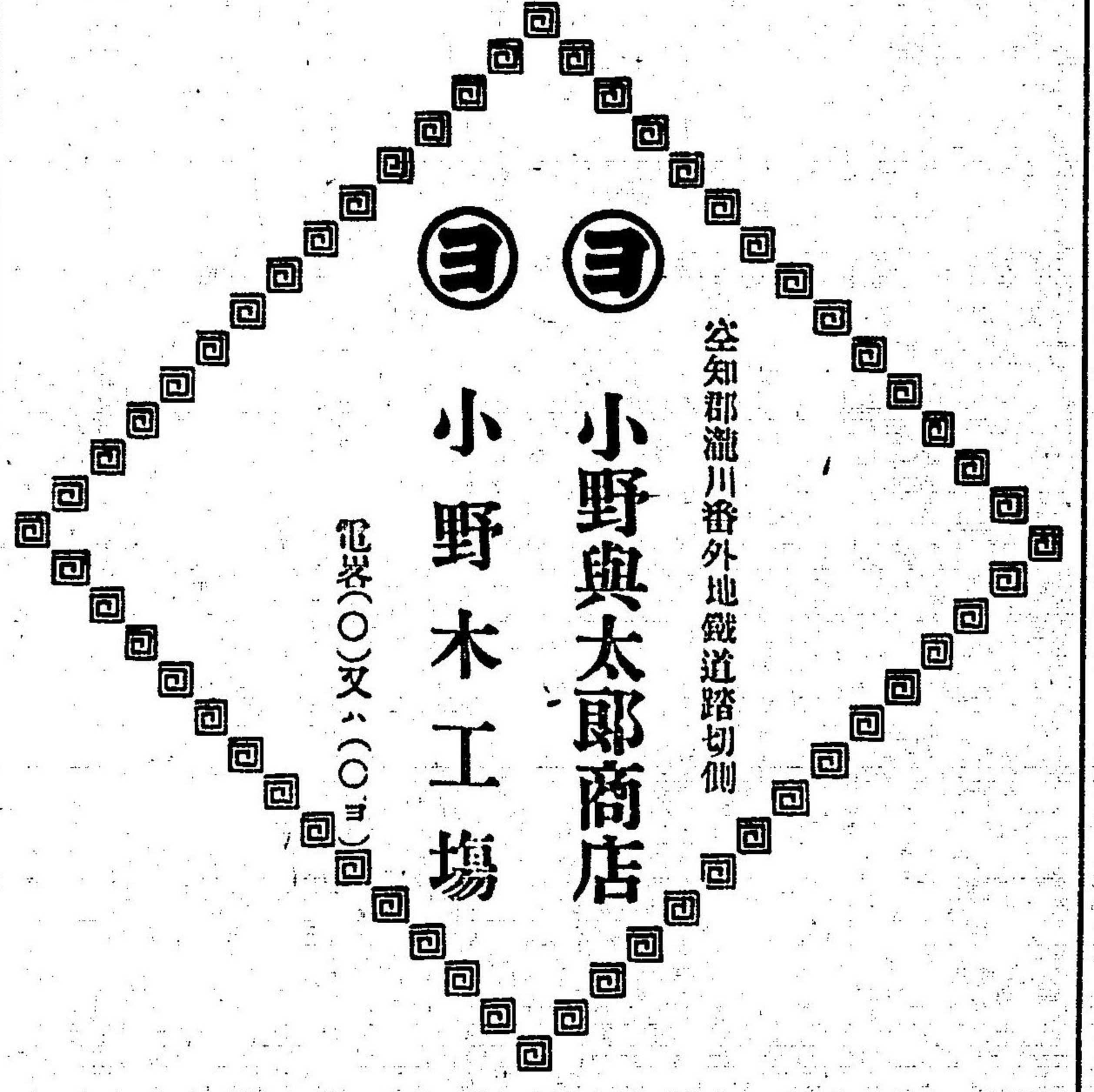
一粒一劑
總て是れ
治活藥



藥舖
小池回明堂

空知郡瀧川村一ノ坂下

製材
精米
雜穀
販賣業



小野與太郎商店

小野木工場

空知郡瀧川番外地鐵道踏切側

電掛(〇)又ハ(〇)回

はノ廿一

清酒多喜川 釀造元

◎ 今 商 店

北海道空知郡瀧川村字空知太

はノ廿二

官 壚 元 賣 捌 所

米 雜 穀 農 產 肥 料 商

◎ 今 販 賣 店

同 本通五丁目

電 署 (コソ)

農 產 馬 料
澱 粉 委 托 商

◎ 今 出 張 店

小樽區色内町五十番地

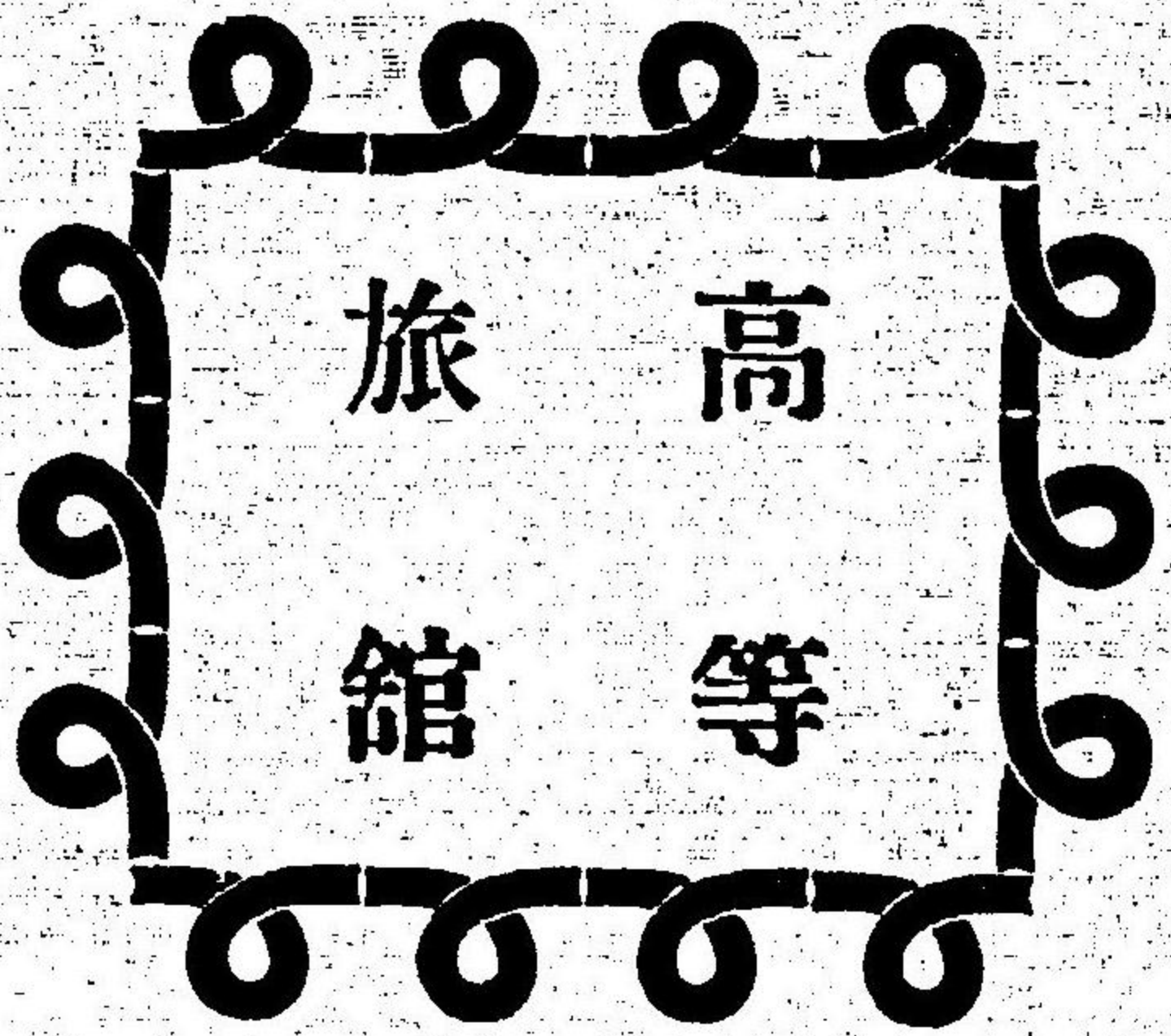
電 話 (八〇五番)
電 署 (コソ)

旭川町二條通十七丁目

農 產 肥 料 商

◎ 今 出 張 店

電 話 (四〇五番)
電 署 (コソ)



高 等 旅 館

余 對 旭 館

◎ 客 室 清 楚

誠 實 勉 強

石狩國瀧川本町五丁目

渡 邊 作 治

はノ廿三

旭印醬油
味噌醸造

販賣



二葉榮三郎

空知郡瀧川兵村東二丁目

はつ廿四

●朝夕二回ノ配達ニシテ最モ敏速

精良無菌

牛乳販賣

●端書ニテ御注文被下候節ハ端書御返戻可致候

空知郡瀧川兵村二丁目

五徳園搾乳所

三輪精一

米穀 荒物
度量衡器
蕎麥粉製造
醬油販賣
其他各種



渡邊商店

空知郡瀧川村本通三丁目

店主 渡邊重作
電話(ワタ)又(ワ)

陸海

運送業

空知郡瀧川停車場前

相澤運送店

鮮明優美期日迅速

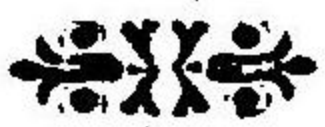
空知郡瀧川市街地

竹林寫真館

はつ廿五

旭印醬油
味噌醸造

販賣



二葉榮三郎

空知郡瀧川兵村東二丁目

はノ廿四

●朝夕二回ノ配達ニシテ最モ敏速

精良無菌

牛乳販賣

●端書ニテ御注文被下候節ハ端書御返戻可致候

空知郡瀧川兵村二丁目

五徳園搾乳所

三輪精一

米穀入荒物
度量衡器
蕎麥粉製造
醬油販賣
其他各種



渡邊商店

店主 渡邊重作

空知郡瀧川村本通三丁目

電話(ワタ)又(ハ)

陸海
運送業

空知郡瀧川市街地前

相澤運送店

鮮明優美期日迅速

空知郡瀧川市街地

竹林寫眞館

はノ廿五

栗山組代理店
運送組代理店
運送株式會社代理店
丸福組代理店
札幌倉庫運送部代理店

瀧川停車場前



高畑運送店

電略(夕力)又ハ(夕)

空知郡瀧川村

内科
外科

明治病院

入院隨意 院長 尾形 碧

病畜入院隨意
各種蹄鐵裝着

北海道空知郡瀧川村

安驥堂家畜病院

院長 高橋 信行

烟花製造
銃砲火藥

販賣

空知郡瀧川本町三丁目

三 今 忠 策

吳服太物
米穀荒物
雜貨其他
一式販賣
諸肥料色々

空知郡瀧川村江部乙十三丁目角



石丸商店

電略(イ)又ハ(イ)

店主 石丸由五郎

誠實勉強
親切丁寧

空知郡江部乙停車場前

③ 吉澤旅館

瀛車
瀛船
貨物取扱

石狩國江部乙驛前

④ 内國通運株式會社取引店

⑤ 運送株式會社代理店

雨龍郡北龍市街地

⑥ 越中屋旅館


電話(〇ウ)又ハ(ウ)

澁谷卯吉

吳服
太物商

雨龍郡北龍村沼田

⑦ 根尾兵藏



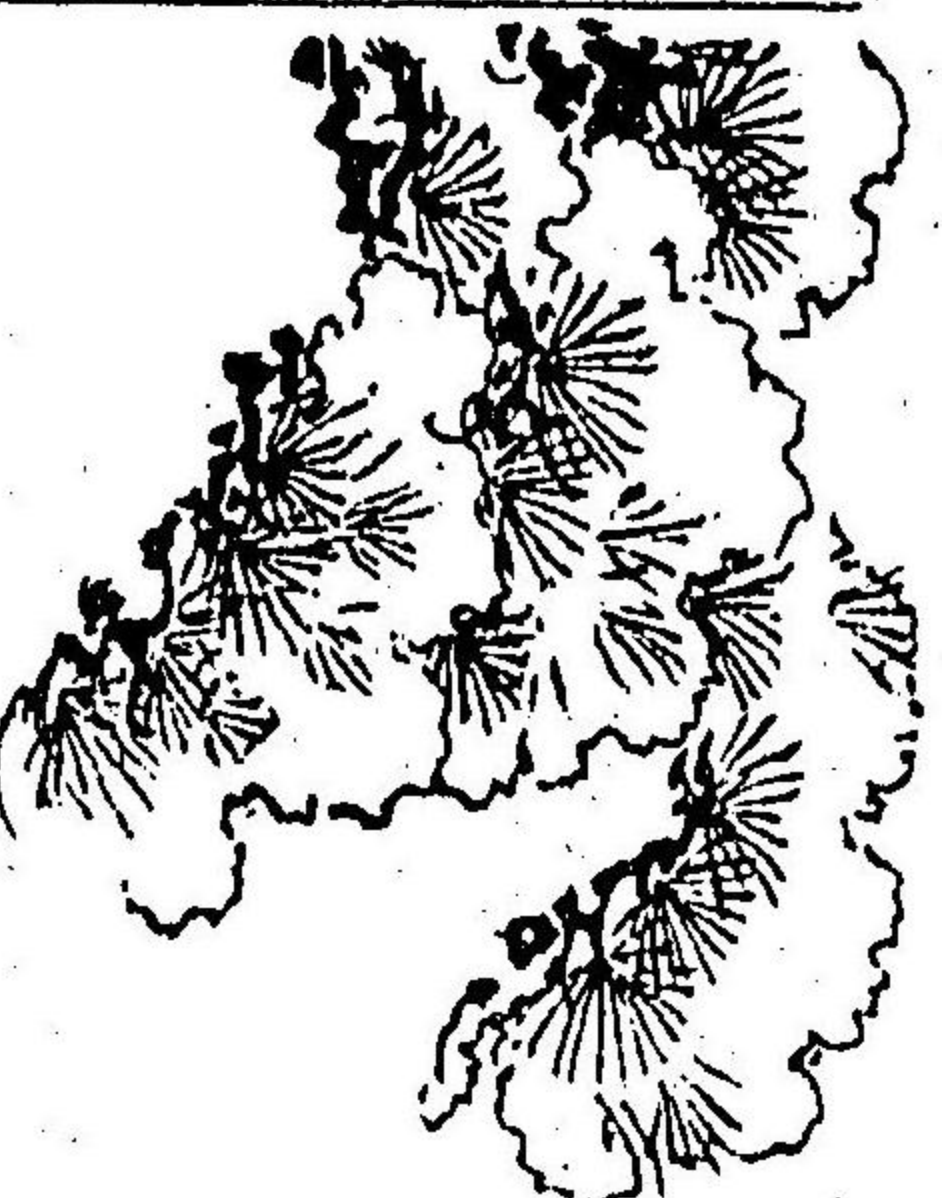
土木建築
井人夫物品供給請負業

石狩國樺戸郡新十津川村

玉置里見

(ウ)

(電話番號(ウマキ)又ハ(ウマ))



銘酒

花乃雫

德富川

醸造元

権戸郡新十津川村橋本町

★ 新十津川酒造株式会社

はノ三十

藥種商併小間物

陸軍 蹄鐵術卒業

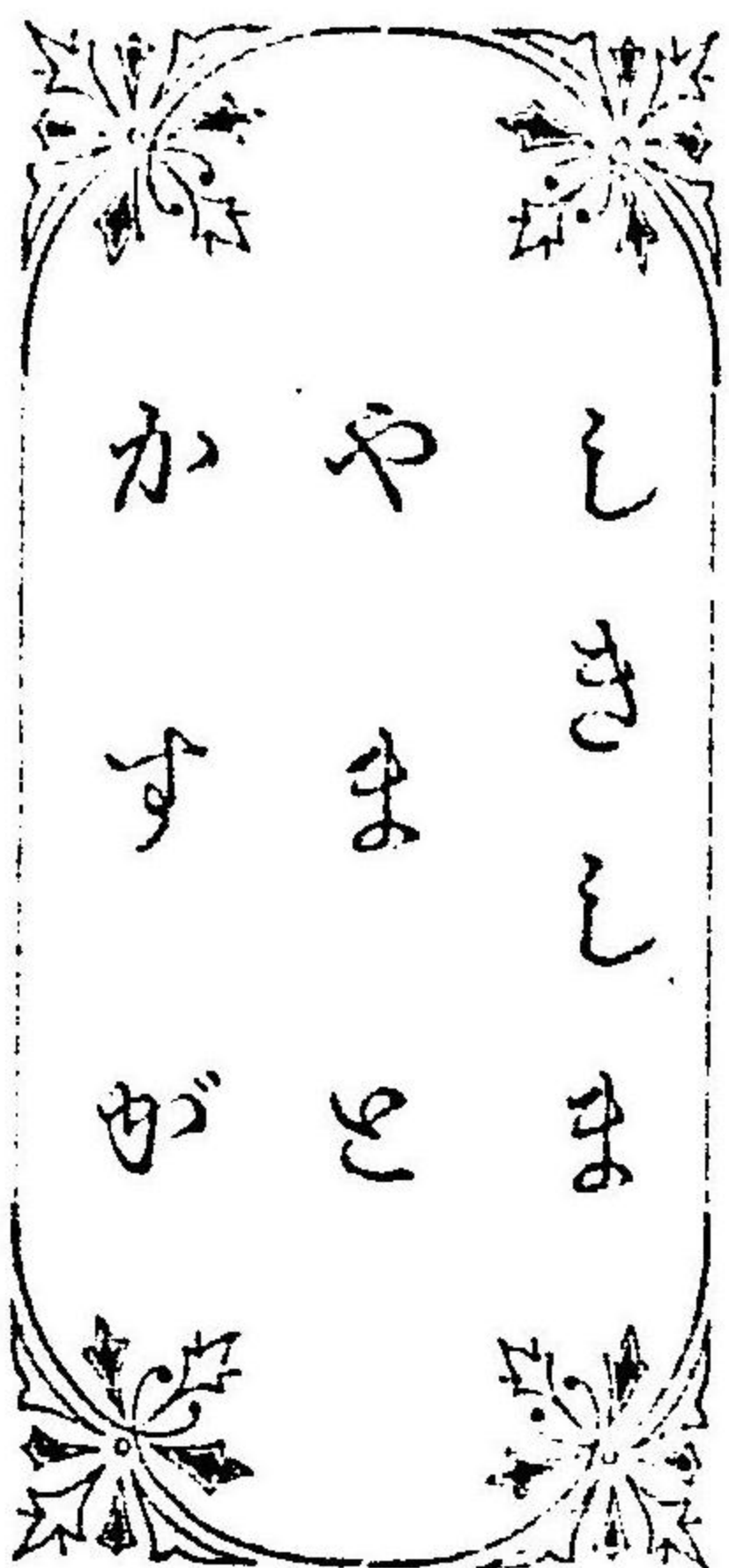
新十津川村菊水町

㊦ 下村藥舖

下村蹄鐵工場

場主 下村正一郎

銘酒



石狩國空知郡砂川村



砂川醸造株式会社

はノ卅一

銘酒



石狩國空知郡砂川村



角野醸造場

内科

空知郡砂川村

醫院

睡室無絶

客室清潔

調理精撰

待遇懇切

和洋御辨當
旭壽司
御仕出

空知郡砂川村

石川旅館

御仕合 近藤屋之丞



銘酒



白竹
鷹駒川



角野醸造場

石川県加賀市砂川村

内科

空知郡砂川市街地

院主 幡 醫 院

院主 幡 院

眺望佳絶

客室清潔

調理精撰

待遇懇切

空知郡砂川村

石田旅館

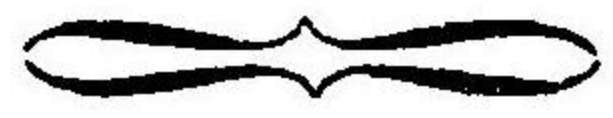
和洋御辨當
旭壽司
御仕出し

空知郡砂川停車場前

御待合 近藤製之丞



米穀荒物日用品雜貨
農産物賣買肥料販賣
度量衡器販賣



三 明 圓 政 吉

空知郡砂川市街地

電信略號(メエン)又ハ(ノ)

疊 建 具
佛 檀 佛 具
販 賣



佐 鹿 大 廉

空知郡砂川市街地

空知郡砂川村

⊕ 旭 糸 屋 銀 行 支 店
砂 川 出 張 所

空知郡砂川市街地

櫻 井 寫 眞 館

最新式技術精巧期日迅速

鮮 明 優 美
期 日 正 確

空知郡砂川村

吉 澤 寫 眞 館

鐵道貨物取扱奈井江運送組
 ④ 札幌倉庫株式會社運送部代理店
 運送株式會社奈井江代理店
松島運送店

③ 上川運輸合資會社取引店
 ② 內國通運株式會社取引店
 ① 合資會社栗山組取引店
 ● 郵便切手賣下所

空 知 郡
 奈井江 車站前
 松島 善太郎

米穀 雜貨 荒物 商

吉井商店

空知郡奈井江市街地

電話(013)又ハ(13)

石狩國空知郡奈井江市街地

三 佐藤旅館

誠實勉強懇切丁寧

石狩國空知郡奈井江市街地

醫師 熊勢博齋

吳服

太物商

雜貨

空知郡奈井江市街地

越後屋

店主 内山卯吉

電話 〇三

空知郡歌志内市街地

北洋堂醫院

院主 佃勝太郎

米穀
雜貨
商

空知郡歌志内市街地

長梅津商店

電略(ムメツ)又ハ(ツ)

店主 梅津長吉

吳服太物
和洋小間物
化粧品

空知郡歌志内市街地

大 両角分店

主任 廣瀬巳之吉

米穀
雜貨商

食梅津商店

店主 梅津長吉

吳服太物
和洋小間物
化粧品

向角分店

主任 廣瀬巳之吉

米穀
荒物商
雜貨

町 鈴木商店

店主 鈴木岩太郎

歌志内炭山市街地

土木
建築請負業

定 渡邊定吉

歌志内炭山市街地

米穀
雜貨商

長梅津商店

空知郡歌志内市街地

電話(ムソツ又ハニ)

店主 梅津長吉

吳服太物
和洋小間物
化粧品

六角分店

空知郡歌志内市街地

主任 廣瀬巳之吉

米穀
荒物商
雜貨

鈴木商店

歌志内炭山市街地

店主 鈴木岩太郎

土木
建築
請負業

定渡邊定吉

歌志内炭山市街地

米穀
雜貨商
荒物

介
森田商店

歌志内炭山市街地

米穀
雜貨商
荒物

浴
後藤商店

歌志内炭山市街地

店主後藤直藏

浴
後藤支店

神威大曲リ

米穀
雜貨商
荒物

大久保商店

歌志内炭山市街地

旅館

中山合宿所

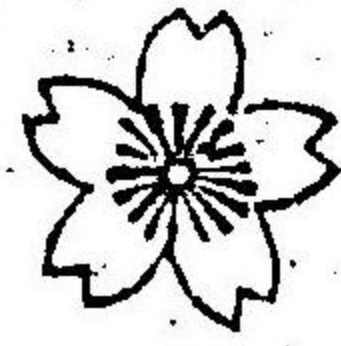
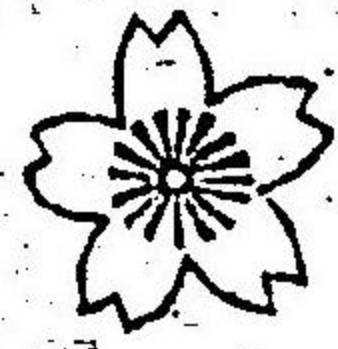
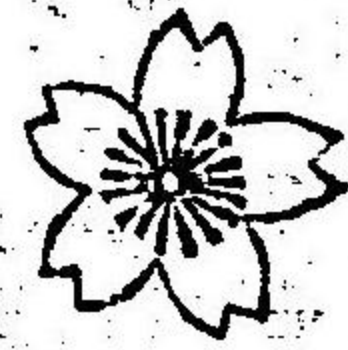
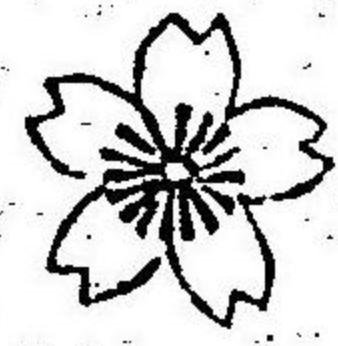
歌志内炭山市街地

客室
清潔
調理
新鮮
懇切
丁寧

米穀
荒物商
小間物

空知郡神威市街地

③ 城川實之助



米穀雜貨
荒物諸罐詰
屠肉製氷
ラム子製造

空知郡神威市街地

加印 阿部商店

官製刻卷煙草
履物類三都共直輸

歌志内炭山市街地第二十八號

① 中島商店

電話(〇ナカニ)

和漢洋藥品 各國有名賣藥
洋食料品 繪具染料
化粧品各種

歌志内停車場前

㊦ 五十嵐藥舖

店主 五十嵐久五郎

土木
建築 請負業

歌志内炭山市街地

阿部貞藏

空知郡神威市街地

角 館 旅 館

和 洋 菓 子
洋 酒 諸 鐘 詰 類

空知郡神威市街地

福 桑 原 商 店

鐵 道 貨 物 取 扱 所
内 國 通 運 株 式 會 社 取 引 店

和 漢 洋 藥 化 粧 品 繪 具 染 料

一 度 散 製 造 元

石狩國空知郡歌志内市街地

堀 勉 強 堂

同 上 神威市街地

宮 木 島 寛 一

劇 神 威 座

空知郡神威市街地

神 樂 村

神樂村は旭川市街の南方にありて全村御料地に屬す、北方忠別川を隔て東旭川、東川の兩村に隣り西は美瑛川を以て神居村に接し、南は六丁川を以て美瑛川に境す、地勢平川にして神樂岡遠く東西に走り、國境山脈に連り分水嶺を爲し、東部を東御料地西御料地と稱す、共に狹長にして地味肥沃なり其住民は重もに小作人なれども流石御料地のごとく小作制裁の寛大にして、規模の整然たるが故其の成績良好にして尺寸の未開地を餘さざるは云ふ迄もなす小作權の讓與すら、一戸五百圓を徴する所ありといへば其存望なるを推知するに足るべし殊に開村以來日尚淺きにも物はらず近來頗る發展せるは一面鐵道開通の力にあるべしと雖農耕の宜を得たるの爲ならずとせず、既築水田面積は四百町歩餘に達せりといふ。

村行政機關 としては戸長役場の設けあり全戸長役場は三十四年十一月の創立にて神居神樂兩村を管しつゝあり最初戸長として任命せられたるは松下高道氏にして現任戸長は仁科喜作氏なり明敏

にして事務に精しく卸々の開へあり、小學校には尋常二、簡易教育所二の設けあり郵便局は神樂及邊別の二ヶ所に設置しあり

御料局上川出張所 全出張所は二十八年一月一日の開始にかゝり爾來今日に及びたるものなるが其所管區域は石狩國上川郡神居、神樂、美瑛、東川及全國富良野村の五ヶ村にして其面積は四千二百五反五畝二十八町歩に亘り現任局長は技師日野吉甫氏なり、今氏は多年御料局官吏として各所に勤績し辣腕を以て名ある人なり

牛手牧場 全牧場は神樂町にありて有名なる牛乳搾取所を以て知らる、且洋種其他のものは四十頭以上を有し牛乳及バター製造を爲す、場主平手久次郎氏經營其宜しきを得、益々發展の目勢あり。

石原商店 神樂村字邊別に於て並物雜貨商を營み信用篤く老舗を以て知らるゝを由り即石原商店とす、店主石原拙次郎氏は顧客に接する親切に價格廉なるを以て今日の盛況を見るに至る

神 樂 村

神樂村は旭川市街の南方にありて全村御料地に属す、北方忠別川を隔て東旭川、東川の兩村に隣り西は美瑛川を以て神居村に接し、南はベツ川を以て美瑛川に境す、地勢平坦にして神樂岡遠く東西に走り、國境山脈に連り分水嶺を爲し、東部を東御料地西御料地と稱す、共に狹長にして地味肥沃なり其住民は重もに小作人なれども流石御料地のごとく小作制裁の寛大にして、規模の整然たるが故其の成績良好にして尺寸の未開地を餘さざるは云ふ迄もなく小作權の讓與すら、一戸五百圓を踰ゆる所ありといへば其有望なるを推知するに足るべし殊に開村以來日尙淺きにも拘はらず近來頗る發展せるは一面鐵道開通の力にあるべしと雖農耕の宜を得たるの爲ならずとせず、既墾水田面積は四百町歩餘に達せりといふ。

◎村行政機關 としては戸長役場の設けあり全戸長役場は三十四年十一月の創立にて神居神樂兩村を管しつゝあり最初戸長として任命せられたるは松下高道氏にして現任戸長は仁科喜作氏なり明敏

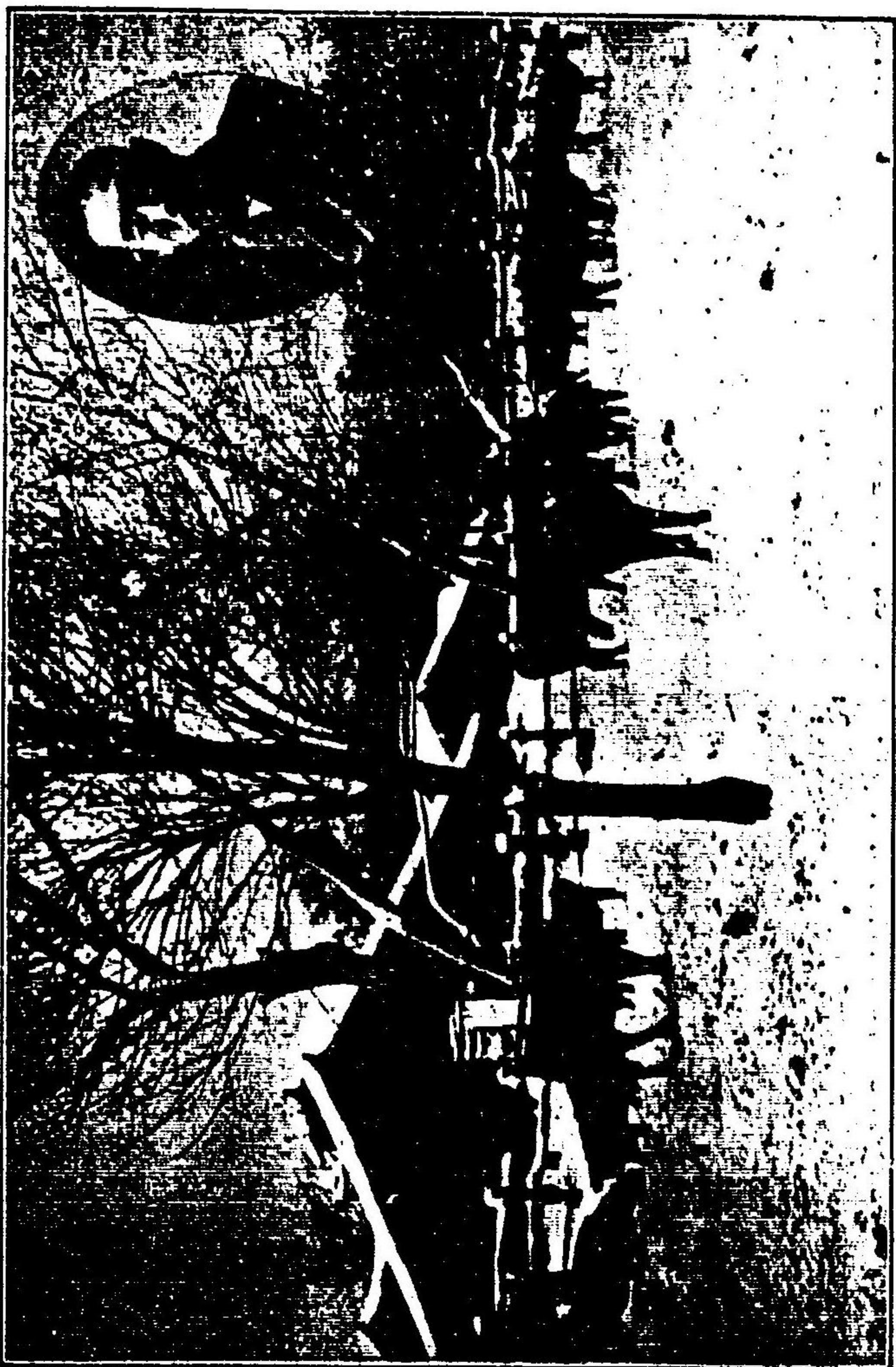
にして事務に精しく錚々の間へあり、小學校には尋常二、簡易教育所二の設けあり郵便局は神樂及邊別の二ヶ所に設置しあり。

◎御料局上川出張所 全出張所は二十八年一月一日の開始にかゝり爾來今日に及びたるものなるが其所管區域は石狩國上川郡神居、神樂、美瑛、東川及全國富良野村の五ヶ村にして其面積は四千二百町五反五畝二十八町歩に亘り現任局長は技師日野吉市氏なり、全氏は多年御料局官吏として各所に勤績し辣腕を以て名ある人なり。

◎平手牧場 全牧場は神樂町にありて有名なる牛乳搾取所を以て知らる、目下洋種其他のものは四十頭以上を有し牛乳及「バター」製造を爲す、場主平手久次郎氏經營其宜しきを得、益々發展の趨勢なり。

◎石原商店 神樂村宇邊別に於て荒物雜貨商を營み信用篤く老舗を以て知らるゝを曲イ印石原商店となす、店主石原進次郎氏は顧客に接する親切に價格廉なるを以て今日の盛況を見るに至る。

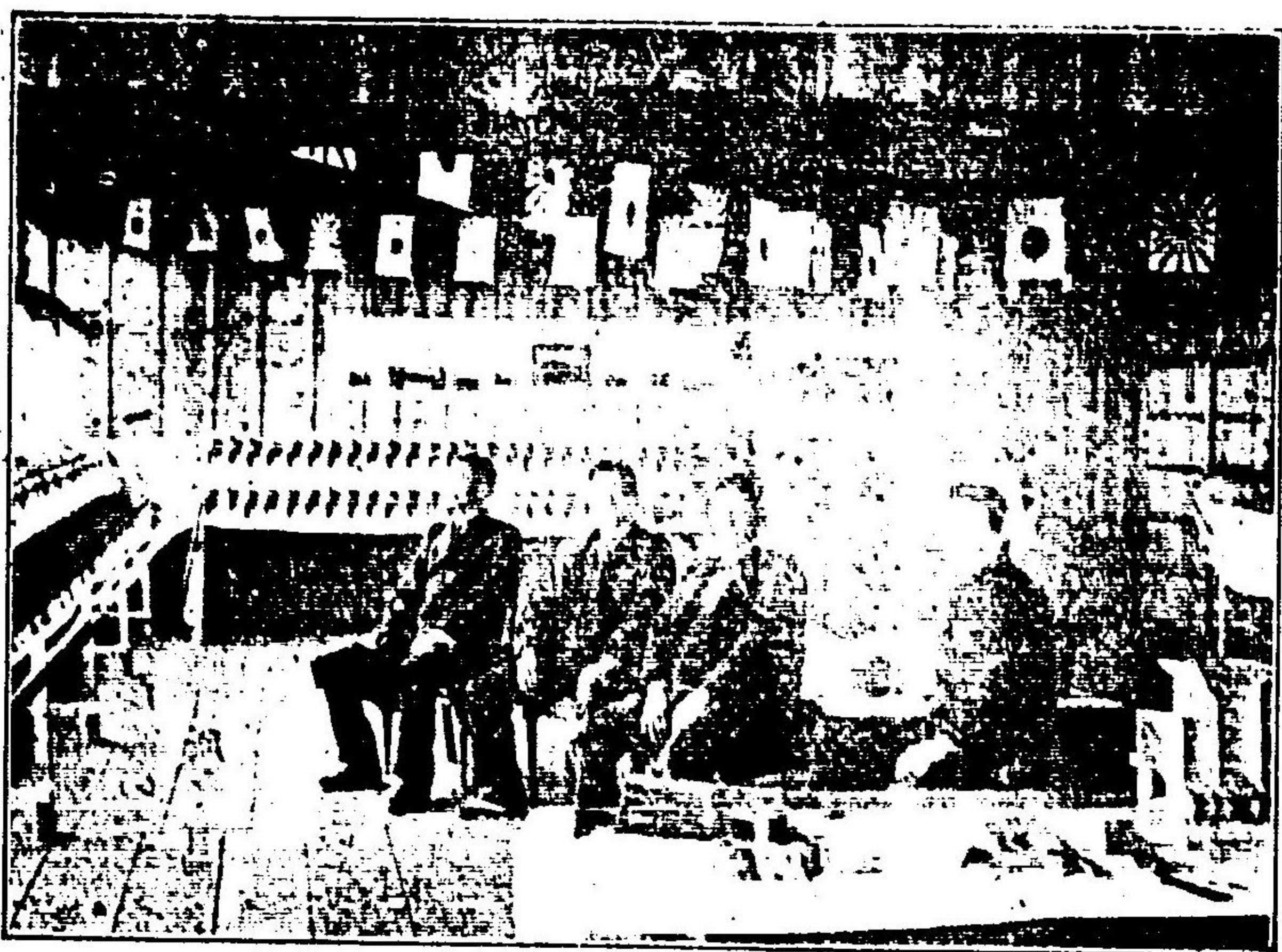
場 主 平 手 久 次 郎 氏



上 川 郡 神 樂 村 平 手 牧 場

十 第

二



美 瑛 農 會

美 瑛 村

上川郡美瑛村は旭川町の西南六里餘に位し、西南は空知郡上富良野に接し、東北は神樂村及び東川村に境す東西四里十六町南北四里二十九町、面積一億七千八百八十六万一千九十九坪あり、明治二十八年兵庫縣人の始めて移住せし地なりと云ふ、全明治三十二年神樂村より分村す、當時戸數三百に満たざりしも其後續々移住者増加して、現今は戸數九百四十餘人口約五千を算ふるに至れり、全村は山來土地肥へたりとの評あるのみならず尙移住の餘地もあれば、近き將來に於て戸數四五方を増加し得らるべき村勢なりと云ふ、三十三年戸長役場を置き爾來戸長の更迭する事五回現任戸長清水諒氏は去る三十九年就職以來、能く吏員を督勵し内は役場事務の整理を計り外は村治諸般の施設改善に鋭意しつゝありと云ふ、

◎小學校 美瑛尋常高等小學校は明治三十一年十月開校せらる爾來村の發達と共に生徒の員數續々増加し、四十一年度十月現在に於て二百七十有餘の生徒を見るに至れり、教員五名あり校長は城開

十 第

三

二氏なり、簡易教育所としては旭教育所、横手教育所、下ウバリベツ教育所、松澤教育所、オキ、ニウシ教育所、上ウバリベツ教育所等の六ヶ所あり、尙今年中には二三ヶ所の教育所を増設する見込みなり。

◎農會及農牧場 村農會は明治三十八年の設立にして、現在會員七百二十有餘名を有せり、四十年始めて第一回農産品評會を開催し、翌四十一年度に於て生絲製綿傳習所、農事講習會等の企てある農事の改良若々其緒に就けりと云ふ、水田は四十年一度に於ける現在反別六十五町歩ありも 將來水田と爲し得べき反別は實に千百餘町歩ありと云ふ、然れども其土地の多くは中等地にして収穫充分ならざるの地尠からずと云ふ。

農牧場の重なるものは製麻農場、旭農場、井上農場、藤野牧場、田中牧場、旭牧場、夕張牧場、大久保牧場、平澤牧場等にして各農場は何れも二百町歩以上の反別を有す、中にも旭農場は上川郡内の模範農場と稱せらる、尙藤野牧場、旭牧場は畜牛を以て勝り、田中牧場は畜馬を以て成績良好なりと云ふ。

◎郵便局 美瑛郵便局は去る三十三年一月の開局にして美瑛市街地に設立せらる、局長は能城善次郎氏にして開局當時より引續き今日に至れり、目下局長以下事務員一、集配人六、遞送一を以て其任務に當れり、全地方は農業の發達徐々として實質的の進歩を來し、三十三年以來今日に至り全村戸數約千戸内外に達したりと雖ども、之を他地方に比較する時は敢て急速の開發と稱する能はず、然るに四十年夏季より、第七師團の砲彈演習を爲すに當り全地に兵舎を設けられし爲め兵士の出入多く隨つて商家の移住するもの日に月に其數を増し、郵便事務の如きは三十九年度の約倍加を見るに至れりと、今其一例を擧ぐれば三十九年度に於ては配達書狀八万千六百二十一、發送四万六百三十八通なりしを四十年度に於ては配達十二万四千七百六十二、發送八万五千五百七十一通の多きに至り、此他貯金爲替等に至るまで皆此比例なれば局務の頻繁なる到底昔日の比にあらざるなり、蓋局長能城氏は永く郵便事務に執掌して經驗に富み才氣縱横の人なれば此の欠如なき所以なるべし。

りと云ふ。

◎第七師團演習所 一千五百坪有餘の面積を有する同演習地は毎年五月より十月にかけて第七師團の魏蘇此地に駐屯し旺んに演習を爲す市街地附近に一大廠舎あり、尙在郷軍人團あり、團は明治四十年四月の設立にして、團長は陸軍三等主計正八位勳六等清水諒氏なり、團員六十餘名毎年定期に總會を開き、軍事上の講究を爲し居れりと聞く。

◎自治協會の組織 組織の旨趣は村將來の發達利益を圖り村民の福祉を増進せんと云ふにあり、明治四十一年四月の設立にして村内の有志七十有餘名のものよりなる會長は清水諒氏にして副會長幹事以下の役員は會長より囑托する事となり居れり尙同會綱領の重なるものは、自治問題の研究風俗の改善教育の普及、尙武思想の涵養、青年の夜學獎勵、農事思想の普及並に農會事業の補助公共事業に對し、功績顯著なるもの、表彰等なり、同會は美瑛村自治協會と稱し、本部は美瑛市街地にあり。

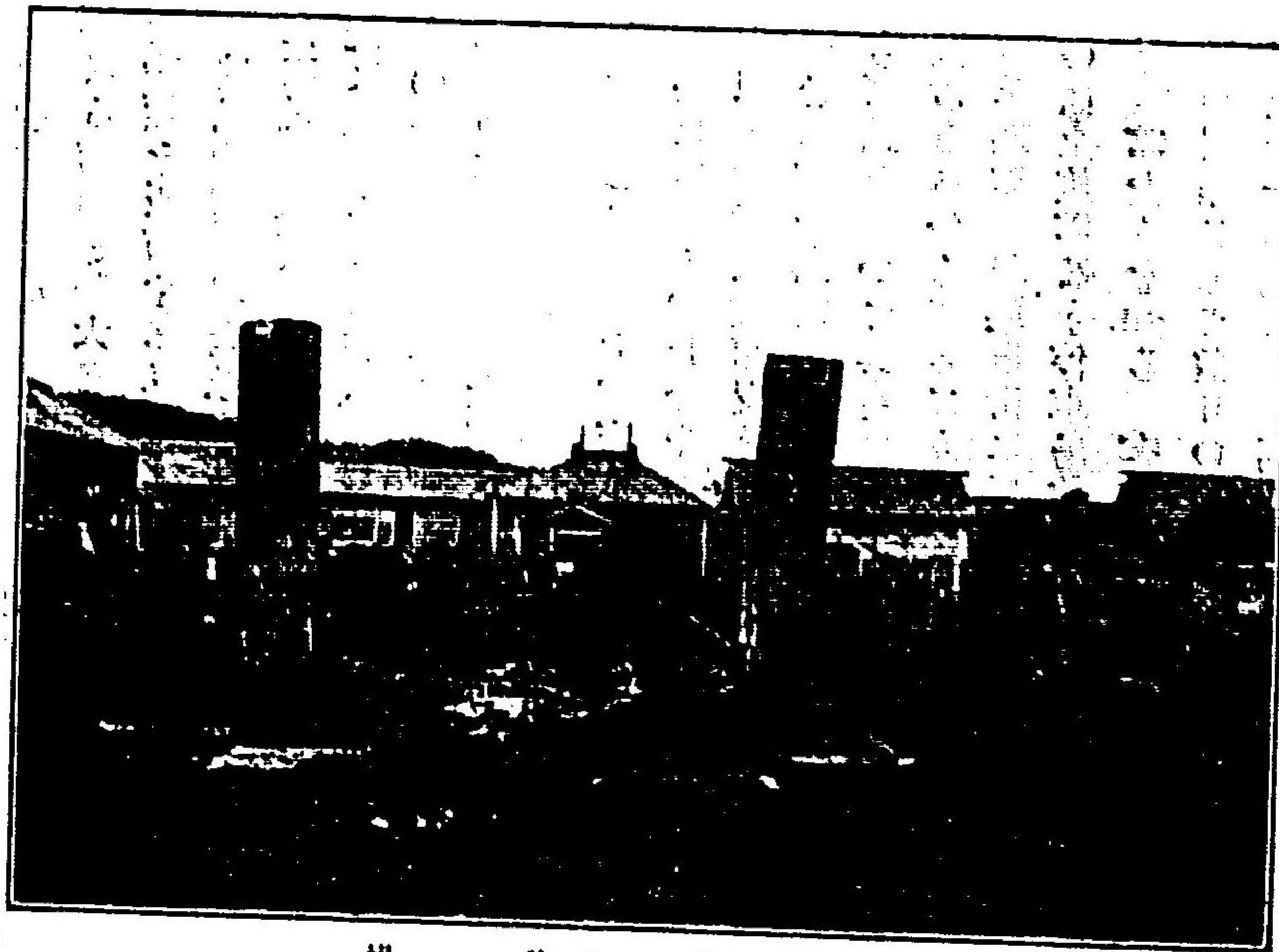
規模の廣大なると施設の完備せる点に於て本道牧場中藤野牧場の右に出づるは罕なり、馬主藤野四郎兵衛氏は元滋賀縣にして現今大坂北止中嶋に住す、牧場事務所は旭川町近文五線第一號に在り牧場は上川郡美瑛北見國網走釧路鹿路等にありて何れも樞要の地に廣大なる面積を占む、面積總計二千〇三十八万八千〇七坪にして、飼養の牧畜は牛七百二十三頭、馬數二百五十七頭、豚數五百八十九頭餘也、近文牧場の事務所は主として各牧場事務を統轄し傍ら直接近文牧場及養豚業を經營し併せて各牧場生産の畜類其他生産物の販賣を掌る毎年八月の交競賣其他隨時賣却の方法によりて販賣する畜類の頭數は牝牛七十牝牛百餘にして馬は牝牛合せて三十頭内外、豚は三百頭以上に及びべりと云ふ、旭川町八條通八丁口に在る牛乳搾取兼販賣所は同事務所の附屬なり、美瑛牧場は種畜及び乳牛の養成を目的として經營せるものにして明治三十六年種畜改良の目的により農商務省の委託販賣を請ひ、英國よりエーアシャイヤ種牝牛一頭牝牛二頭を輸入し翌三十七年札幌農學校産ホル



藤野牧場

六

スライム種を購入し爾來専ら改良蕃殖を謀り目下改良種數十頭の多きに達せり、又本場にては乳油を製し主として大坂方面に賣却するのみならず、其大地積を利用し泰西の大農法に則り嶄新の洋農具を使用し牧草の栽培及數十反歩の耕作を爲し傍ら牧馬の業をも兼ぬ、釧路牧場は主として肉牛及び挽馬養成の目的なり、三十八年種畜として農商務省よりヘレホルド種を下附せらる牧馬は目下種畜として乗農耕雜種を用ひつゝあり、網走牧場は目的及經營の方法畧ぼ美瑛牧場と相等し、殊に異なる點は風土の關係上本場が短角及ホルスタイン種の蕃殖甚だ良好なるを以て重きを是れに置き改良増殖を講じつゝあり、又牧馬は美瑛牧場以上の設備を爲して多數を飼養し主としてトロツター種の改良蕃殖を努め居れりと云ふ、以上各牧場互に特殊の目的を有し農事の改良牧草の栽培畜畜の改良増殖等に銳意盡瘁せられ着々偉効を奏す、是れ一に場主の資力充分なると卓識炯眼經營其宜しきを得たるとの故なるべし、現任總務は伊吹氏にして札幌農學校の出身にして俊秀の譽れあり。



田中牧場

七

九八印田中牧場は美瑛村にあり、明治卅六年の創設にかゝる、當初は牧場計畫のみ目的なりしに地味の膏沃は進んで農場經營をも爲すに至らしめ日下四十餘戸の小作人を入れ水田畑等の目的にて開耕しつゝあり、農場の全地域千町歩餘内已に百五十町歩餘は成墾せりと云ふ、牧場には馬五十餘頭を有す、中に凡種に超絶せる種牡二頭あり、一は洋種にして「美瑛號」と稱す、毛色黒鹿毛にして寸長五尺一寸餘を有す、一は雜種にして「北の錦」と號す是れ亦寸長五尺一寸餘、毛色は星鹿毛四本白なり、俱に絶世の優物として其名遠近に高く、良種を得んと欲して來り、交尾を請ふもの其幾干なるを知らず、尙外に洋種の優良なるもの五頭あり他は多く退却雜種なりと云ふ、農場俱に倍々整頓完備して九八印の名譽を表はる、場主田中龜夫氏は、兵庫縣播磨國の産なり、性眞摯にして漫りに聞達を求めず、日夜營々牧をとして、畜開墾の業に勤しむ、九八印田中農場が模範農場としての盛名を恣にする、蓋し近きにあらんなり。

○一の白田商店 美瑛停車場前の街角に在りて宏潤なる店舗と壯大なる倉庫を有し、呉服太物雜貨金物類を販賣するものと一の印白田商店とす、全店は品物精良現金懸直なしを以て評判高く、店主白田氏亦誠實律義の人にして、商取引の確實なる既に定評ありて何人も疑はざる處なり、近今全地方の開発と共に増々隆運に向ひつゝありと。

○九カ春日商店 全店は美瑛市街鐵道線路通りに在りて、米穀雜物雜貨類及び農産肥料を至極薄利を旨として販賣す、店主は春日定次郎氏にして、商略に富めり、氏今や齡漸く不惑にして専心誠實を以て本業に従事せり、美瑛市街の商人數多しと雖ども、一端豁然として大事を経営するの時に至らば氏を措いて其右に出づるもの蓋幾人あるかを疑ざるべからざるなり。

○美瑛館 美瑛市街にて旅館の開祖と稱すべきものは全旅館なり停車場前口抜の場所に在りて、一見旅館たるを知る、客室階上階下共十數間を有し眺望閑雅にして數日の旅費を散するに足る、店主は女鹿一八氏にして恬淡落落々の人、客に對する真

に有情親切なり、全氏は亦上富良野に温泉場を有し盛んに是れが經營を爲しつゝあり、目下浴客の宿泊するもの二三十人を下らずと聞く。

○丸文奈良岡旅館 美瑛市街にて旅館の第一位を占むるものを丸文旅館とす、全館は停車場前に在りて最近の改築を加へ、殊に二階客室の如きは特に數寄を凝らし、亦中庭等は美瑛の名産たる珍石を集め植木の排列圖に適ひ、全地第一の庭園たり店主奈良岡氏實直にして客に對する親切なれば營業の繁榮なる他の比にあらざるなり。

○村醫 美瑛村醫として全地方四千内外の生命を双肩に擔ひ、不時の疾病を治するものを醫士沼林重平氏とす、氏は茨城縣土浦の産にして最初東京にて本業に従事し、後三十九年十二月現在の地に聘せらる、爾來氏の手術に應じたるもの一として快癒せざるなきより、大に村内の信用を博しつゝありと、氏は年齒未だ少壯にして前途有爲の人として矚望せらる。

上富良野村

上富良野村は元富良野村と稱す、明治二十九年殖民地區劃選定成るや、三重團体開墾豫定地として許可せられ翌年四月始めて三重團体十八戸移住せり、是を本村移住者の嚆矢とし、亞て石川福井等各縣の團体續々移住し各所に点々散在して遂に部落を形成するに至れり、當時是等の移民は下富良野以南にも續々居住して數部落を爲せとも今日は分離して本村の區域外に属せり、現今の上富良野市街地の發達は、遂に他部落の發達に後れて近々三十四年七月の頃にあり、地勢は概して下富良野の如く川々たる廣野にして地味頗る青沃大農場數多接續せり、市街地は新、舊、中の三區に分る、戸數約千百餘人口約五千餘開墾されし田畑は水田百七十八町歩餘畑三千二百四十町歩あり

何れも盛に營業を斷續しつゝあり。

○村役場と學校 本村役場は舊市街地にあり、明治三十二年六月の創設にかゝる、當時の戸長は松浦高道氏にして筆生二名と共に村務を視る、三十四年松下氏神樂村に轉じてより、三浦和井内等の各戸長を經、現任村長草浦辨藏氏に至る、現時の役場は草浦氏以下収入役福屋新、書記下平森市、藤原松藏の諸氏外三名の雇書記あり、草浦氏村務を視る熱心、治績頗る譽れり。

○農牧場と工場 本村内の農牧場は總數二十二、中にも島津農場、本間農場最も盛なり本間牧場にては常に數十頭の牛馬を放牧し近年又外國種を輸入して種馬牛改良の大計畫を爲しつゝあり、工場には上富良野木工場、上富良野澱粉工場等ありて



空知郡上富良野村 上富良野木工場

挽材大販賣

空知郡上富良野村市街地

㊦ 上富良野木工場

十年一日と云ふがあれど、二十又餘年の間孜々として教育學田の耕耘に邁り、苟も疾病事故あるに非むば、未だ曾て職務を荒怠したる事なきものは上富良野尋常高等小學校校長兼訓導堀川勝三郎君となす、君は慶應元年

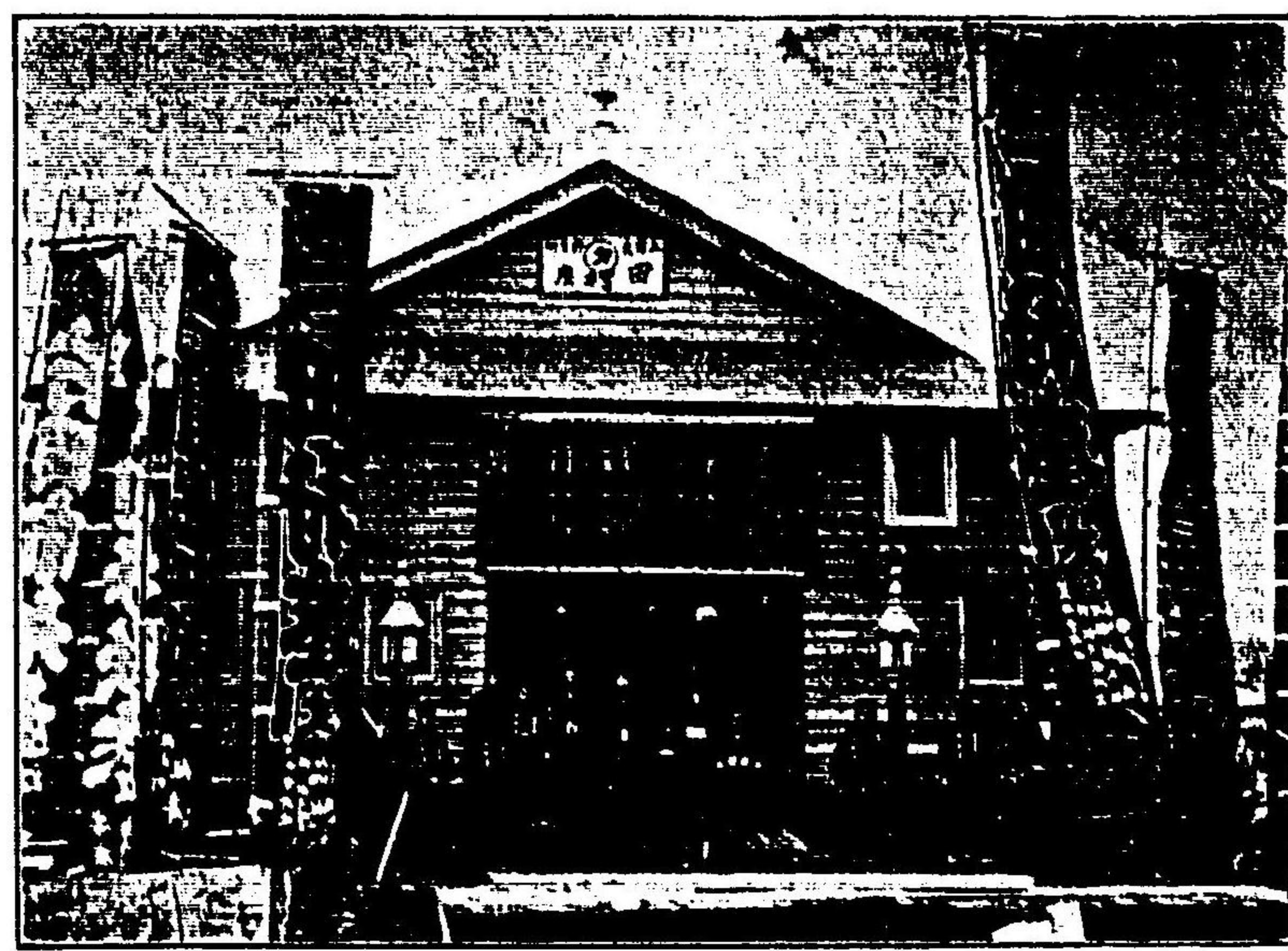


堀川勝三郎君

初月五日を以て福嶋縣相馬郡高平村に生る、郡の豪農士族堀川深志氏の從弟也幼にして父母に決る明治十五年相馬郡立原町青年學校の業を卒へ同年十月進んで福嶋縣師範學校に入學研學四年同十八年三月遂に同校を卒業す明治十八年三月信夫郡松川高等小學校五等訓導を拜命したるは君が校門を出て耕耘に従事したる最初の學田なりき、爾來二十有餘年敢て毀譽に關せず、聞達を覓めず齋々吃々として一學田の耕耘に任じ、縣教育の爲に貢獻したるの効決して抄じと

せず、同三十七年二月北海道に志向を命せられ、同年同月夕張郡山仁尋常高等小學校訓導兼校長に任せられ五級上俸を給與せらる、當時縣官の意や深く君の教育的材幹を信頼し、本道不蒙の學田を開墾せんの意志なりしや瞭かなり、同四十年十一月空知郡上富良野尋常高等小學校訓導兼校長に榮轉し現に其職にあり區内の令聞頗る高し、君は三男六女あり長女は已に郷閭富豪の善女となり今尙此地に在りて父と共に教育學田の農夫たり、長男二男は相俱に見習商業生として某商店に寄寓しつゝありと、君の教育意見は

往年一小冊子を物して學區の父兄に頒ちたるものによりて其一般を窮ふ可き也、君が始て郷里福嶋縣に教鞭を把りて以來喪禍を更ふる二十有三回、君の如きは眞に教育學田の農夫と謂つ可き也。



座村田場劇 地街市野長富上郡知空

十勝線上富良野市街地

田村座

亭主 田村熊太郎

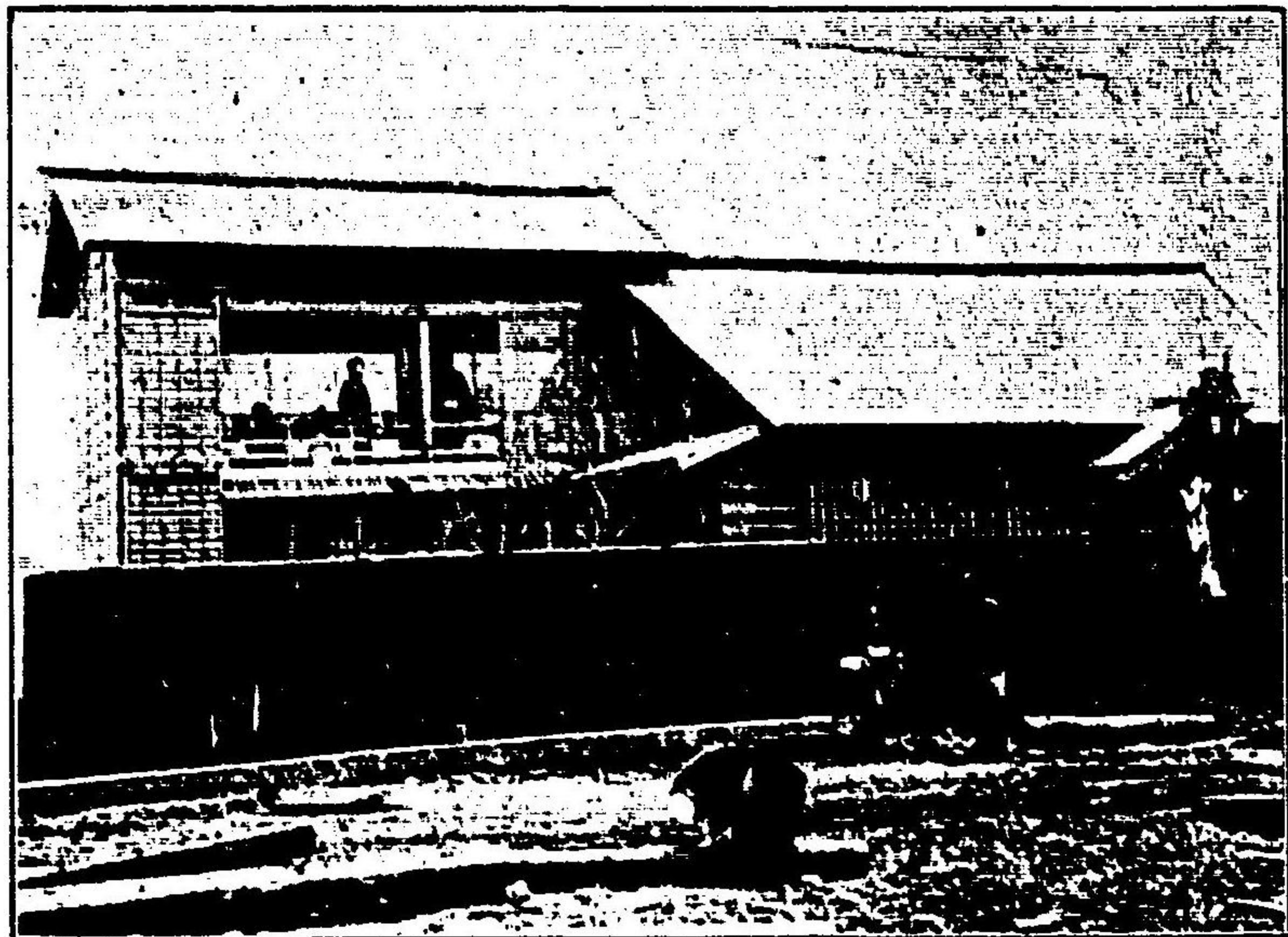
◎上富良野木工場 同工場は上富良野停車場を距る南方約二町許のヶ所に在りて、空に聳ゆる烟筒は黒烟常に騰々たり、明治四十年十一月三日天長の佳節を卜して開業の式を挙げたり、全工場は西川齋藤兩氏の經營に係はるものにして、十八馬力の蒸氣機を据付け、一日約八十石餘の精良なる製材を爲すと云ふ、當時木材界は一般の不振にて何れも幾分の打撃を被らざるなきも獨り全工場は富良野地方木材原料の饒多なるを經營方針確實なるに依り、些の影響を受くるなく増々順境に進みつゝあり。

◎丸八下村商店 上富良野新市街にて荒物と洋酒乾物瀬戸物小間物商の大なるものを丸八下村商店とす、全店は四十年の開業にして日未だ淺しと雖ども店主下村留次郎氏は嚮きに小樽港に在り巨大の營業に従事し商界縦横才氣拔群の人なれば、今日の隆盛なる敢て偶然ならざる也、蓋全氏は上富良野市街一局部の商家として小天地に踞踏せんより遡る北海の中央商界に活躍するの器也。

に在り、明治三十二年鐵道開通當時の創業にして當地運送業の開祖なり、店主は境柳助氏にして地方有爲の徳望家として一般の信頼する處なれば業務も常に頻繁にして四六時中殆んど寸暇なき程なり、境氏は資性快活明敏にして能く事理に通曉し村治其他の公共に付ては自ら率先して盡瘁せらるる也。

◎井桁カ印森川運送店 全店は明治三十五年の開業にして全地材木商を以て名ある森川房吉氏の二男力太郎氏の經營せる處なり、日下全地にて運送業として境運送店と相拮抗して勉強せるものは蓋全運送店なるべし、店主力太郎氏未だ少壯なれども氣骨古參を凌ぐの概あり、業務に熱心にして亦義氣あり、意ふに全店主茲に獨立經營するに至りしは特に爲す處あらんとするなるべし。

◎丸大越後屋 上富良野新市街にて呉服太物其他和洋小間物萬金物類を尤も薄利を旨として販賣するものを丸大越後屋商店とす、同店は市街の中央にありて物品精良加ふるに嶄新の珍柄等を陳列して顧客の需めに應ずるを以て店頭常に人の群を爲



空知郡上富良野市街地 山一萬心亭

十勝線

十四

即御料理

十勝線上富良野市街地

萬一心亭

牧畜業

上富良野畜産組合

理事 山中龜吉

し其盛況なること他に比類なき處なり。

◎丸コ是安運送店 上富良野新市街にて材木商兼運送店を営むものを丸コ是安運送店とす店主録作氏は元峯延地方にて盛んに荒物商に従事し傍はら木材業を営みしが此地に來りて現業を創立せしものなり、店主資性洒落にして事に躊躇せず、眞に少壯有爲の士なり。

◎森川旅館 上富良野旅館中第一位を以て名あるものを森川旅館とす、客室清麗、風緻閑雅にして地方としては稀れに見る處なり、殊に食膳の美味なるは全館の得意とする處なり、店主は森川房吉氏の長男にして頗ぶる剛毅の人なりと云ふ。

◎九一山本旅館 上富良野停車場より一目して其旅館たるを知るものを九一旅館とす、全館は最近の新築二階屋にして眺望に富み、春夏候の宿泊には頗る適當なり、客室潤大清潔にして佳肴食膳に満てり、女將亦快活にして親切可憐なり、店主山本氏は、常に木材業に従事し非凡の辣腕ありと云ふ。

◎朝日堂時計店 全店は四十一年九月の開業にし

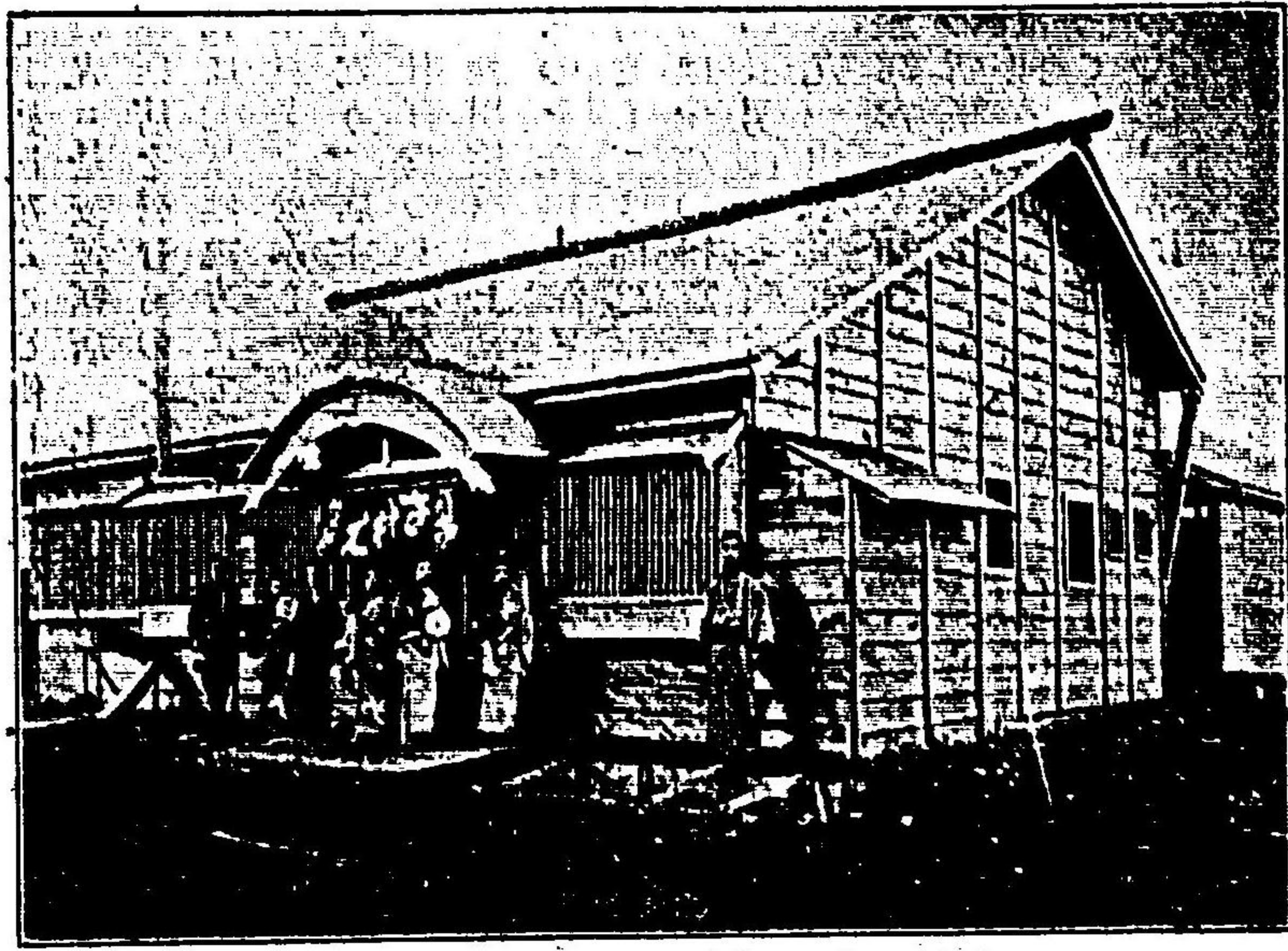
十勝線

十五

て停車場前に在り、時計販賣修繕を主とし傍はら新式寫眞機を以て寫眞撮影の特別大勉強を爲せり店主長谷藤十郎氏は活潑有爲の青年なれば營業の發展も迅速にて今や駁々として隆盛の氣運に向へり。

◎劇場田村座 上富良野市街唯一の娛樂所として田村劇場あり、停車場を距る二町餘にして新市街目抜の地点なり、宏壯潤大なる建築物は屹然として市街の一角を蔽ひ鼓笛の劉曉琴々たる音は躍如として老弱男女の快哉を叫ばしむ、座主田村氏は俠骨凌々の聞か高くされと近今粗暴過激以て俠客と誤任するの輩と同一視すべきにあらず、尙氏は副業として料理店を營めりと云ふ。

◎九吉料理店 全店は上富良野新市街停車場前に在り、四十一年十月の新築にして室内総へて装置を凝らし一席以て積鬱を散するに足る、店主は森傳吉氏にして舊市街に九州床を兼業せり、氏元來一轍剛毅の俠客として、其名遠近に聞かしが今や大に考ふる處ありてか主として心を理髮業に傾け着々隆運に向へり。



空知郡上富良野市街地 丸森伊勢支店

十 四 編

十 六

即 御 料 理 席

十勝線上富良野市街地

力 森伊勢屋支店

加藤 肆

店主 大塚政吉

◎山萬印一心亭料理店 上富良野料理店中四六時中絃歌の聲湧くが如く、遊治郎をして轉た羨望に誘へざらしむるものを山萬一心亭とす、全亭は山村劇場の向ひに在りて料理高尚にして客に對する丁寧なり、店主は山中龜吉氏にして義氣に富み常に強を挫き弱を助くるを以て心とす、亦全氏は地方牧畜組合の理事として大に畜産業の奨励を爲し是れが改良發達に力めつゝありと云ふ。

◎丸カ印料理店 全店は森伊勢深川支店として、大塚政吉氏店主たり上富良野料理店中丸吉山萬と相併立して盛況を極む、料理の珍味にして即席輕便なるは全店の得意なり、店主大塚氏亦俠客として地方に名あり、開業せしは最近の事なり。

◎待合ヨカロー 二十世紀流の待合を以て名あるものを上富良野停車場前待合ヨカローとす、全待合は最近の開業なるも、調理輕便にして價廉なるを以て好評あり。

◎成瀬醫院 全醫院は上富良野市街に在り四十年四月の開業なり、院長は二等軍醫成瀬幸一氏にして東京慈惠醫院醫學校の出身なり、日露戰役中

十 四 編

第十七師團に屬して戦地に在り、凱旋後全地に開業せしものなり。

◎丸ウ隅田商店 中富良野市街にて吳服太物米穀荒物商の大なるものを隅田商店とす、全店は三十四年の開業にして店主は隅田宇松氏なり、氏は全市街有爲の人物にして商業亦機敏なりと云ふ。

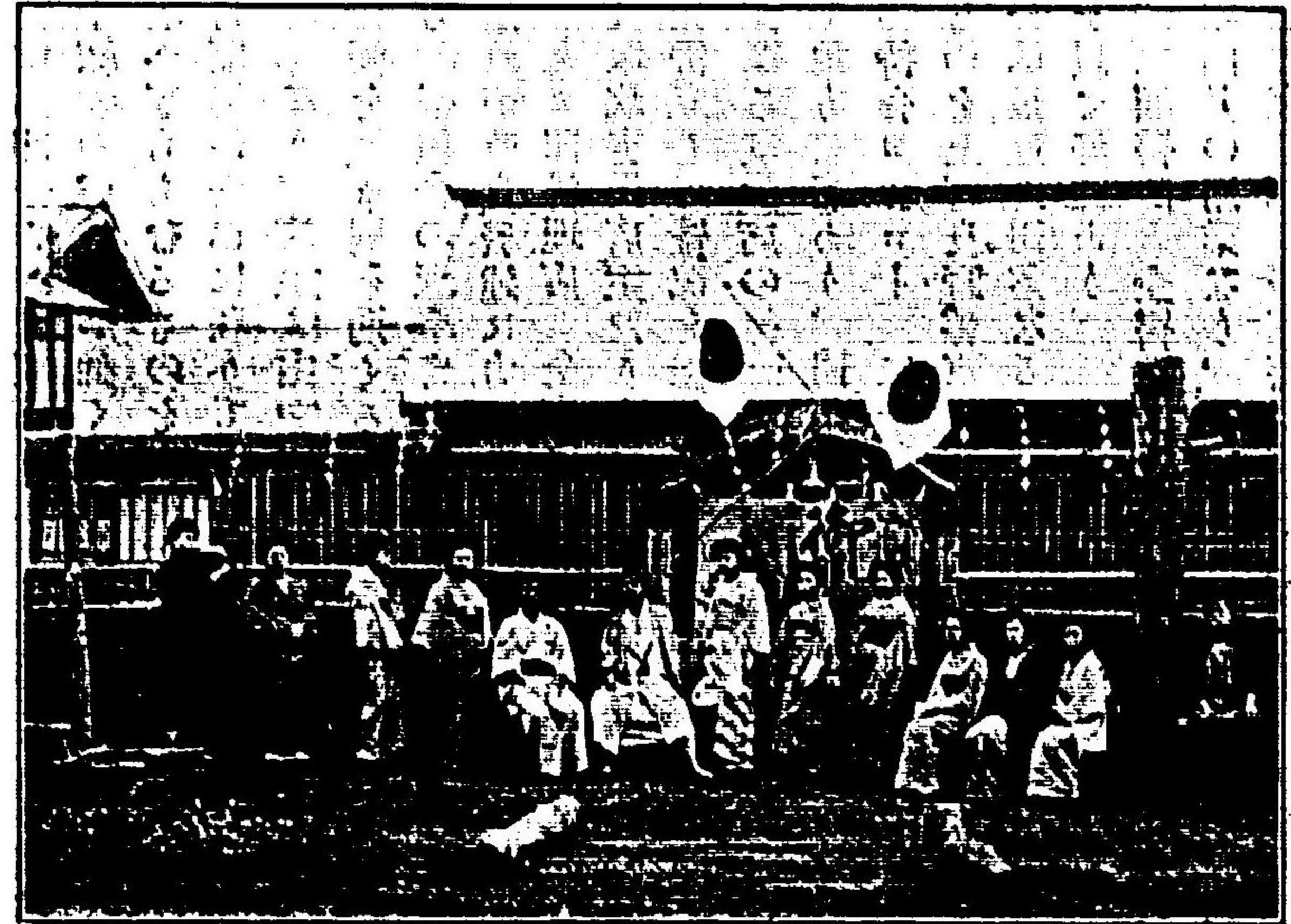
◎丸市大野商店 全店は中富良野停車場前に在りて米穀雜貨荒物類を販賣するの外待合所を設けて盛んに其業に當れり、店主は大野藤太郎氏にして茨城縣江戸崎町の人、快活明敏にして又徳望家たり。

◎丸カ加藤運送店 中富良野停車場前にて運送業を獨占せるを加藤運送店とす、全店は三十三年の開業にして店主は加藤源太郎氏なり、貨物の取扱ひ確實にして迅速なるの好評あり。

◎丸山鐵工場 中富良野市街にて鐵工場の有名なものを奥山工場とす、農具一切打刃物の銘産たり。

◎丸吉旅館 全館は中富良野市街地唯一の旅館にして待合所を兼ね店業増々盛況なり。

十 七



空知郡上富良野市街地 丸吉森料理店

下 野 場

十八

即 御 料 理 席

十勝線上富良野市街地

吉 森 料 理 店

九 洲 床

森 傳 吉



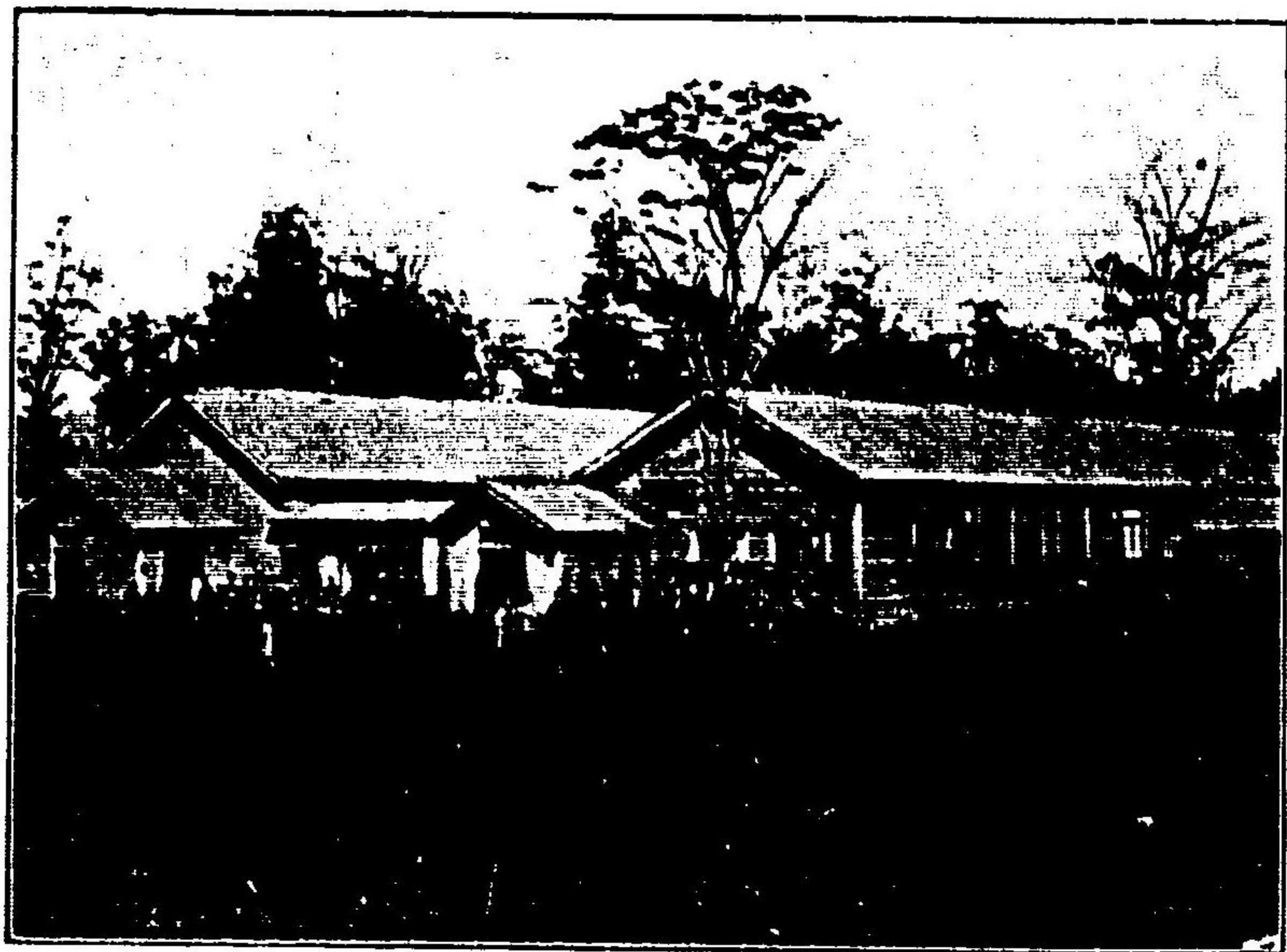
下 野 村 村 長 役 場

下 野 場

十九

下 富 良 野 村

東西八里南北十六里餘、日高國の一部に跨り約二十五方里の大而積を有する本村は殆ど全道の中央部にあり、源を落合に發したる「モソリクンエオ・ナイ川」と空知川とは相俱に坦々たる比空知大平原の中央を貫流す、土地率ね肥沃にして農耕牧畜に適す、同村は明治三十二年六月空知郡歌志内より分離して富良野村戸長役場の所轄となる、當時移住民も尠なく鬱蒼たる森林は熊熊の住むに委かせ敢て又鋤犁開拓の事に従ふものなし、明治三十年札幌農學校の學田地の設定さるゝや、熊本縣人瀬口庄太郎氏なるもの始めて此地に移住す、爾來移住者續々踵を接して來り、三十三年十二月鐵道の開通以來移住者俄かに増加し來り、遂に今日の繁榮を見るに至れり、明治三十六年七月、富良野の一部を削いて下富良野と稱す、是れより本村は獨立經營の域に入れり、當時已に戸數八百四十四戸人口千百餘に及び爾來駁々として戸數を増し人口を加へ現今に於ては戸數二千餘人口六千餘を見るに至り農業工業俱に盛むに商業亦頗る振へり



下 宮 野 常 高 等 小 學 校

十 勝 縣

二十

◎公衙農場工場 本村役場は明治三十六年九月宮野村より分離して以來勇拂郡占冠を割て當役場區域と爲し四十一年四月東南の一部金山以東を割て南宮野役場を置き以今日に及べり現任戸長は花里壽氏にして事務に精通して令聞あり、旭川警察署巡查部長派出所、林務員駐在所、札幌農學校用地管理所、東京農科大學林出張所、遠藤精穀木工場、富良野産業株式會社、鐵工場、軸木製造所、筑後牧場、札幌農科大學農場、本間農牧場等あり本野牧場には種牛馬四十餘頭を飼育し種類の改良飼育の方法等を講じ、斯業の公益に資しつゝありと云ふ。

◎小學校 下宮野郡尋常高等小學校及び布禮別教育所、烏沼教育所等にして、全小學校は明治三十五年六月下宮野市街簡易教育所として誕生せしを最初とす、當時村有志として教育所設置に盡力せられたるものは、加茂勇之丞清水運吉其他二三の諸氏にして、教員には藤本安麿氏其任に當り児童僅かに四十七人なりき、其後三十七年三月尋常小學校に變更し三十八年七月尋常高等併置修

業年限ニシテ年の認可を得、全三十九年十二月更に四ヶ年程度の認可を得るに至れり、校舍の改築及び増築は三十七年以來地方の人口増殖と共に年々歳々にて現在總坪數は二百六十坪の大建物たるを見る、在學児童は尋常高等男女合せて三百九十八名にして職員は校長以下六名内男四名女二名なり現任校長榎本東一氏は濃厚篤實の士にして貴類に阿らず、名利に走らず、眞に師表として尊重すべきの良校長たり、職員一同亦慎重にして責務を全ふするに汲々たりと、而して布禮別教育所は本間牧場簡易教育所の改稱にして、三十八年の創立になり、烏沼教育所は舊中宮野教育所の改稱せられたるものなりと云ふ。

◎郵便局 下宮野郵便局は全市街の中央にして停車場を距る四五丁の處に在り、全局は明治三十三年七月の開局なるも當時全村開拓の最初にて局舎に充つべき相當の家屋なかりしより、現任局長河村康次郎氏土人を使役して荆棘の地を拓き辛ふして局舎を建設し、漸く其の緒に着くを得たり、されば此時に於ては山部金山地方に至るべき鐵道

十 勝 縣

二十一

なかりし爲め、金山驛に達する七里間の遞送とは一ト方ならぬ困難を嘗めたりと、然るに昨年九月十勝線の鋼路まで全通するや全地方は一大長足の發展を祝るに至れり、蓋下宮野地方が麓に落合驛まで鐵路の通じたる當時の状況と現今の状況とを比較すれば農上の点に於ては多大の差なきもの、如くなるも、所謂交通機關の設備せる今日に於ては商取引の繁榮と郵便電信事務の頻繁なる局務を十年一日の如く其の務に當りたる局長河村康次郎氏は付つて東旭川屯田兵として快活勇壯の人なりしが歸つて此煩瑣なる局務に孜々とする功勞こそ眞に偉且つ大なりと云ふべし、氏は又愛國義膽の士として常に岡村の尊敬する處となる。

◎寺院と醫士 寺院として本願寺派興仁寺あり院主は藤本四織師なり、説教所としては大谷派一ヶ所其他一ヶ所全村山部に二ヶ所あり醫院は執行醫院渡邊醫院其他二ヶ所あり就中執行醫院尤も盛大にして手術に巧なり、獸醫としては獨り高柳長四郎氏あるのみにて其名嚇々たり。

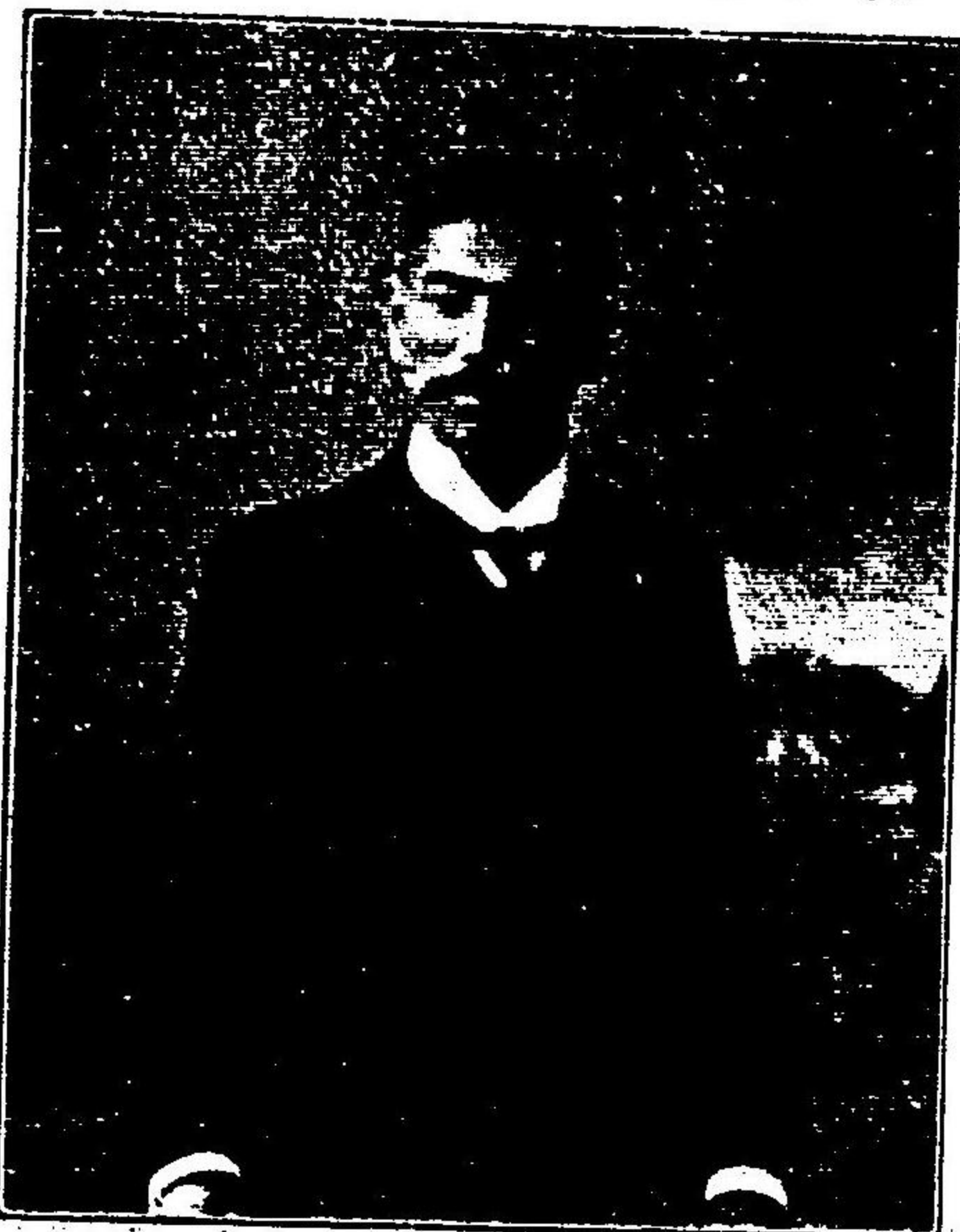
君舊姓小澤氏、明治三十五年養父豊七氏の女婿と爲り、始て本間の姓とす。明治四年長野縣長野市に生る、性温雅にして沈毅而も敏捷にして事業の方に長ず、人と接するに敢て城府を設けず、温順よく人に對す、幼にし、村校に學び少壯時務を解するに及びて北門開拓の雄志勃々禁する能はず遂に意を決して孤劍單身飄然として木道に來航す、明治二十八年札幌道山監督署に奉職し後ち道廳に轉ず勤績數年精勤の譽れ敏腕の評應内に普ねし、君の敏捷にして豊富なる才識の方は當時已に若々として事業の上に表はれ人をして感佩措く能はざらしむるものあり、養父豊七氏特に君の才幹を信頼し擡び出して自家の經營の演進漁業組合の書記を托し委するに組合經營の重任を以てす、君の



本 間 十 一 君

温厚にして敏腕なる行く處として人に信頼せられざるは莫く遂に養父豊七氏をして嫁はすに愛婿を以てし本間の姓を肩かさしむるに至りぬ、三十七年養父の命により本間牧場の管理人と爲り、傍ら上富良野市街宅地附近殘區割占方面の廣大なる地積の貸付を受け、爾來屹々慈々農牧場の劃策經營に奮勵し、遂に富良野の重鎮として覇を一方に稱するの勢力を占むるに至れり、本間牧場は三十三年の貸付にして上富良野村より下富良野村に跨り廣大なる面積を有し立木の豊富なる年々伐採搬出高約數万石に達し牧畜頭數三四百に及び小作人六十餘戸小學校の設あり今日富良野の本間牧場が附近に於ける大農場として模範農場として好評ある以所、一に本間十一氏の幹旋盡力の里ならずとせず偉なる哉君の功や。

君襟胸洒落、豁然として霽月光風の如し、形骸を土木視し弊衣粗帽敢て又邊服を修めず、一見野人の如く書生の如し而も才藻富麗機界縦横、以大事を托するの器也明治卅年孤劍飄然始て本道に渡り普ねく各地と通序して農狀を視察し遂に居を石狩國當別村に卜し宇中小屋沼北に荒蕪地十二町五反歩を買入れたり此地肥沃なるも濕地にして畑に適せず水田と爲んか又用水の途無きを奈何せん然るに君の聰明なる斷乎として遂に水田開拓の企畫を爲す四隣皆是を嗤ふ、君乃ち貯水池の設計を爲し同地の山間二万二千坪の使用を出願したり道廳は是を異例となし許可を與へざりき然に君の機界の縦横なる數奇を盡くして前後七回同一願意を斷續し遂に其容る所と爲り乃ち同山間に二大沼を



本 間 太 郎 君

開墾し部落一團に用水引用の便を得たり同地の水田の大に見るべき者あるは一に君の恩恵ならずとせず君訓へらく農村の發展を期せんと欲せば先以て農民の頭腦を開振せざる可すと乃ち學校を創設し又神社佛閣を建立し教育の普及を圖ると同時に一方移民永住の計を爲す爾來村農會評議員に水利組合委員長及村總代として前後四回今其任に在りて村治の爲大に力を致す卅四年下富良野市街宅地卅八戸分を購入して一時に是を成功せしめ中富良野幾箇の兩地に木材米穀荒物店を數多開業して盛に業を營む君又兩三年前が本道拓殖會社の設立を企て東京の辻新次北陸の矢後岩井島田等の諸名士に謀り、遂に其意を達す北海道拓殖株式會社なるもの則ち是なり、嗚呼君の才藻機略將來果して如何なる大事をか爲んとする

商業の目的を以て下富良野に移住したるもの、中最も古きものを下富良野精製場々主遠藤徳三郎君と爲す、君は明治二年八月を以て香川県大川郡鳴邊中筋村に生る、家代々砂糖製造を以て業と爲す、明治二十八年の職役起るや君は身軍籍にありの故を以て召され、第五師團騎兵第五大隊に在り、代々の糖業も是が爲に挫折せり、役了へて歸郷すれば家業已に蹉跌して如何ともする山なく、然意を決して遂に本道に移住せり、空知清真布に於て經營したる農場は君が渡道後第一の事業なり、君の卓見偶下富良野原野の將來有望なるを認め、三十二年更に下富良野に移轉し、此地に於て一商店を開設す是實に下富良野に於ける商賈の嚆矢とす、明治三十七八年の役起りや、君亦召集せられ



遠藤 徳三郎 君

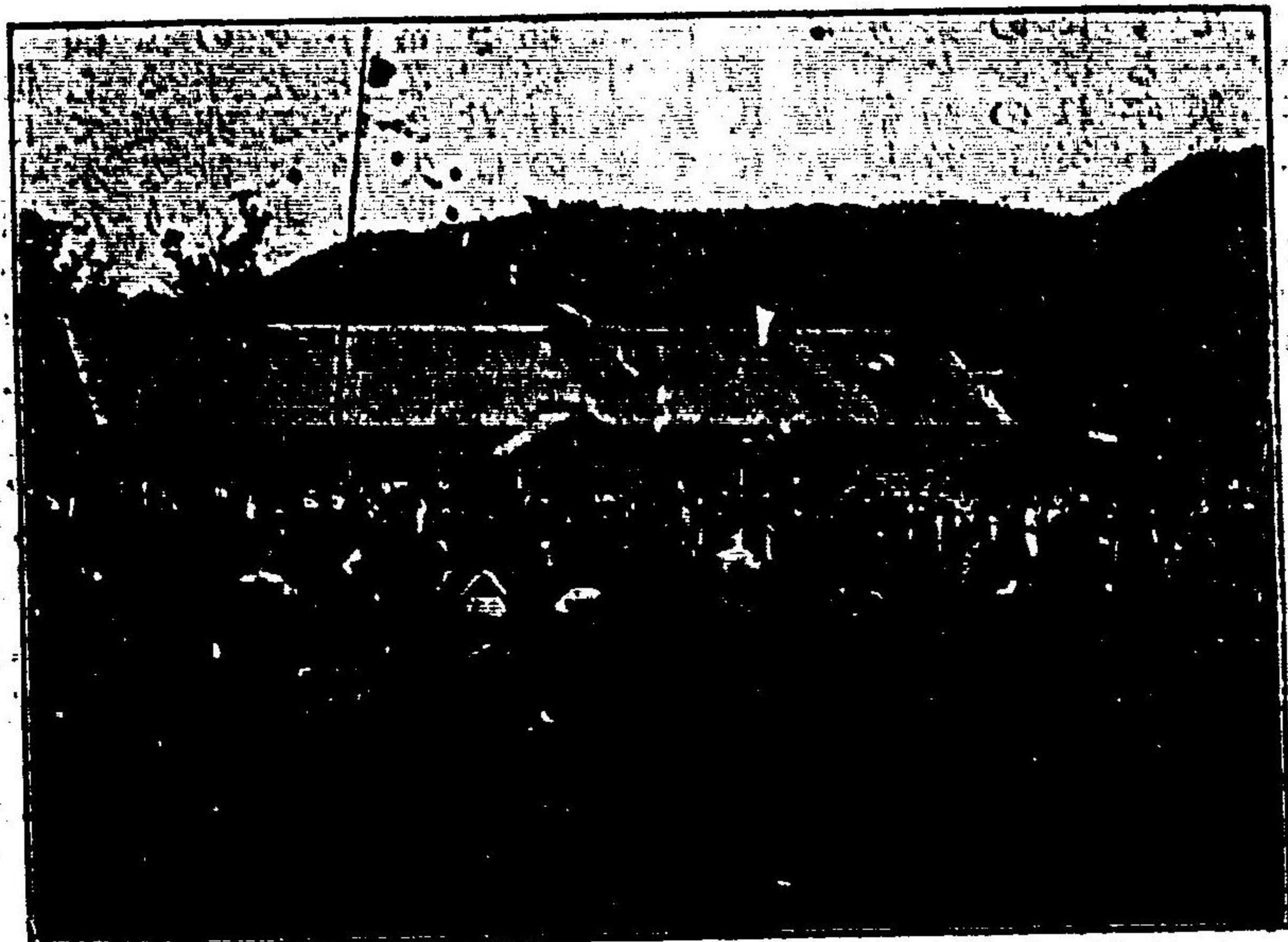
て戦地に向ふ婦和成り歸休するや否や倍々意志の貫徹に奮勵し遂に三、五の同志と協力奔走して木挽工場創設の計畫を爲し、四十年五月遂に富良野産業株式會社なるものを創設し君選ばれて専務取締役となる此歳會社の事業は豫期以上の好成績を收めたり是れ一に君の手腕の與つて力ありしに由る、同年七月第三期決算報告の總會終了を機とし滿期辞任し更に亦同會社の監査役たり君會社の専務取締役を辞するや獨力を以て精製製粉挽材の兼營工場を設け、蒸氣の動力を用ひて廣むに是れが販賣並に貸掛貸枕等の依頼に應じつゝあり、君の如きは眞に實業家の器と謂ふべき也、願ふ君の事業の行程は頗る多難なりき而も遂に能く今日の成效を見る君も亦堅忍不拔の士なる哉。

世に七顛八起と云ふかあれど、吾は是を逆に八顛して未だ七起せざるものなりとは、居常君の唱ふる處なり、嗚呼君は八顛して未だ七起せざるもの乎非歟、开は兎に角君が半生の行路は決して坦々たるに非ざりき、君の半生の歴史は確かに浮沈常なき失敗史に過ぎざりき、君は兵庫縣淡路三原郡倭村の出身にして明治二十年始て本道に渡り巴港に於て商業見習の爲め一商店に丁稚的奉公に苦心慘憺たる事七星霜故ありて郷里に歸り以て酒造業を開始す、天運未だ君の身の上に假さず一敗地に塗れ又起つ能はずなりぬ、爾來失意の境に苦吟する年あり遂に又再び本道に渡り夕張郡由仁に於て一製糖事業を開始す、事業亦振はず遂に閉鎖の止むなきに至りぬ、天運倍々非也三十四年十二月



加藤 増次郎 君

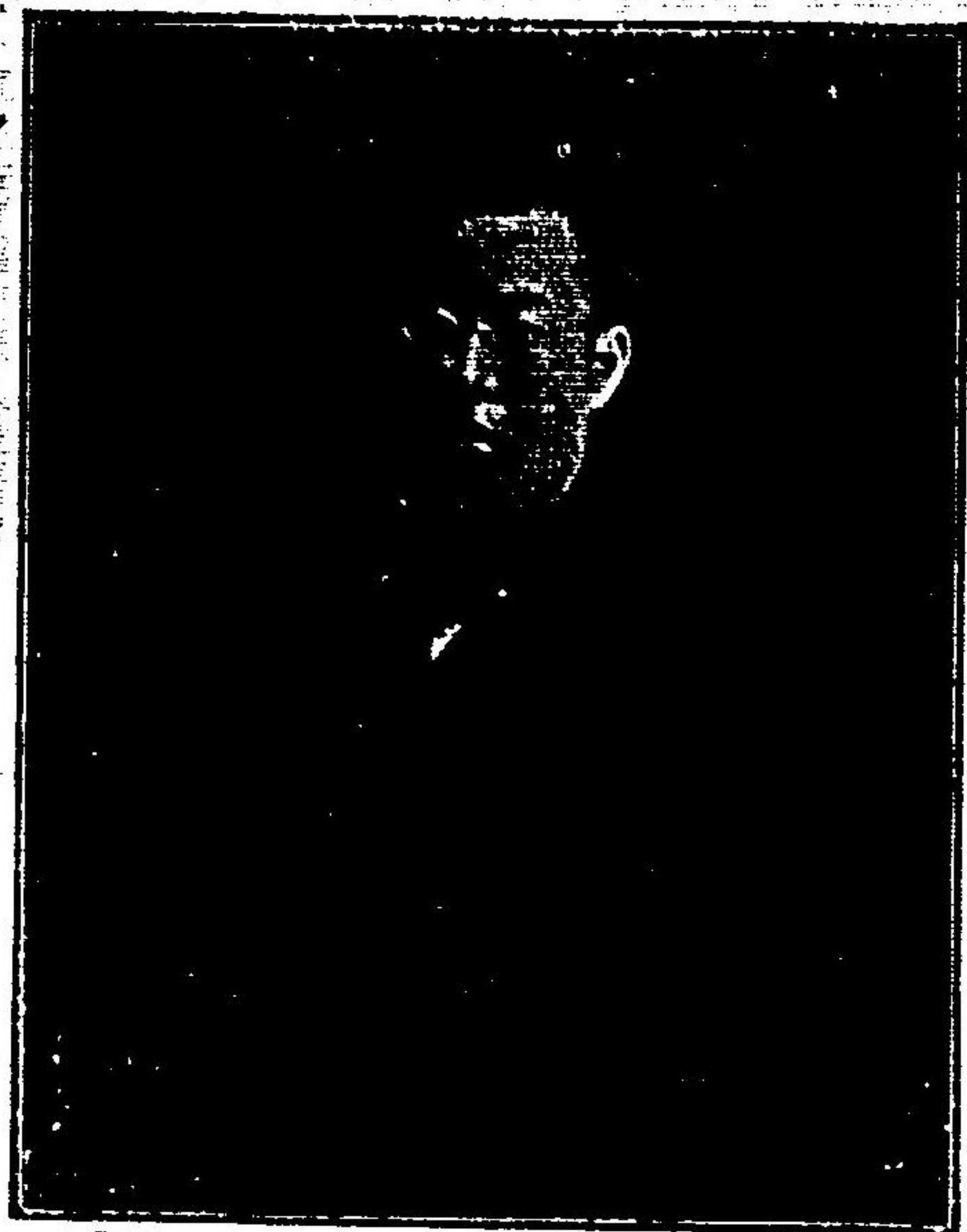
下富良野に來り木材業の有望なるを視て更に一木材商賈を開業す是より天運日々に革まりて家運亦日と共に進み月と共に歩む、會て富良野産業株式會社の爲るや、君擧げられて監査役となり令聞高く又四隣木材商間に録々の名あり君が半生の歴史は然かく浮沈に富めり古人の天の將に大任を下さんとするや必ず先づ其身志を苦ましむと願ふに君の半生の失敗は即ち天君に負ふ處ありて果して能く其大任の負荷に堪ふるの器なるや否やを試たるの故乎、君にして若し區々の成效に満足するの士ならしめば世の離離たる士は必や今日の地位と成效とを以て満足せざる可らず然るに君の器の大なる今尙常に八顛七起を曰ふ天能く人を視るの明ありと謂つ可き也、年齒四十、慶應元年を以て呱呱の聲を擧ぐ。



山 部 尋 常 小 学 校

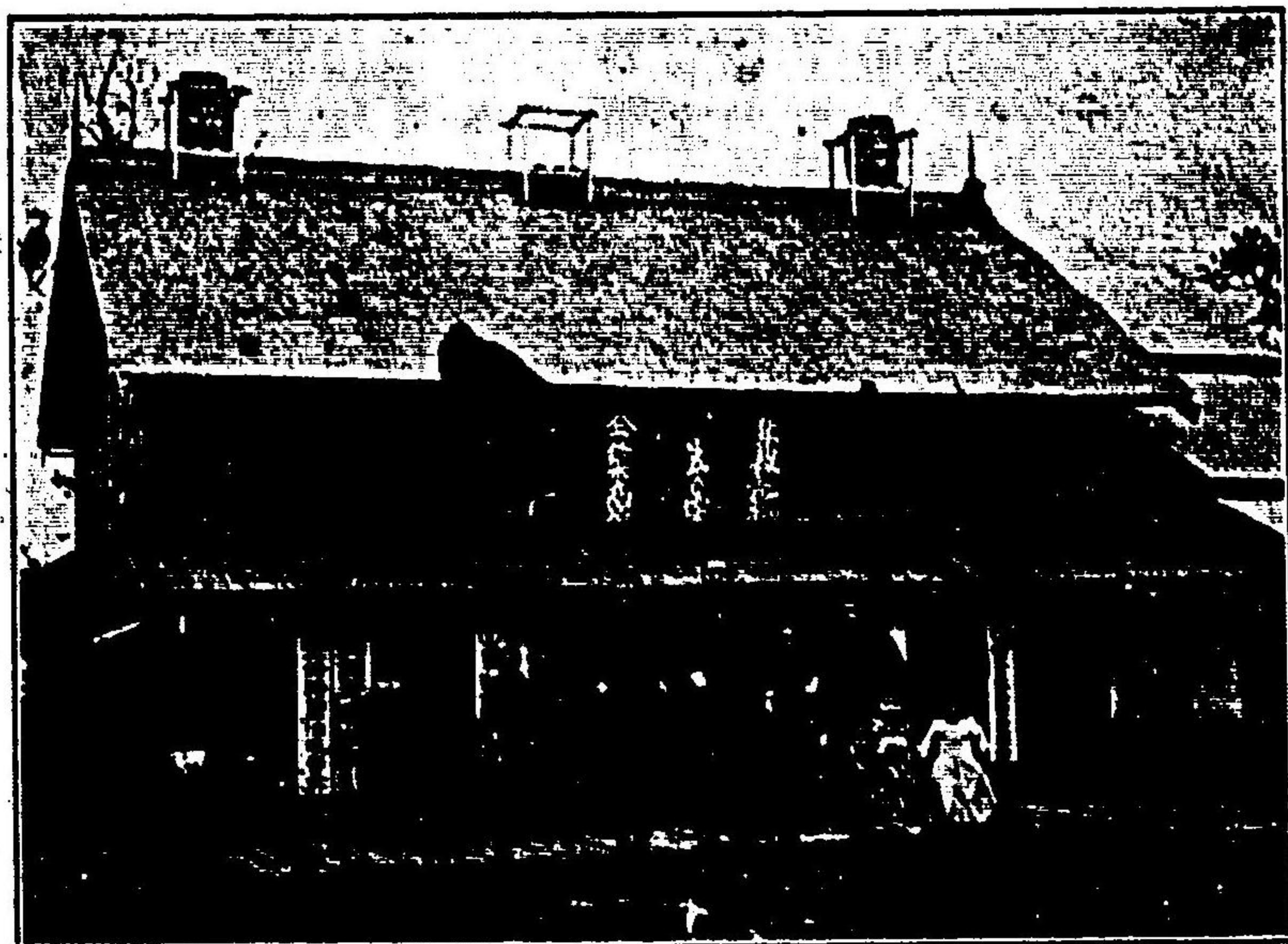
○山部は現在戸數五百七十有餘人口二千三百餘の一大部落にして下宮良野村戸長役場の所轄に屬し内市街は停車場附近にて戸數九十三人口約四百を有し比較的盛況の一驛とす、全所は去る二十九年十一月東北帝國大學第八農場を置かれ是れと全時に一千八万坪の大地積を全校維持資金として充てられ、尙三十二年十月全百三十二万七百十五坪の地を割與し昨四十年十二月の現在にて成功畑地八百六十七反七畝歩を見るに至れり、全村學校は明治三十七年十二月初めて簡易教育所を設け三十九年二月尋常小學校と變更するの機運に接したり當時の校長は、福澤豊吉氏なりしが今年三月小林傳三郎氏其後任となり幾干もなく伊藤喜八郎氏其後を襲ふて現に其任にあり、目下の在學兒童は百三十八名にして校長以下二名の職員を以て是れを教授す、出席歩合の如きは男九分五厘女八分五厘の割合にて成績優等と稱する能はざるも僻村遠隔の一農村としては比較的良好なりと云ふべし、校長伊藤氏年齒少壯血氣壯むなるも而も著實謙遜にして熱誠の士なりと。

君は夙に「ピソナス」の材能に饒めるの人なりき君の頭腦は絶へず高尚なる職分的觀念に由りて左右せられたりき、ホルクの所謂社會は共同營業にして各人は其店員也、而して之等店員は各自分業の法に従つて眞面目勤勉に店舗の幸福利益の爲めに奮勵するものこそ眞に立派なる人なり一小雜貨店を開いても正しき品物を廉價に販賣して村人の利便を圖るを得ば、大臣參議の高位に居りて其職務を荒廢するの人に勝れる事數等なりとは君の常に人に向つて語れる處なりき、寔に君は職分の觀念に充溢せるの人なり、公的思想に充滿せるの人なり、三十三年五月下宮良野村山部に移住し同地に雜貨店を開き品質を堅くし廉價を旨とし、大に一般移住者の便を圖り、間接に開拓事業を裨益し



柴 田 一 郎 君

たるの功蓋し翦少にあらず、三十七年十二月簡易教育所設置せられ、全三十九年二月増築工事成り同時に山部尋常小學校と改稱せらるゝに至る一に是れ君外數名の士の斡旋盡力に依れりと云ふ、四十年四月市街地の新區劃を爲すに當り君村發展の爲めに寢食を忘れて奔走盡瘁して効多し是れ村民の齊しく認める所也、君此地に移住して以來歳を關する事九年其間村の名譽職として一商店主として、陰に陽に村の幸福利益を増進せられたる寔に枚舉に遑あらず、嗚呼君の如きは、ホルクの所謂社會共同營業の觀念、高尚なる職分的觀念を抱持して、眞に是れが實踐に勉められたるの人なり、君の所謂立派なるの人なり宜なり一村の重鎮として郷黨の尊仰を受けつゝある事也。



空知郡下富良野市街地 山二鈴木商店

米穀荒物商店部

牛乳搾取販賣部

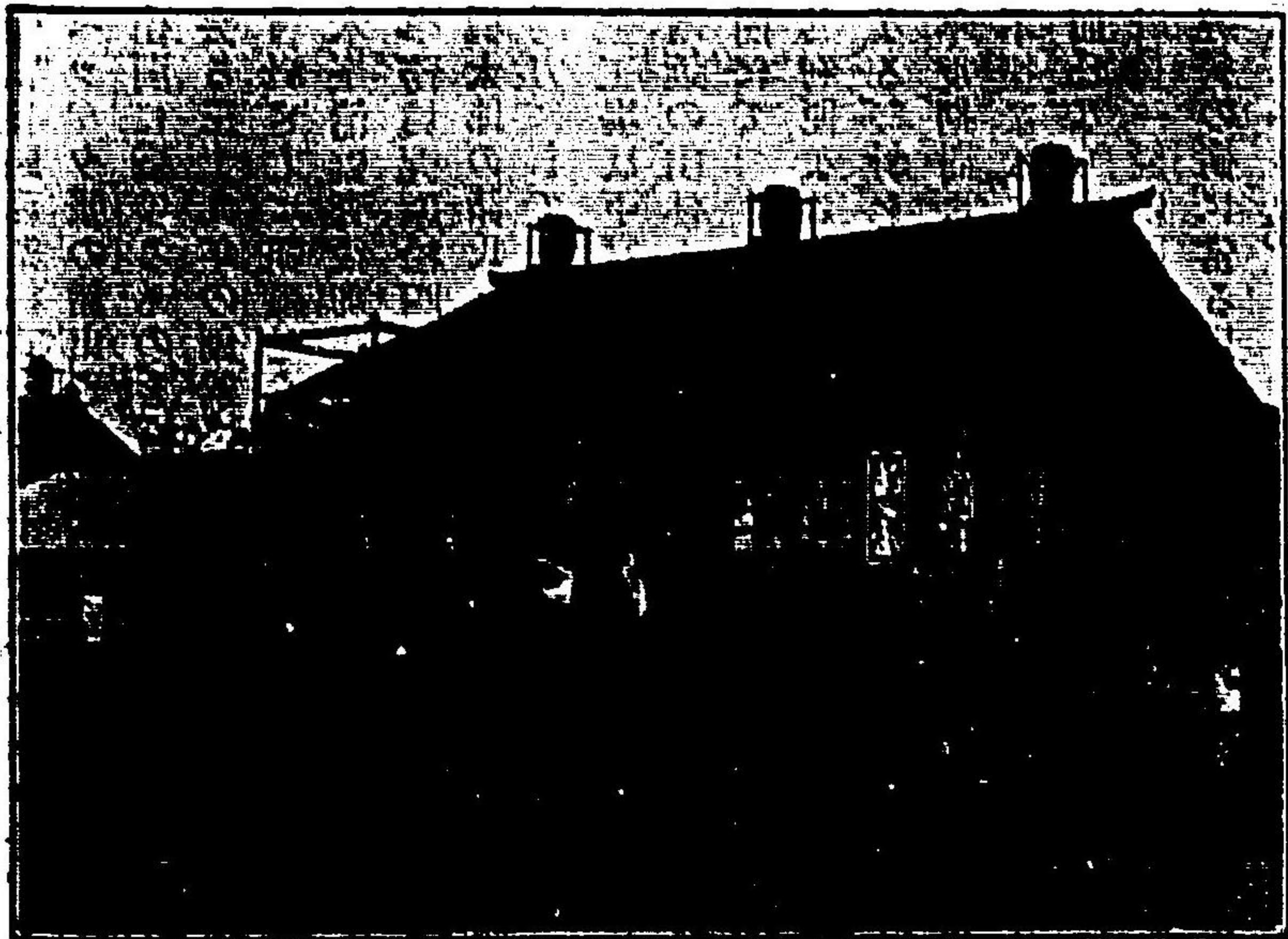
空知郡下富良野市街地

三 鈴 木 峰 治

◎富良野産業株式会社 十勝岳、サホロ岳、アシベツ、夕張の諸山と相拮抗して、突兀たる煙筒の山間に聳ゆるものを富良野産業会社とす、會社は去る三十九年の創業にして資本金三万五千圓の株式會社として組織せらる、社長本間十一事務取締役木峯治監査役加藤増次郎全平賀春藏全遠藤傳三郎事務員梶原松四郎書記柄丸權之丞加茂勇之丞徳田梶太郎の諸氏を以て經營し居れり、蒸汽機は四十馬力にして一ヶ年約三万石の製材を産せしむ、蓋全工場は下富良野停車場前樞要の地點に在りて該附近の山林より運搬する角材は二三時間或は數時間にて、直ちに機械に懸くるを得べき装置なれば其利便なるは勿論、随つて價格廉にして尤も精良なる製材を産すと云ふ、而して全會社が創立以來年度期間に於ける決算報告を見るに近來木材界の不振なるに拘はらず、能く收支の權衡を保ちたる而已ならず相當の利益配當を爲すに至りたるは會社員一般の誠實勉強なるに由るべしと雖も直接經營の衝に當る氏の盡力の偉大なるに起因せりと云ふべき也。

◎山二印鈴木商店 十勝線帶廣以北第一の市街地を以て跨るに足る下富良野市街米穀荒物雜貨商中屈指の店舗を問ふものあらば何人も山二印鈴木商店と答ふるなるべし、全店は停車場前の左側に在りて宏潤壯大一見以て其巨商たるを知るべし、店主は鈴木峯次氏にして、明治三十五年を以て本村に來り現業に従事し傍はら多くの乳牛を飼育して牛乳搾取販賣を爲せり、氏は亦富良野産業株式會社の事務取締役として敏腕精通の令名あるのみならず寺院物代として赤誠を盡され大に佛果を得るに汲々たり、蓋し氏の人となりや一見撫然として慷慨たるの觀なき能はざるも事實は是れに反し情緒綿々他を救済するの志に厚く時に寛褐漢をして其仁慈に號泣せしむと云ふ。

◎九々酒造店 下富良野市街にて酒造業を營むは九々安藤店が嚆矢にして目下又獨占する處なり全店は明治三十二年の開業にして最初は米穀荒物雜貨販賣を營みしが四十年度より酒造業を兼業するに至り今や着々として業務を擴張し、加ふるに酒造廠及廣大なる土藏を新築して尙益々發展に力め



空知郡下富良野市街地 曲吉清水旅館

中 野 集

三十一

旅 館 吉 清 水 屋

十勝線下富良野停車場前

十勝線下富良野

清 水 木 材 部

十勝線 上富良野

清 水 農 場 部

つゝあり、店主は安藤圓平氏にして商才機略に富み、人に對する頗る温良なり、店員内外二十名以上にして客に接する尤も親切なれば其繁榮なるは推知するに足るべし、蓋全店が目下旭の盛況を招きつゝある所以は、銘酒として産する處の富良野の井、北の正宗の二種が廣く世に發賣せられ、常に李伯運をして、喧々轟々たらしむる所以ならん乎。

◎學田倉庫株式會社 全會社は本年の創立にして全村停車場前に在り、主として學田地農産物を一手に積入れ、常に奸商の暴利的壟斷を防ぎ、農民をして乱闘の賣却を爲さしめざる目的なるも、亦一面に於ては廣く貸主の依頼に應じ倉敷料は比較的低廉を旨とし、尤も正確に尤も誠實の取扱ひを爲すにありと云ふ、全會社は名の如く株式の組織なるも創立以來牛耳を取れるものは横山金之助氏なり、氏は受知縣の産にして明治二十九年學田地の開拓當時此地に來り、常に公共事業に盡瘁せられ、三十六年初期の村總代以來、殆んど其任に在りて村の改善財政の處理等に付ては偉大の効を奏

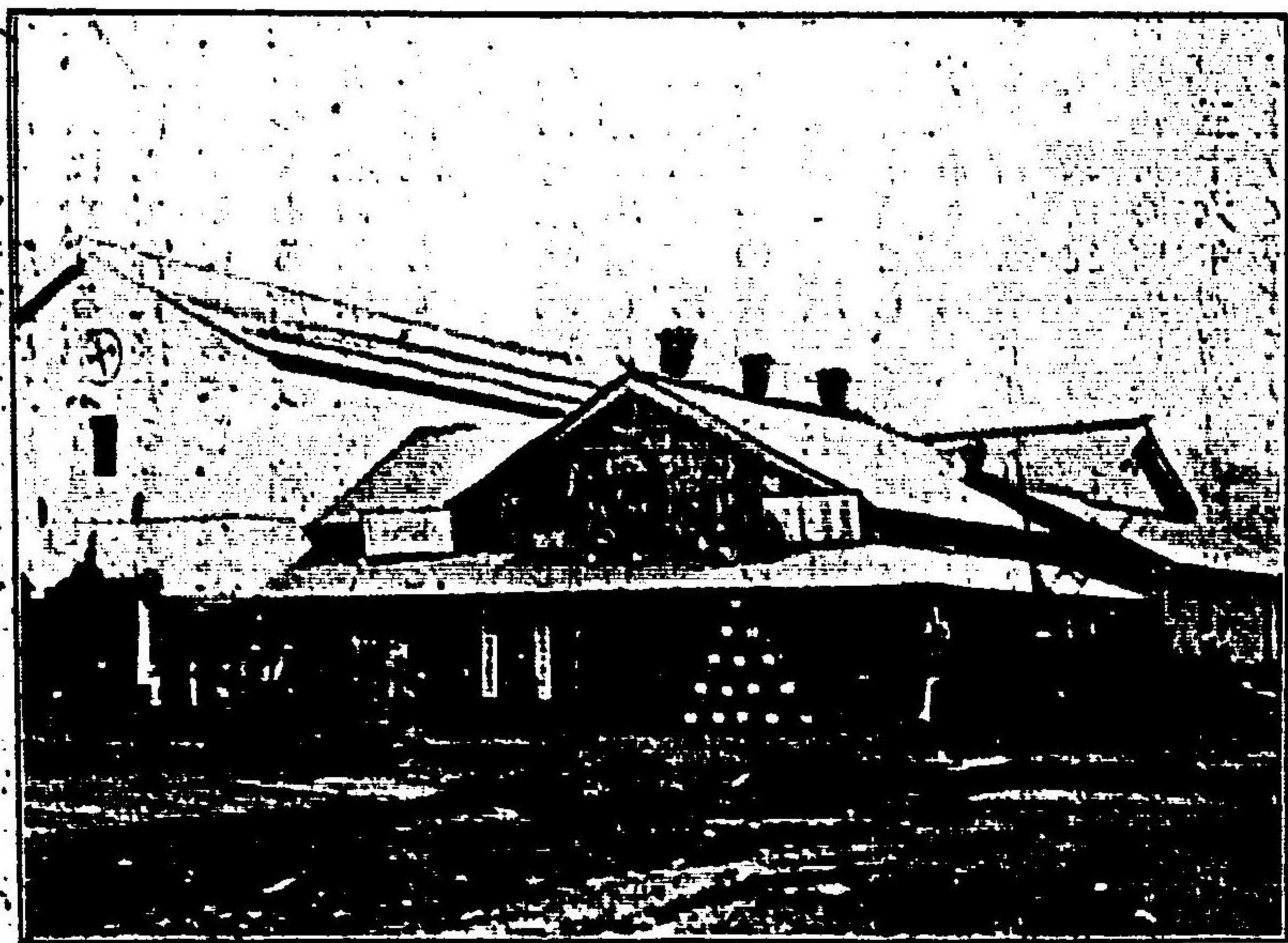
せらる、氏資性温厚篤實なるも亦中抜くべからざる卓見の智略ありて英氣他を凌駕するの勢ひなれば全會社の前途盛衰如何は主として氏の胸中三寸に有りと云ふも敢て過言ならざる也。

◎下富良野精穀場 富良野産業株式會社と比肩して黒烟天に漲らし製材精穀の業を營むものを下富良野精穀場とす、場は停車場前一町許りのヶ所に於て本年の創設なり、製材精米製粉共主として賃料を目的と爲せども平時は多大の原料を堆積して精米製材に従事せり、場主は遠藤徳三郎氏にして嚮に富良野産業株式會社創立の議あるや當時君は委員たり、組織なるや舉げられて専務取締役たりしが本年春獨立して現業を創設するの運びに出でたり、氏は精細緻密の實性を有し事大小となく自ら其任に當れば其成功は期して待つべき也。

◎丸山精穀商 新式の石油發動機を利用して精米精粉の業を營むものを丸山印米穀物店とす、全店は明治三十七年の開業にして下富良野市街に本店及び精穀場の二ヶ所を有し盛んに是れが經營を爲せり、石油發動機は六馬力にして日々三十石以

十 勝 線

三十一



富良野市街地 安藤酒造店

一 階 級

三 十 二

● 銘 酒

富良野の井 釀造發賣元
北 正 宗

● 安藤酒造部

店主 安藤 圓平

● 米穀荒物雜貨

業

● 農産肥料賣買

十勝線下富良野市街地

● 安藤雜貨部

上の精米と、ロー式製粉機を應用して日々十俵以上の製粉を爲すことを得、場主は山田健之助氏にして克己心に富み、能く社會の風潮と濫亂とに打勝ち今や此新式機を利用して自己社會共に其利澤に浴しつつあり、氏の成効の大なる働り知る可らず。

◎丸七端鐵工場 下富良野市街にて鐵工場の大なるものを丸七印端鐵工場とす、場主は端萬吉氏にして、明治卅五年高地に來り和洋農具金物製造販賣に従事し今日の盛況を見るに至りたるも農具は主として、ハローの製造を専門とし、名聲全道に知れ渡れり氏は亦非常に馬を愛し付つて千有餘圓を投じて名馬を購求せしが、其逸物なるを知るもの購買續々として來り、遂に是れを賣却せりと目下全市街の中央に廣大なる二階建の販賣店及び工場を有するものは即ち端鐵工場なり。

◎丸定印定塚柁製造所 地方の開発に伴ひ人家の増加するは當然なるべきも、下富良野市街の如く急速なる開發をなしたるは稀れに見る處なり、されば一竿の風雲に乗して此地に來りたる、丸定印

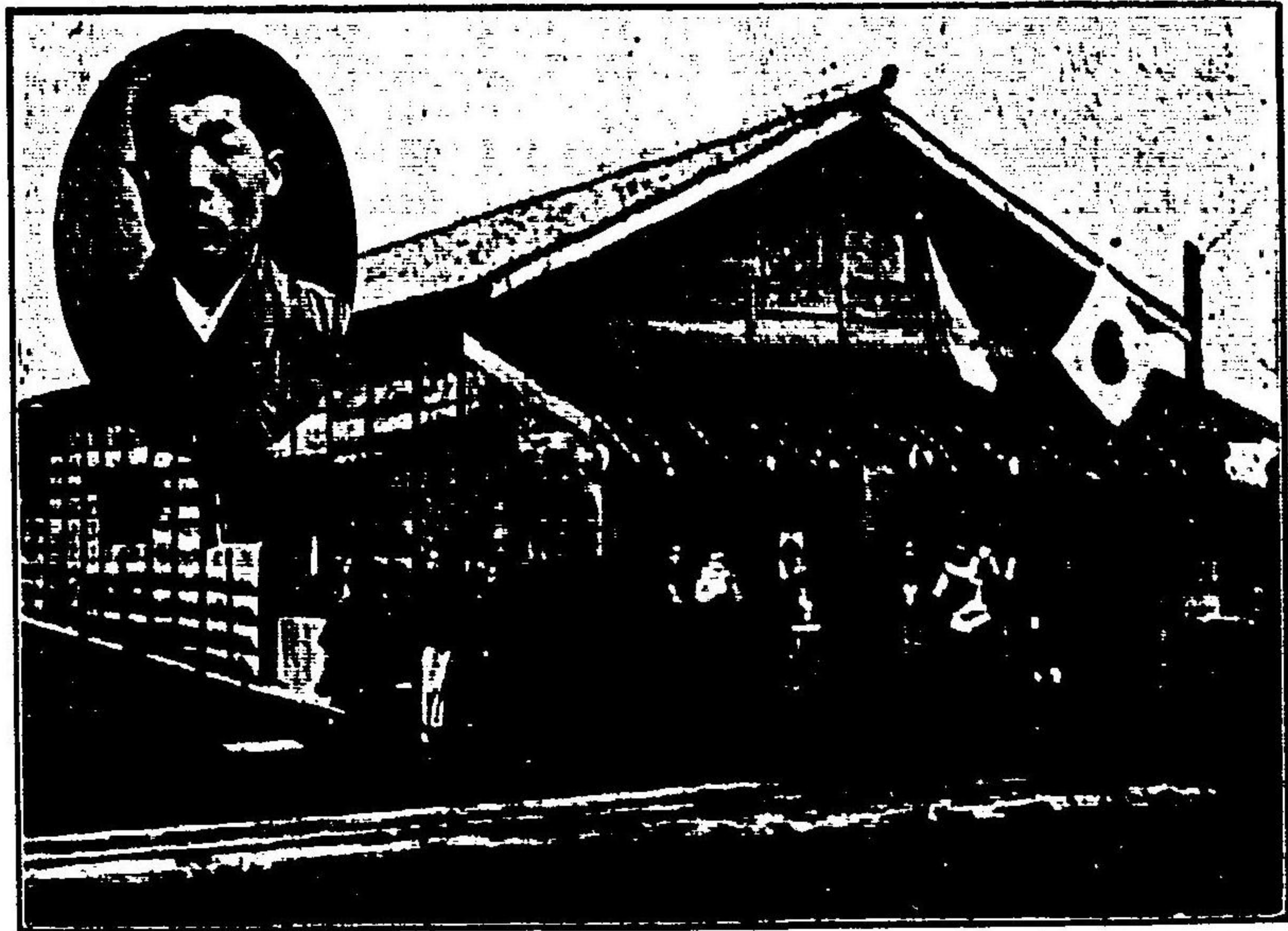
十 階 級

三 十 三

定塚乙吉氏の今日あるは能く時機に適したるものと云ふべし、全場は全市街の横町に在りて最近の閑雅なる新築家屋なり店主定吉氏は俗に神川兒とも稱すべき快活男子にして付つて北見地方を歴遊し辛酸難苦を嘗めたるの後此地に來り漸く八年の星霜を経て今日の隆盛を見るに至れりと。

◎曲新印新谷商店 全店は明治三十四年の開業にして、店主は新谷長松氏なり、最初木材販賣及び土木請負業に従事せしが、地方の發達と共に隆盛を來し爾後若々業務の擴張に力め、目下市街の中央にて壯大なる家屋を有し、農具類及び荒物の販賣を爲し一方市街の一隅に於て牛乳搾取場を新築し「ホルスタイン」「アシャ」等の洋牛數頭を飼育して牛乳販賣を爲せり、店主長松氏は年齒壯にして酒々落々人に接して一面舊知の如く、眞に商略縦横の才士と謂つべき也。

◎曲吉印清水旅館 十勝線中釧路以北に在りて旅館の第一なるものを問はば、人咸な以て下富良野停車場前曲吉印清水旅館を以て稱するならん、全館は客室二十以上を有し精緻閑雅にして數寄を凝



定塚製所 地野市野良富下郡知空

定塚製所

卸小賣

屋根受負

十勝線下富良野市街地

定塚乙吉

らし加ふるに、器具清撰、食膳美味を供ふ、當時全地方に出入する旅客の貴顯紳商は皆同旅館に投宿するを常とす、店主は清水運吉氏にして當地開發の初めより村治公共に力を盡し、糺に擧られて村總代及び學務委員等の重任に當り、能く村の改善に努めたり、民容委温威兼備はり一見人をして崇敬の念を拂らはしむ、蓋氏は副業多大なれば將に一大飛躍を試むるの秋あるや知るべき也。

◎九平印吳服店 下富良野市街にて吳服太物商店の大なるものを九平商店とす、全店は市街有樞の地点に宏壯闊大なる店舗を有し最新珍規の品柄のみを輸入して、價格廉に販賣する爲め店頭客の絶間なしと店主は平賀音藏氏にして地方有爲の士なり自ら富良野産業株式會社の監査役たり。

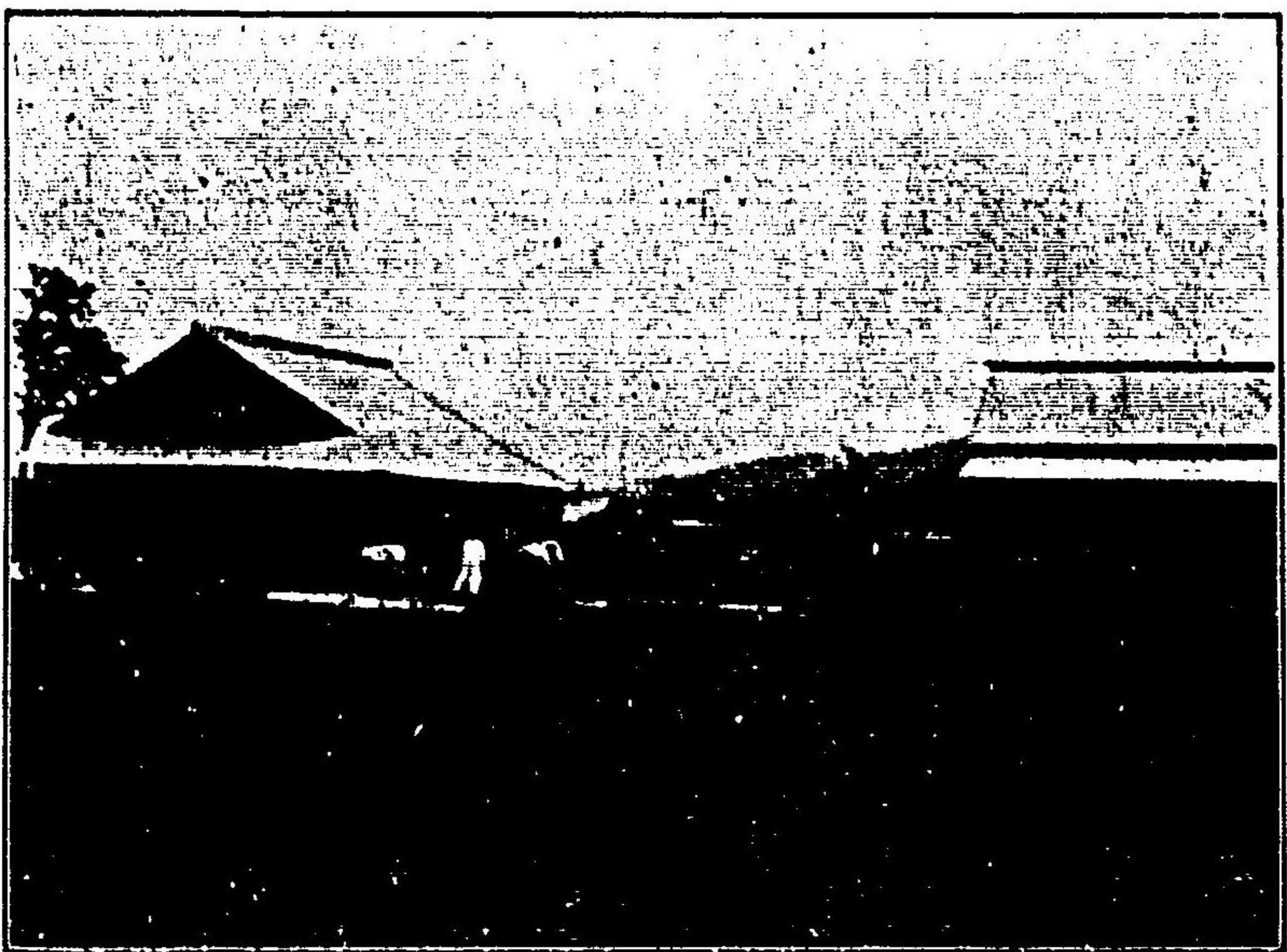
◎山丸金物商店 全店は明治三十四年の開業にして下富良野市街金物商第一位を占むるものとす、店主は柿木愛三氏にして和歌山縣有田郡の人なり資性着實にして思慮精細一家亦和睦して常に現業に熱中す、店運の隆盛なる決して偶然にあらず。◎一外陶器商 下富良野市街にて陶器商の大なる

ものを一外印田村商店とす、全店は明治三十四年の開業にして店主は田村正四郎氏なり、品質の佳良と價格の低廉なるを以て名あり、氏は亦地方有爲の士にして夙に英才の譽れ高ければ二級町村制定の曉は村理事者たるや必せり。

◎尼川運送店 全店は停車場前右側に在りて四十年七月の開業なり、店主は尼川利之助氏にして會つて旭川町上川合資運輸會社役員たりしが、全會社の撰抜に依り此地に開業せしものなり、取扱ひ迅速に誠實勉強なるの故を以て一般の信用する處なり。

◎加藤運送店 下富良野停車場右側に在りて尼川運送店と相兩立して誠實勉強なる扱店とす、店主は加藤龍三氏にして前に中富良野停車場に於て兄源次郎氏と協力して全業に従事せしが後分離して此地に開業する事とせり、今や地方の開発に伴ひ業務頻繁寸暇なき程なりと云ふ。

◎山太片山商店 下富良野市街四百戸内外の食膳に供する鮮魚乾物類を廣く販賣するものを山大印片山商店とす、全店は三十七年の開業なるに目下



空知郡下富良野市街地新谷商店

- ▲ 木材 販賣
- ▲ 土木 請負
- ▲ 牛乳 搾取 販賣
- ▲ 疊建 具類
- ▲ 荒物 販賣

新新谷長松

十勝線下富良野市街地

電番(シン)又(ハシ)

の如き繁榮なるは價廉にして品鮮なるにあり。
 ◎印佐々木商店 富良野館の隣りに在りて海産物類を販賣するものを印佐々木商店とす、全店は開業以來漸く五ヶ年なるに今日の如き盛況を見るは品質良好價格廉なるによるなるべし。
 ◎丸一布施藥舖 全藥舖は市街の中央に在りて三十三年の開業なり、全地第一の藥舖にして内外の妙藥奇劑一として備はらざるなきを以て名あり、店主卓誠にして事に通じ一方の重鎮たり。
 ◎山々荒物商 全店は三十六年の開業にして全村役場前の街角に在り、店主は酒々たる資性にして常に顧客を相手として樂業を好み、物價亦低廉にして農家の購買者多しと云ふ。
 ◎新橋鐵店 鐵製造販賣と人物の確實なるを以て名聲喧々たるものを新橋倉吉商店とす、氏は村公共の爲めに盡す殆んど寝食を忘る如く嚮には村總代に選ばれて村治の衝に當り今亦學務委員として其責任を重せらる、氏の如きは眞に躬行實踐の人にして名利を顧みざるの士と云ふべし。
 ◎劇場 下富良野市街娛樂場としては富良野館あり

り、全館は市街第一口抜の地に在りて頗る風緻に富めり構造亦宏壯にして堅固なり、館主は金崎甚藏氏にして白髮の老翁尙鏗鏘として壯者を凌ぐの概あり、一子巴氏理髮業を營む奇骨他の青年と異り常に新聞雜誌を愛讀し、自又刊行物に意あり斯父にして斯子あり前途頼母敷しと謂つべし、館主は又老後の樂みとして義太夫を好み、同好の士を集めて習練に餘念なしと云ふ。
 ◎山々尾花商店 山部市街地にて荒物雜貨商の最大なるものを山々尾花商店とす、明治三十六年十月の開業にして、店主は尾花網藏氏なり、物品精良價格低廉なるを以て顧客の店頭に充滿するは朝夕の別なし、店主網藏氏頗る商客に富み、才氣溢るばかり店員亦誠實勉強にして客に對する可憐なれば全店の盛況を視る豈偶然ならんや。
 ◎山中印山岡商店 全店は明治三十九年八月中の開業にして吳服太物海産物其他諸雜貨類を尤も薄利に販賣するの外郵便取扱ひの業を掌れり店主山岡龜吉氏は篤實精勵にして公共の爲めに盡瘁せらる、茲に年あり氏や全地有爲の人として益々



空知郡下富良野市街地 丸せ端商店

十勝編

三十八

和洋農具類 萬金物製造

鐵工場

世端萬吉

石狩國空知郡
下富良野市街地



聲名の揚る期して咲つべきなり。

◎小林運送店 全店は官設驛遞繼立所として明治三十二年十二月設立せられしものにて、運送業は全三十三年四月鐵道の開通と地方移民の増殖とに基つき開業せしものなり、當主は小林勲次郎氏にして全地開拓以來先入の人なりと、氏は温厚朴訥の質にして人に對する親切可憐なり。

◎小嶋荷扱店 山部驛停車場前に在りて荷扱事務を以て尤も信用あるものを小嶋店とす、全店は丸福組代理店として各線に通ずる貨物一切を取扱ひ尤も迅速を旨とするを以て人の知る處なり、主任小島今朝吉氏は頗る快活の質にして業務に對する亦誠確なれば其繁榮期すべきなり。

◎中内旅館 山部市街地にて人若し旅館を問はば中内旅館を指へて他に一の驛遞あるのみと應ふるなるべし、全旅館は最近の新築にて客室清楚眺望佳絶眞に旅中の憐を散するに足る、館主中内氏は當地草分けの嚆矢とも稱すべき古參の人にて由來公共事業に盡されたる功勞尠ならずと云ふ。

◎曲ト殿崎商店 全店は昨四十年九月の開業にし

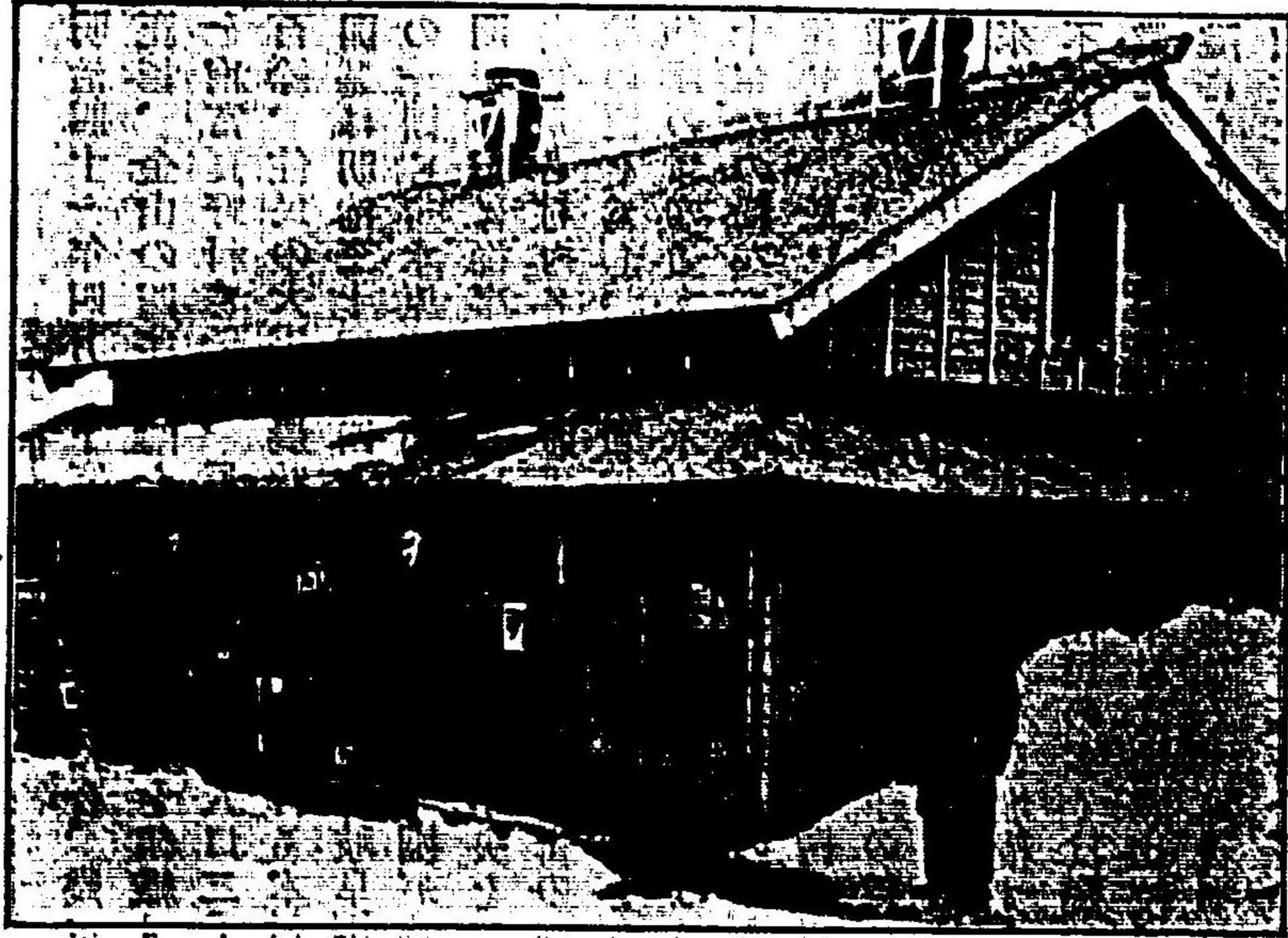
十勝編

三十九

て山部市街の中央にあり、呉服太物洋織類及び膝器瀬戸物馬具類其他和洋小間物等を尤も廉價に販賣するを以て名あり、店主は殿崎幸吉氏にして店員木村勘三郎氏はれが經營の任に當れり、氏商界に富み懸引縦横眞に當世の商人と云ふべし。

◎山カ小笠原商店 山部市街にて藥舖の獨占者と稱すべきは山カ印小笠原店とす、四十年十二月の開業にして漸く一歳に垂々たる今日なれども所謂營業圖に當りたると藥品の効能顯然たるに因り益々繁榮せり店主は善次郎氏にして誠實勉勵を以て信用日に厚し。





店 商 花 尾 少 曲 地 街 市 部 山 縣 勝 十

十勝線

四十一

尾花商店

十勝線山部市街地

電 署 (カ子ヲ)

店主 尾花 綱藏



店 商 助 之 健 田 山 山 丸 村 野 良 富 下 郡 知 空

十勝線

四十一

荒物雜貨
雜穀賣買
並ニ精米製粉業

山田健之助商店

電 署 (Oヤマ) 又 (ハヤマ)

石狩國空知郡
下富良野市街地



南 富 良 野 村

明治四十一年四月、下富良野村より落合、幾寅、鹿越、金山の四字分離して新たに一村を組織す是を南富良野村と云ふ、戸數八百三十餘人口二千八百餘、住民の大半は農牧業に従事す、抑も本村の開基は明治三十四年四月、酒井備之助外岐阜團體の一團と、水原啓次郎外三重團體との一團が移住開墾の業に従事したるに始まる、村の中央を流る空知川と村内各字を通ずる鐵道とは、舟楫の利運輸の便を爲し、拓地殖民の上に著しき影響を興ふ物産の重なるものは木材にして、三十八年より四十年迄の輸送高は、年平均二十万石以上の多きに達せり、故に住民の多くは是等木材の運搬を以て業と爲し、農業に従事するは僅に婦女子の類に過ぎざりしに、四十年以來俄然木材業に一大頓挫を來たし、本村の各驛共に多額の木材を堆積するの不況を見るに至れり茲に於て住民の多くは翻然農業に従事するの傾向を示せり本村は地域比較的狹隘にして最早移民を容る、餘地なく、地質率ね火山性にして肥沃ならずと雖、裸麥燕麥小麥の如は

土質に適せりと云ふ、幾寅は此村の中樞にして村役場郵便局其他商賈多く此處にあり、旭川町を取引先として日用品の供給を爲す、役場は四十一年四月の創設にして幾寅郵便局は全年三月の開局にして局長は尾崎新四郎氏也尙外各驛に郵便局あり
 ◎會社と農場 金山に有名なる富士製紙株式會社第六工場あり、住民の三分の一は此會社に依て衣食す落合には落合木工會社及鐵道廳の機關庫あり
 農場は金山に清水、鶴谷、幾寅に淺野兄弟、内藤松井、落合に久住の六農場あり、鹿越の酒井、幾寅の菅原村上、落合の竹内城戸撰治の各牧場は日下何れも經營中に属す。
 ◎學校と寺院 幾寅尋常及び落合尋常の二校及び其他各驛に簡易教育所あり幾寅小學校長は入澤傳一落合小學校長は高田鐵堂氏にして何れも令評あり、金山曹洞宗說教所は四十一年六月村有志の喜捨によりて起る、教主は高比良宣諦師落合曹洞宗說教所は三十六年の創立にて場主は福岡龍滿師也其他大谷派說教所本願寺派說教所曹洞宗說教所等あり。

三重縣桑名の人、明治二十七年歳漸く十五にして單身本道に移住し、樺戸郡月形に於て農業に従事す、是より先き道廳殖民課長柳本逸馬氏、官命により、一度歸省するや具さに北門開拓の急を論じ併せて將來の有爲を説く君是を聞知するや否や渡道の念躍として禁ずる能はず、遂に父に奨め兄に説き一家を擧げて移住の計茲に爲る偶父病ひで事成らず長兄亦父の病に侍す、而も君が渡道の念は物々然する能はず、遂に意を決して此地に渡る翌二十八年春四月實兄來る、翌二十九年父亦來り



幾 寅 君 大 作 野 淺

會す、乃ち居を歌志内にトし、父子三人相共に勵精刻苦開墾の業に従事する六年、不幸産未だ成らず三十五年十一月幾寅に轉住し、無資無産以て木材業に従事す、事業漸く其緒に著く爾來倍々業務

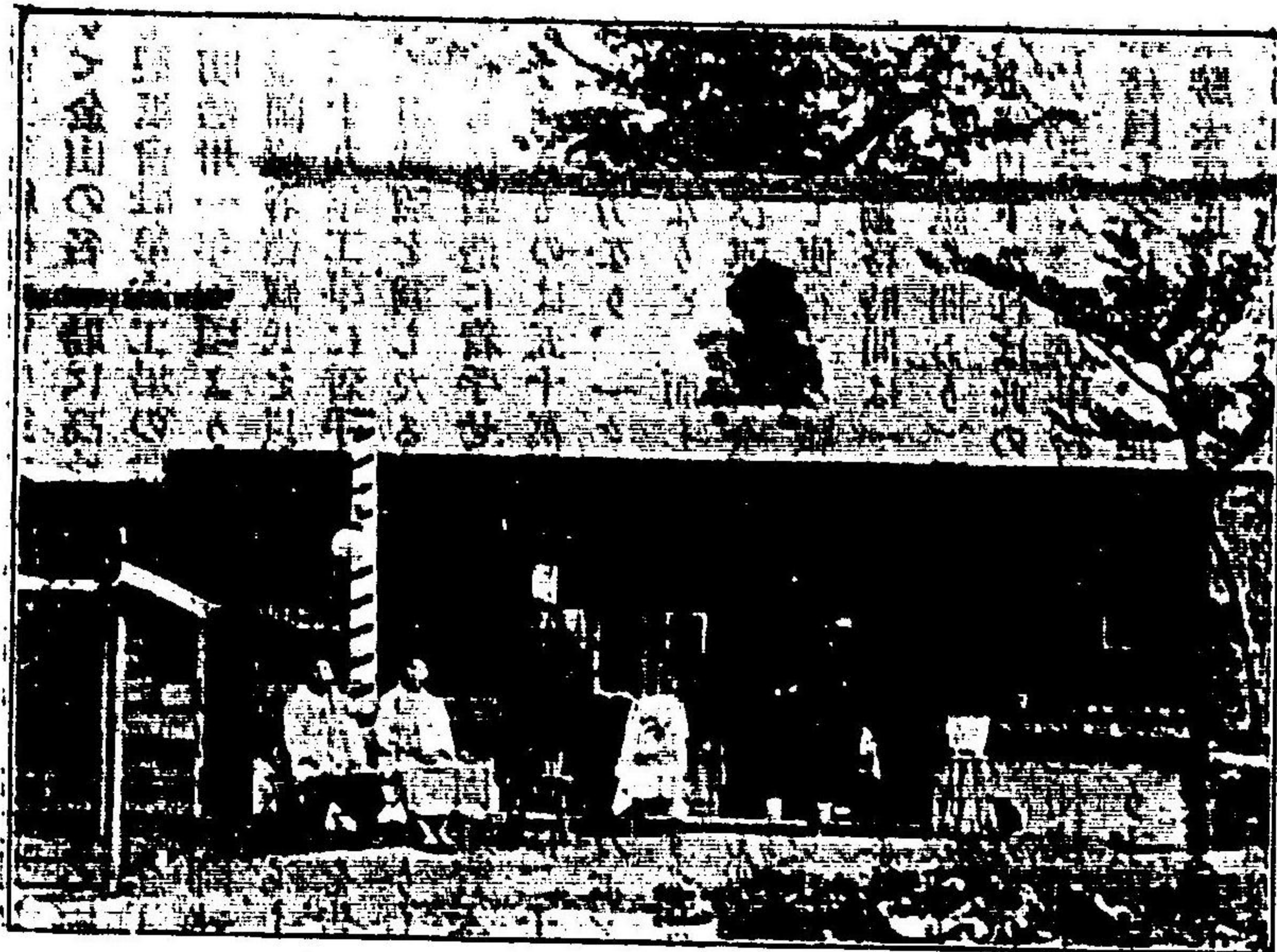
を擴張し新たに又運送店を開始し土木建築の受負業を兼ね家運是より昌む也、三十六年旭川町一條通十二丁目左十號に木材販賣土木建築受負の出張所を設け同時に宏壯なる邸宅を構ふ、君の縦横の才敏捷の腕は能く繁多なる事業を處理して些の遺漏無く橋中又常に練々として餘裕を存し機を見て事業を四方に擴張す、四十年幾寅に南富良野に廣大なる農牧場を經營して商業の側ら牧畜開墾の業を視る、明治三十三年二月三重縣桑名郡に生る年齒未だ三十、古人の所謂三十にして立つ可くむば、君の事業は是れよりなり、誠に郷黨君の前途を豫測して、後生恐るべしと爲し、君の過去の成効を顧みて破天荒と爲す事や、眞に立志傳中の一異材たるを失はじ。

物質的文明の趨勢は兒童教育の上形影響して従来の鍛練的教育主義は殆ど後を絶ち、開發的教育主義新たには是に替る、而も一利は一害是に伴ふ、舉世靡然として開發主義的教育に偏重せるの果は人をして却て又從來の鍛練的教育の偏極すべからざるを思はしむ、未開草莽の時代に處して、所謂開發的頭腦を有する教育家が古代寺小屋式鍛練流の教育を爲す、必しも止むを得ざるの處置に非して寧ろ進んで取るべきの教育主義ならずとせず、師、宗教家の身を以て夙に育英に意あり、居常這般の事理に留意す、師明治三十五年三月始て此地に渡り、全年九月内藤農場に眞宗大谷派私立脱教所を開設し専ら布教の事に従ふの側ら、更に寺小屋式教育所を開始し、自ら範を垂れて鍛練的教育



師 觀 惠 朱 守

に熱中す、三十七年十一月市街地の北方約三丁の地域に一脱教所を建築し、布教倍々勉む是即ち今の脱教所なり、爾來教育に宗教は養食を忘れて盡瘁奮勵す、師幼にして宗門の徒弟となり、師を補けて寺務を觀る數年、長じて中學校に大學林に佛學の研究を積むる事多年獨り斯道の淵奥を極めたるのみならず又頗る方今の事務に通ず古語に學讀して庸行ありと云ふがかり、學才に長ずるもの、勤もすれば庸行は陥り易きのみか、却りて淫奔放逸に流るゝもの此々皆然り、師學よく名僧たるの資に足り、才能く當今の事務を解するに足る、而も其行に至りてや敢て間然する處莫し、師の如き眞に聖賢して又聖行あるもの歟宜なり園村の善智識として信徒の尊仰を一身に蒐めつゝある事や。



床 橋 高 地 街 市 山 金 線 勝 十

▲ 家屋新築
▲ 眺望佳絶

専ラ衛生ヲ旨トシ至極町疇
ニ諸事注意可仕候間御來床
ノ程奉希上候 敬具

十勝線金山市街地

高 橋 床

店主 高橋友一

◎富士製紙株式會社第六工場 北海山間の地にありて金山の名一時に高まりたるは、山來する處富士製紙會社第六工場の設置ありしに因る、全工場は明治卅一年の頃より、東京測量社出身技師水路測量師磯谷徳藏氏を以て實測設計の任に當らしめ全三十九年工事に着手し四十一年五月竣工を告げ全六月試験を爲したるに成績頗る好良なりしより直ちに製造に着手せり、全工費即ち固定資本と做すべきものは五十萬圓にして水力馬力は二千三百六十馬力なり、一ヶ月製産額は百八十万ポント八千尺となり、而して全工場にて使用する原料の伐材及び運搬等は全部他の請負と爲すも單に直接場内にて使役する職工二百三十人餘なりと聞く労働者の勤務時間は一日十二時間内にして(内一時間の休憩時間あり)職工一人登回五拾錢以下雇八十錢以下なれば此の賃金は一ヶ月約一万圓内外なりと云ふ、現在事務員は主事工務主任技師十外事務員七名にして、能く其經營に當れり主事は土屋勝太郎氏にして識量淵大卓見人を操縦するに當り工務主任水谷松太郎氏亦著實にして事理に精

通し、一般工場の信用厚し、蓋本工場は全國大規模大經營にして、其原料等は既に内地に仰ぐの餘地なき爲めに全會社多年計畫の期する所ありて茲に本場を設置せられしものなれば今後益々本業の擴張を見るべきは論なく隨つて地方開發の一端たるを知るべき也。

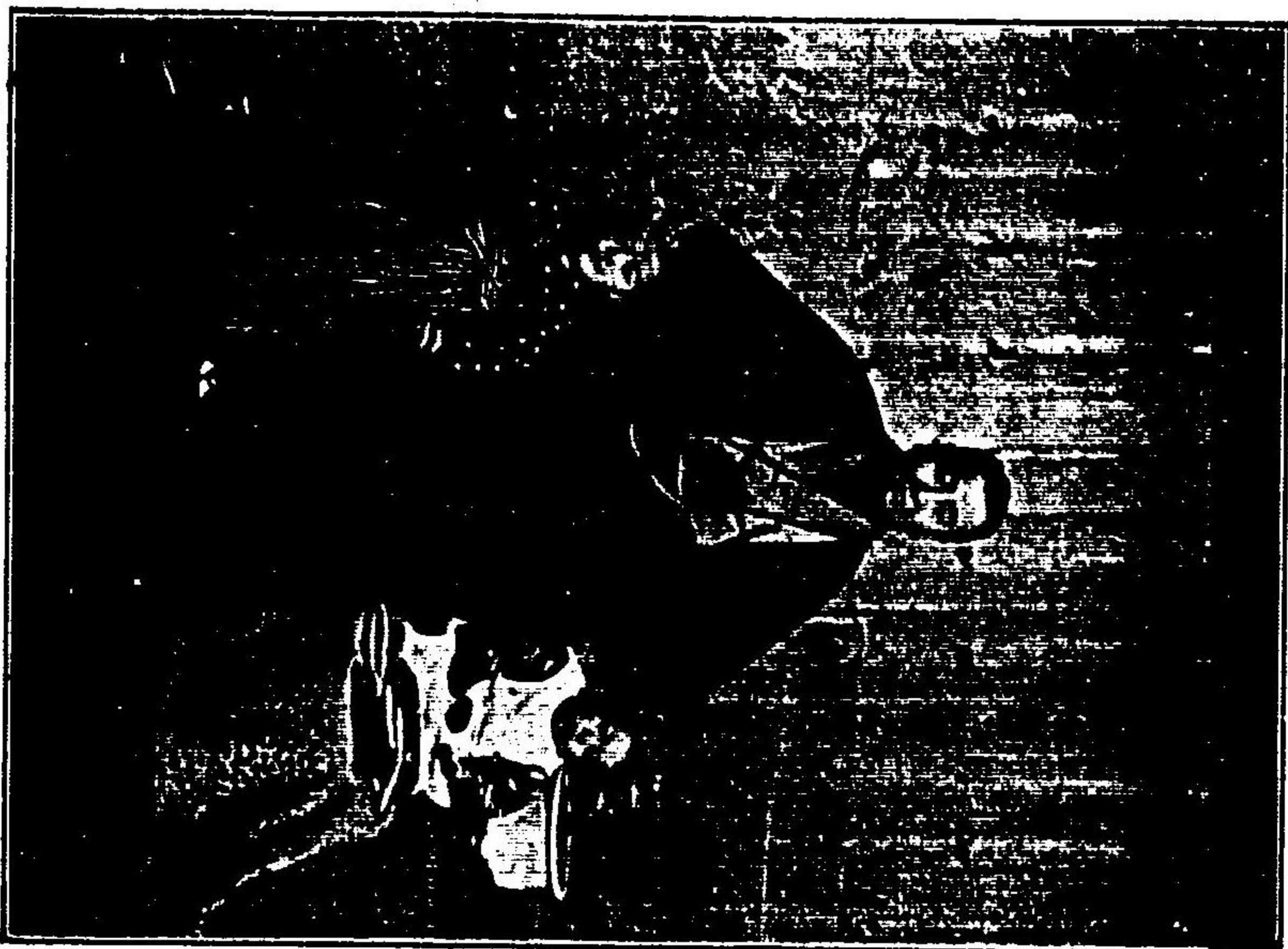
◎山中印中原呉服店 全店は明治三十九年十月の開業にして金山市街の中央に壯大廣潤なる店舗を有し、盛んに呉服太物雜貨其他日用品を販賣せり店主は中原熊市氏にして幾に落合驛にありて商業に従事し且つ村治教育等の公共事業に盡力せられ大に名望ありしが事の蹉跌より一時旭川町に轉居し後現在の地に本業を開始せり、蓋全店が今日の盛況を見るは主人が積善の餘慶と謂つべき也。

◎川嶋土木請負業 金山市街地にて土木建築請負業の優勢にして一般信用厚きものを川島房吉氏とす、氏は明治三十四年以來鐵道工事に従事し爾後全地の請負者流の如く不正粗洩の請負を爲さず、尤も誠實に尤も完全なる工事を施したる結果今や全地方に於ける、土木建築事業は坐ながらにして

電話(イ上)又(イ)

伊 藤 幸 太 郎

石狩國空知郡南富良野村幾寅市街地



伊藤幸太郎氏

空知郡幾寅市街地

- 荒 物 味噌醬油 和 洋 酒 諸 罐 詰
- 小間物類 海產物 牛豚馬生肉 有名賣藥
- 其他日用品一式

同氏の手に落ちる状態なれば業務の多忙にして繁榮なるは他の比肩する處にあらざる也。

◎角井土木請負業 金山劇場進盛館々主及び土木建築請負業として其名あるものを石田茂作氏とす全氏は亦富士製紙會社の御川請負として信用厚く進盛館は四十一年八月の新築にして地方の劇場として設備充分にして廣闊壯麗なり、現今全地の繁榮に伴ひ興行も随つて盛んなりと云ふ。

◎高橋理髮店 金山唯一の理髮店として賑々なるものを全店とす 店主は高橋友一にして、明治四十年二月の開業なり、當時金山は富士製紙會社創立の際にて理髮業の繁昌なる殆んど寸暇なき程なりし爲め利益も亦意外にて四十一年九月家屋を新築するに至れり、客室風雅にして金山連山の紅葉一望に集まり、店主が數奇を凝らしたる建築は實に賞嘆するに餘りあり。

◎金一武田運送店 金山市街の開祖とも稱すべきものは武田運送店とす、店主彦一氏の實父彦一氏は金山開發當時に於て官設驛遞繼立事務に従事し爾來今日に至るも全郵便局長として局務を執掌す

氏は快活明敏の質にして一般公共の誠意に厚し人あり若し氏を訪問し一見舊知の如く接し、人をして満足せしめざるはなしと、運送店は彦一氏單獨の經營にしていも亦足らざるの繁榮なり。

◎角三川村運送店 全店は明治三十四年一月の開業にして店主は川村喜三太氏なり、取引店は内國通運會社外數店にして十勝線及び各線其至る處の全業者に聯絡を遍じ尤も迅速に尤も正確の取扱を爲す、店主喜三太氏誠實にして敏活なれば業務の擴張期して待つべきなり。

◎丸ノ藥舖 金山地方幾百人の急病者其他微恙の者をして一町の苦痛を治せしむ奇効妙藥を販賣するもの丸ノ印直江藥舖とす、全店は金山市街にありて地方唯一の藥舖なれば顧客の出入頻繁にして、其盛んなること山間の商舖としては稀れに見る處なり。

◎井村醫院 本院は金山市街獨占の姿にて大に盛況を來たしつゝ、いふしが本年十月見らる處ありて幾寅市街地に移轉せらる、醫院主は井村萬作氏にして内外手術とも洗刷の附け高し。

秋 田 甚 平

十勝線落合停車場構内
物品販賣業

御 辨 當 壽 司



落合停車場構内

十勝線落合驛
官 設 驛
客 室 清 楚
懇 切 丁寧
秋 田 甚 平 旅 館

◎山キ印淺野營業部 十勝線幾寅市街にて各種營業を尤も盛大に經營せるものを淺野營業部とす、主として木材販賣土建築請負を爲せども鐵道貨物扱も亦盛んなり、經營主は淺野作次郎氏にして移住當時より農業に熱中せられたるが今尙農牧場を設けて是れが擴張に努めたり、氏は幾寅に斯る事業を經營せらるゝの外旭川町に出張所を新築し是れ又木材販賣土木建築請負業に従事せり故に山キ印淺野營業部の名は單に幾寅地方のみならずして本道中央の地何れの方面に於ても皆人の知る處なり、且下木材業界不振の時に當り獨り淺野營業部の旺んなるは他の羨望する處なるべし。

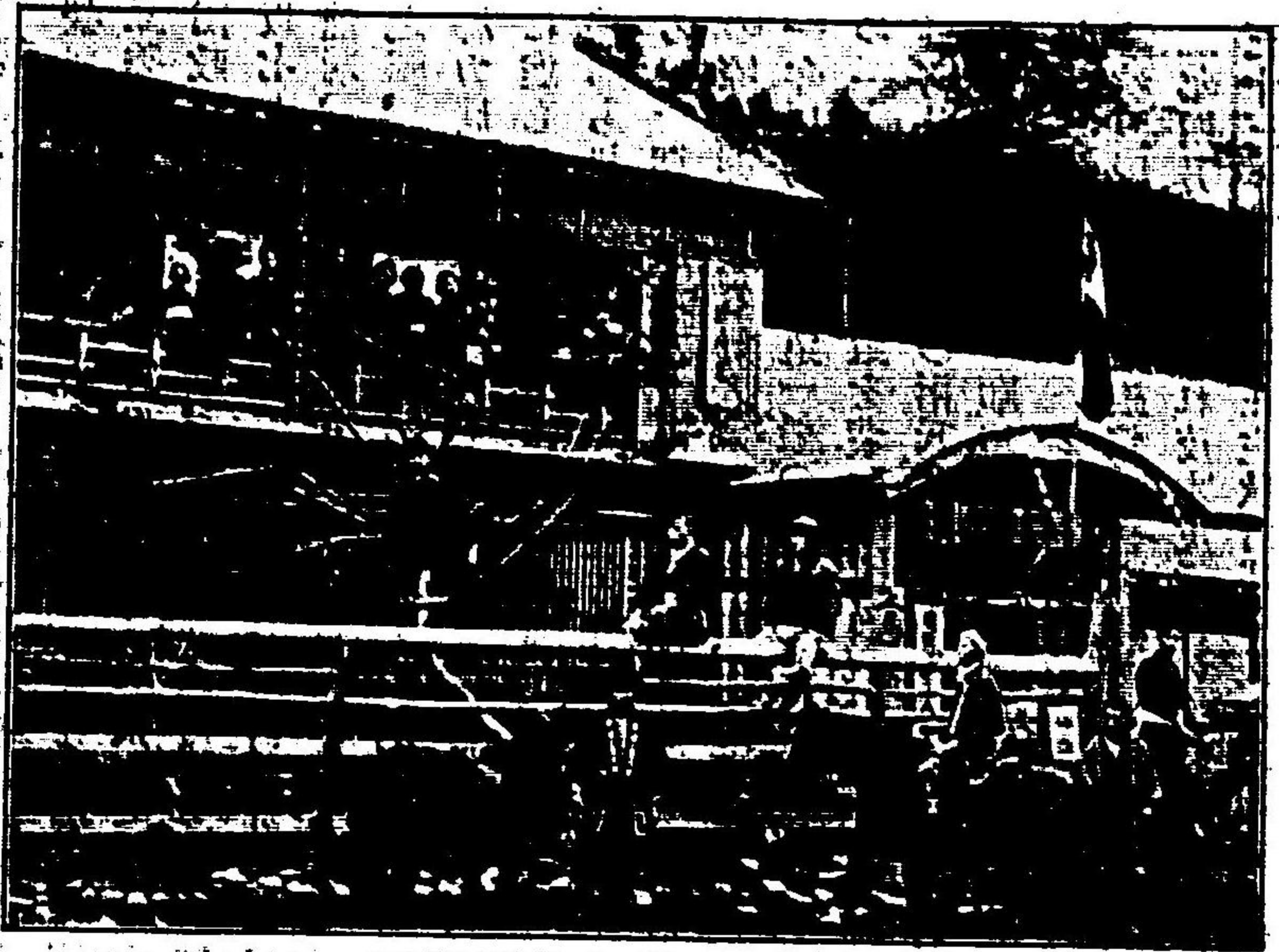
◎丸定印定塚商店 幾寅市街にて米穀雜貨商の大なるものは丸定印定塚商店とす、全店は市街有極の地にありて米穀雜貨の外農産肥料其他日用品に至極低廉に販賣す、店主は定塚右衛門氏にして地方有爲の士なり、氏は目下惣代の重任を担ひ其緩急に應じて地方の改善を圖りつゝあれば名聲噴々として彌々高く隨つて南富良野村一方の重鎮として何人も知る處なり。

◎伊藤商店 幾寅市街にて藥舖及び荒物雜貨類を擴く販賣するものを伊藤商店とす、全店は市街目抜の地にありて該地方部落及び市街一圓の顧客を一手に吸収し得るの店舖たり、店主幸太郎氏は温厚篤實の人にして敢て世事に關せざる君子の如く當世稀れに觀るの仁たり。

◎寺島運送店 全店は幾寅停車場前にあり、貨物運送正確にして尤も迅速なるの故を以て好評あり蓋近來運送業者中往々不正又は不親切の行動あるの風評専らなるの時全店の如きは稀に見る處なり是れ畢竟するに店主寺島氏が業務に熱心なるの致す所以なるべし。

◎山キ森本旅館 幾寅市街にて旅の開祖たり又全地第一の旅宿たるものを森本旅館とす、客室清潔にして親切丁寧加ふるに食膳美味なれば常に來客充滿して益々繁榮なりと。

◎曲イ奥服太物店 全店は三十七年一月の開業にして四十一年四月更に家屋の改築を施し目下盛んに現業に従事せり、店主宮北氏は全地屈指の人物にて名聲地方に噴々たり、



十勝線落合驛前 岩手旅館

- 客室閑雅
- 誠實勉強
- 丁寧親切

十勝線落合驛前

岩手旅館

本館は落合驛前に
して落合第一等の
勉強旅館なり

◎落合木工株式会社 全社は昨四十年四月設立登記申請にして、株金二万圓の組織なり當時の創立委員としては小野坦、小出静治、小川春藏、太田政次郎、福岡龍瑞、尾張徹郎、藤原長次郎、柿坂七九郎の諸氏なり、而して現在役員は社長福岡龍瑞、取締役湯原榮吉、全小野坦、監査役石神庄之輔、全小出静治の數氏なり、全社の多首式滾鐘馬力は三十五馬力にして一ヶ年の製材三万石以上に達し其製材は頗る精良品を産す、該地は十勝線即ち旭川町より釧路に達する中心点とも稱したる第一期落成地たりしを以て昨四十年全會社設立の際は非常なる好人氣なりしが、全年末より四十年に跨がり全道一般の不景氣と木材界不振の爲め一時多大の打撃を蒙りしも現任社長福岡龍瑞事務員長尾忠一の兩氏奮然として大改革を断行したる結果今や着々順境に向ひ前途頗る有望なるに至れりと云ふ。

◎秋田屋旅館 全旅館に官設驛遞として明治三十二年四月官設せられ茂木虎徹氏の擔任なりしが、三十三年十二月現在主秋田其平氏の繼續する處と

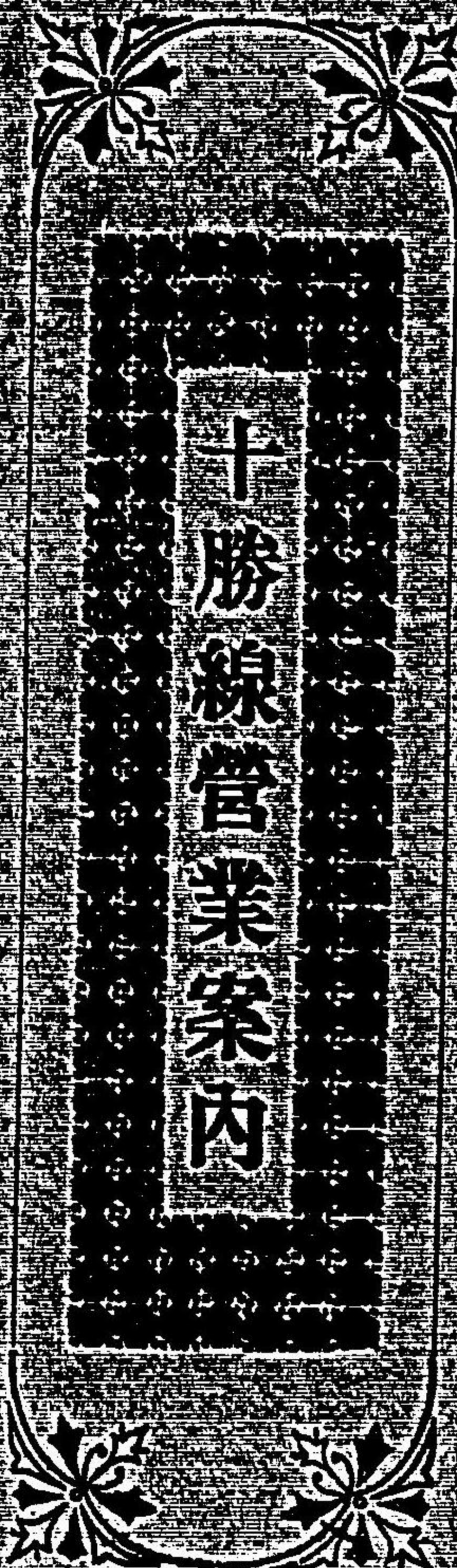
なれり、爾後全氏は總べての方面に改善を加へ、客室の清楚なるは勿論、寝具食器等に至るまで新規を旨として大に注意を拂ひたり、されば落合驛遞の名は一時に高まり春夏秋冬來客の絶間なしと且つ全家にては本年九月より停車場構内にて辨當及び種々の物品を販賣し是亦非常の繁榮なりと云ふ。

◎九ヶ岩手旅館 十勝線中勉強旅館を以て名あるものは九ヶ岩手旅館とす、全館は客室階上階下合せて十數室を有し、客に對する叮嚀なれば四時客の出入多く秋田旅館と角立して盛んなり。

◎二印駒崎運送店 落合停車場前に於て海陸貨物取扱の正確にして速達なるものを全店とす。

◎湯原商店 辨當驛司の特色珍味を以て名あるものを落合停車場構内待合所湯原商店とす。

◎一〇高橋藥舖 落合市街にて藥舖として恰適の位置を占めたるものを保養堂一〇藥舖とす、此他全地主なる商店とては小出商店外五六の雜貨店及び料理店等ありて大に活氣ある市街なり。



十勝線營業案内

◎落合木工株式會社 全會社は昨四十年四月設立登記申請にして、株金二万圓の組織なり當時の創立委員としては小野坦、小出靜治、小川春藏、太田政次郎、福岡龍瑞、尾張徹郎、藤原長次郎、柿坂七九郎の諸氏なり、而して現在役員は社長福岡龍瑞、取締役湯原榮吉、全小野坦、監査役石神庄之輔、全小出靜治の數氏なり、全社の多普式灌漑馬力は三十五馬力にして一ヶ年の製材三万石以上に達し其製材は頗る精良品を産す 該地は十勝線即ち旭川町より釧路に達する中心点とも稱したる第一期落成地たりしを以て昨四十年全會社設立の際に非常なる好人氣なりしが、全年末より四十年に跨がり全道一般の不景氣と木材界不振の爲め一時多大の打撃を蒙りしも現任社長福岡龍瑞事務員長尾忠一の兩氏奮然として大改革を断行したる結果今や着々順境に向ひ前途頗る有望なるに至れりと云ふ。

◎秋田屋旅館 全旅館に官設驛邊として明治三十二年四月官設せられ茂木虎徹氏の擔任なりしが、三十三年十二月現在主秋田甚平氏の繼續する處と

なれり、爾後全氏は總べての方面に改善を加へ、客室の清楚なるは勿論、寢具食器等に至るまで新規を旨として大に注意を拂ひたり、されば落合驛邊の名は一時に高まり春夏秋冬來客の絶間なしと且つ全家にては本年九月より停車場構内にて辨當及び種々の物品を販賣し是亦非常の繁榮なりと云ふ。

◎九ヶ岩手旅館 十勝線中勉強旅館を以て名あるものは九ヶ岩手旅館とす、全館は客室階上階下合せて十數室を有し、客に對する可憐なれば四時客の出入多く秋田旅館と角立して盛んなり。

◎二印駒崎運送店 落合停車場前に於て海陸貨物取扱の正確にして速達なるものを全店とす。

◎湯原商店 辨當驛司の特色珍味を以て名あるものを落合停車場構内待合所湯原商店とす。

◎一〇高橋藥舖 落合市街にて藥舖として恰適の位置を占めたるものを保養堂一〇藥舖とす、此他全地主なる商店としては小出商店外五六の雜貨店及び料理店等おかりて大に活氣ある市街なり。

十勝線營業案内



吳服太物
米穀雜貨商

其他日用品一式

石狩國上川郡邊別停車場前

石原槌次郎商店

電話(14)又(14)

鐵道貨物取扱所

十勝線邊別駅前

三宅運送店

米穀雜貨
荒物 其他日用品

上川郡美瑛市街地

春日商店

旅館

家屋新築
室内清楚

町隣親切ヲ旨トシ御便宜ニ御賄
可申上候間御投宿ノ程奉希上候



奈良岡 なるを

上川郡美珠停車場前

呉服太物
雜貨金物 商

白田商店

十勝線美珠駅前

誠實 勉強
懇切 丁寧



山本旅館

十勝線上富良野駅前

旅美瑛館

客室清楚
親切丁寧

十勝線美珠停車場前

女鹿 一八

旅 館



森 川 屋

十勝線上富良野停車場前

鐵道貨物運送

- ③ 共立運送組取引店
- ② 札幌倉庫代理店
- ① 北海運送代理店

十勝線上富良野驛

是安鑄作

是安木材部

電話(コレ)又(三)



內國通運株式會社取引店

丸福組代理店

鐵道並ニ鐵道小荷物取扱所

十勝線上富良野驛前

森川力太郎

電話(モリ)又(ハカ)

貨物運送業

米 荒 海
穀 物 產

石狩國空知郡上富良野市街地



下 村 商 店

電話(シモ)又ハ(シ)

- ① 上川運輸合資會社取引店
- ② 早達組代理店
- ③ 運送組代理店
- ④ 栗山組合會社取引店
- ⑤ 北海道運送株式會社代理店
- ⑥ 札幌運輸合資會社取引店
- ⑦ 北海道運輸合資會社取引店
- ⑧ 函館和田運送店代理店
- ⑨ 高畑運送店代理店
- ⑩ 北都組代理店

運送町一丁目
二丁目
三丁目

● 内外火災保險株式會社代理店



境 柳 助

電話(サカキ)又ハ(サ)

米 穀
荒 物
海 産



下 村 商 店

石狩國空知郡上富良野市街地

電略(シモ)又ハシ

- ① 上川運輸合資會社取引店
- × 早達組代理店
- △ 運送組代理店
- 栗山組合資會社取引店
- 北海道運送株式會社代理店
- ⊙ 札幌運輸合資會社取引店
- ⊕ 北海道運輸合資會社取引店
- ⊖ 函館和出運送店代理店
- ⊗ 高畑運送店代理店
- ⊘ 北部組代理店

十勝線上富良野停車場前

迅速町際ハシ(代行)
一致ハ當店ノ特色

鐵道 荷扱



境 柳 助

電話(サカイ)又ハ(サ)

● 内外火災保險株式會社代理店

一品洋食

●時計販賣

御酒肴

並ニ修繕

饅頭餅

●新式寫眞撮影

其他御好ミニ應ス

特別大勉強

十勝線上富良野停車場前

十勝線上富良野停車場前

合待 ヨカロー

朝日堂

電器(八七五)(八)

店主 長谷藤十郎

御旅館

温泉場

上富良野停車場ヨツ凡二里

場主 女鹿 一八

十勝線上富良野村

上富良野温泉場は同地停車場を距る約二里にして道路完全馬車の便あり、山水名烟風光絶佳眞に積雪を散するの好適地なり、旅館浴場等の清麗にして空気の疏通せるは他温泉の比にあらず、食用品は常に顧客の好に應ずれども主として衛生に適するものを調理す、温泉は炭酸瓦斯を發散し殆んど無色澄明なりと云ふも可なり、而して其効能に至りては、皮膚病は勿論、癩癬疥癩、腸胃疾病、咽喉頭加管兒、其他諸病に効能あり(常温泉場には旅館の外客の都合に依り自炊するの設備あり)

吳服太物

和洋小間物



萬金物類

上富良野市街地

越後屋吳服店

吳服太物

米穀荒物

和洋小間物

農產賣買

商

十勝線中富良野市街地



隅田商店

電 零 (〇ウ) 又 (ハウ)

建築用具製造
萬農具打込物

プラチハロ
車橋製造



空知郡中富良野市街地
奥山鐵工場

場主 奥山留次郎

和洋酒罐詰類

菓子饅頭類

並ニ雜貨鮮魚

旅人宿
待合所



十勝線中富良野停車場前
吉崎商店

● 吳服太物荒物

● 和洋酒罐詰類

● 瀬戸物菓子類

● 小間物類化粧品

● 學校用品文具類

● 雜穀肥料

● 委托大販賣所

右海利ヲ旨トシ誠實大勉強

可仕候間多少ニ拘ラズ御用

向仰付ラレ度奉希上候



十勝線中富良野驛前
大野商店

電 零 (〇二)

- ⊕ 運送株式會社代理店
- Ⓜ 内國通運株式會社取引店
- Ⓜ 上川運輸合資會社取引店
- 栗山組合資會社取引店
- Ⓜ 札幌倉庫株式會社代理店
- 丸福組代理店

十勝線中富良野驛前

加藤源太郎

● 鐵道貨物取扱所

EⓂE

内國通運株式會社

取引店

十勝線下富良野驛前

加藤運送店

電 署 (カ)

當會社木挽工場ハ十勝線下富
 良野停車場ニアリ附近原料ニ
 富ミ製品極テ精巧價額低廉ナ
 リ時ニ多額ノ御注文ト雖モ迅
 速調達スベシ

富良野産業株式會社



空知郡下富良野驛前



學田倉庫株式會社



社長 横山金之助

劇場

富良野館

十勝線下富良野市街地

館主 金崎甚藏

理髮業

下富良野市街地

店主 金崎巴

荒物雜貨
銘酒醬油
海產物類

十勝線下富良野市街地

今瀧田商店

精米製粉販賣及賃搗
挽材販賣及賃挽

空知郡下富良野市街地

☆ 下富良野精穀場

場主 遠藤徳三郎

貨物取扱業

鐵道汽船

爲換取店

合資會社

三上運輸會社

丸輪會社

和組田

取引店

尼川運送店

十勝線下富良野驛前

電話(了)一

貨物、確實丁寧取扱致候

貨物、最迅速取扱致候

吳服太物
西洋織物
諸仕立物類



和洋小間物類
洋酒罐詰
吟釀醬油
其他雜貨

下富良野市街地

平野屋吳服店

瀬戸物洋燈
銘茶簞笥
疊建具漆器
硝子板類

日用家具一式

十勝線下富良野市街地

田村商店

電話(一)又(夕)

執行醫院

十勝線下富良野市街地停車場前

山部出張所 一、四、七、十、十三、十六、十九、廿二、廿五、廿八出張
中富良野出張所 二、五、八、十一、十四、十七、廿、廿三、廿六、廿九出張

乾物海產商

石狩國空知郡下富良野市街地

大山山商店

電話(ヤ)

海產乾物商

十勝線下富良野市街地

少印佐々木商店

電話(サ)

和漢洋藥種 賣藥化粧品
和洋小間物 諸紙文具類
工業用藥品一切

十勝線下富良野市街地

一 布施商店

銅鐵農具
硝子板類
度量衡器販賣

十勝線下宮良野市街地

柿本愛三
電話(ヤマ)〇〇

三運送組
庫運送部
福合資會社
北北海運輸組
旭輸送合資會社

十勝線山部驛前

小島荷扱店

二ノ三十

●官設驛遞繼立所

上 上川運輸合資會社
○ 合資會社栗山組
× 早達組
北 北都組
△ 運送組
北 北海運送組
十 運送株式會社
立 札幌運輸合資會社

十勝線山部驛前
小送店

●北海旭新聞取次所

吳服太物
海產物
諸罐詰
雜貨酒類
其他日用品

商

十勝線山部市街地

中山岡商店

收入印紙
郵便切手
賣下所

二ノ廿一

吳服太物 和洋紙類
塗器瀨戸物 馬具類
並ニ和洋小間物類

十勝線山部市街地

下 殿崎 幸吉

店員 木村勘三郎

和洋藥種
有名賣藥
和洋小間物類

十勝線山部市街地

小笠原善次郎

電話(ヤマサ)又ハ(ヤマ)

十勝線山部市街地

家屋新築

室内清楚

眺望佳絶

中内旅館

懇切丁寧御便利
ニ御取扱申候間
御投宿之程偏ニ
奉希上候

鐵道貨物取扱業

荒物雜貨商

及理髮部

農産物肥料賣買

十勝國空知郡山部市街地

木村新太郎

和漢洋藥種 有名賣藥
和洋小間物 化粧品
學校用品 洋酒 日用品

十勝線金山市街地

藥舖直江郊

電話(ナヲ)又ハ(ナ)

內國通運株式會社

取引店

上川運輸會社取引店

各組代理店

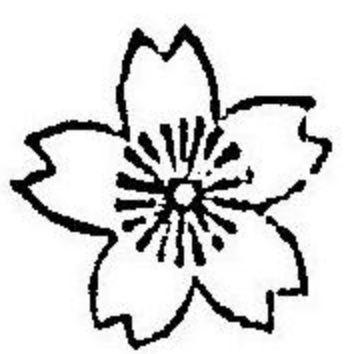
十勝線金山驛前

鐵道貨物

運送業

三川村喜三太

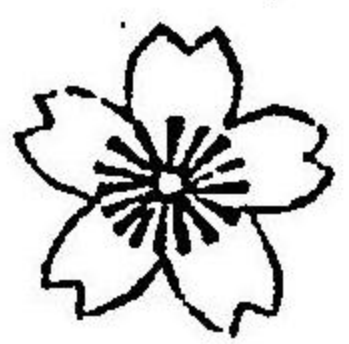
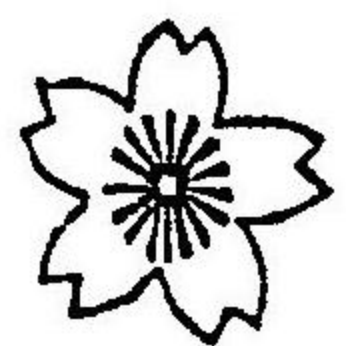
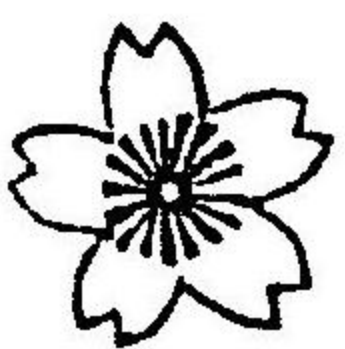
電話(カワ)



北海道石狩國

富士製紙株式會社第六工場

空知郡金山驛



三ノ廿五

吳服太物

荒物雜貨

其他日用品

北海道石狩國空知郡
南富良野村金山市街地

中原商店

電話十九文八十

店主 中原熊市

鐵道取扱店
貨物

金山驛

武田彦一

運送店

三ノ廿五

吳服太物

荒物雜貨

其他日用品

北海道石狩國空知郡
南富良野村金山市街地

申 中原商店

電零(十力)又八(十)

店主 中原熊市

北海道石狩國

富士製紙株式會社第六工場

空知郡金山驛

鐵道取扱店
貨物

金山驛

武田彦一

運送店

土木建築
請負業

川島房吉

上勝線金山市街地

土木建築
請負業

上勝線金山市街地

井 石田茂作

劇場
進盛館
館主 石田茂作

鐵道貨物取扱業

十勝線幾寅驛前

今 淺野運送店

木材販賣部

十勝線幾寅驛前

今 淺野本店

土木建築請負部

旭川町宮下通十二丁目左十號

今 淺野出張所

農牧場部

十勝線南富良野村幾寅

淺野作次郎

鐵道貨物取扱所

十勝線幾寅驛前

寺嶋運送店

電番(テラ)交ハ(テ)

米穀雜貨商

農産肥料賣買
其他日用品

十勝線幾寅市街地

定塚商店

旅館

十勝線幾寅驛

余森木京藏

廉價調進

懇切丁寧

十勝線幾寅市街地

井村醫院

院主 井村萬作

和漢洋藥 高名賣藥
和洋小間物 高等化粧品
諸紙文具 學校用品

十勝線落合

保養堂

高橋藥舖

電話 一〇

商號



營業科目

造材 挽材

賃挽 請負

其他木材 一般

石狩國空知郡南富良野村字落合

落合木工株式會社

海 陸 貨物取扱所

石狩國落合驛

一 駒崎運送店

●御待合所

御辨當 壽司

名物都饅頭

二色餅

生ろば

十勝線落合驛

待合茶屋
構内呼賣
湯原商店

永 山 村

永山村は上川支廳管内に於る開村中最も舊き村也地勢概して平坦にして旭川町の東北に位し東は當麻村に連なり南は牛首別川を隔て東旭川に對す牛首別川村の中央を貫流するを以て灌漑に便に地味亦率ね肥沃にして農耕に便也、明治二十四年屯田兵の移住せし地にして、永山村は時の北海道廳長官兼屯田本部長永山武四郎氏の姓を冒したるもの也、此年役場を番外地に新設し本田親美戸長に任せらる爾來幾多の廢置分合を経て三十九年四月二級町村制を實施せらるゝに至る、現任村長は三浦忻郎氏にして事務に精通の嚆高し。

◎小學校 には永山尋常高等小學校及び外に尋常小學校一と分教場二あり、永山小學校は其始め東西の二校に分離し居りしが三十一年現在の地を下して二校を合併し巨資を投じて建築し同時に東西の二校を分教場と爲し下級の生徒を收容す、現任校長は木村平満昌氏にして教化能く闊村に及ぶ上川農事試験所は屯田兵練兵場に在り、創立以來所長の交迭する事三回、現任所長は道廳技師農學

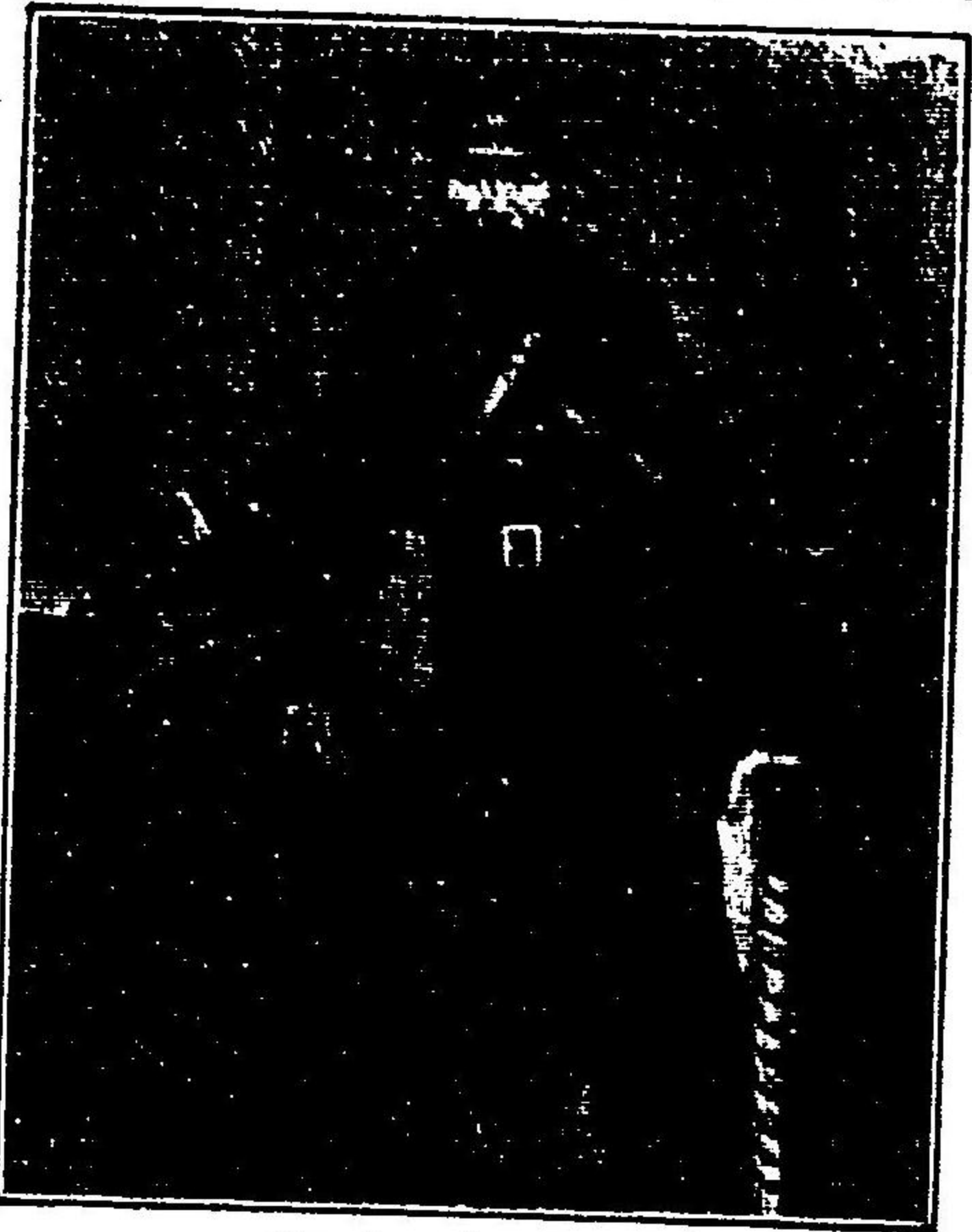
天 鹽 線

學士高野定治氏なるが斯業の改善發達に銳意熱中せり。

◎永山郵便局 は、明治二十五年の開局にして當時大谷虎雄氏局長たり、二十九年現任局長島田清三郎氏後斷と爲り以て今日に至る、局務頗る繁多にして亦正實勤勉の稱あり、寺院には眞宗大谷派本願寺出張所及び曹洞宗妙心寺派の出張所の二ヶ寺あり、大谷派本願寺出張所の住職は永井天寧師にして、妙心寺派大導寺住職は、大江惠澄師なり兩師俱に布教に熱心にして相當の檀家を有し、本堂の築建亦頗る壯麗なり、停車場前の。

◎徳林組木工場 は明治三十九年三月の創立にして、天野徳太郎、中田嘉四郎、國安定夫等三氏の合資組織にかゝるものにして、目下強力なる蒸氣機關を据へ付け、多數の工夫を役使して盛むに製材しつゝ、ある販路は主もに東京、大阪、名古屋、姫路等なり、要するに本村地味肥沃灌漑の便あるを以て農村として本郡屈指の稱あり、殊に養蠶の盛なる郡中此村の右に出るは無しと云ふ近來薄荷の栽培亦一層旺むになり來れりと

君は文久二年正月十七日を以て徳島縣阿波郡市
場町に生る、家代々農を業とす、資性英邁にして
不羈氣骨憑凌として山丘を凌ぐの概あるも、而も
着實にして祖勉祖業を襲ふて能く千百の業に従ふ
郷校に學ぶこと數年、學
爲りて後は日夜孜々とし
て家業を助け未だ竹て倦
色爲しと、明治二十四年
六月屯田兵として始て本
道に移住し屯田歩兵第三
大隊第二中隊に編入せら
る、君の着實にして而も
祖勉なる氣象は、移住後
未だ幾何ならざるに、早
くも能く荆棘を闘き、不
毛を拓し以て恒産を造る



に至れり、明治廿七八年の戰役起るや、君は出征
部隊に編入せられ京に上り、戰役の終了と共に歸
休して再び此地に來り倍々耕耘に力む、家業是よ
り漸く昌んなり、日露の戰役なるや、徵せられて

第七師團に入る、司令部管理部所屬たる共其遂に
湖北の野に渡り、旅順に蓋平に轉戦して勳功尤も
多し、殊に旅順の戰役の如きは最も能く力戰苦闘
したりと云ふ、戰役了るや萬死の裡に一生を得た
る君は、三十九年三月十四
日凱歌を奏して郷に歸るの
好運に遭へりき、異日論功
行賞の事あるや君は功を以
て一時金五拾圓を下賜せら
る、爾來又鋤犁を把りて耕
耘の事に従ふ茲に數年君の
不羈にして憑凌たる着實に
して諄朴なる氣風は深く國
村の信賴する處となり、村
の名譽職に歷任する事幾あ
り、現に永山村部長に擧げ
られ熱心村務に執掌して好評あり、君固より學材
の以て人に誇るべきなく、徳の未だ以て郷黨を醇
化すべき者あるに非るも、而も能く今日の令聞お
る所以の者、一に着實の氣是をして然らしむる乎

◎千葉醫院 永山村に於ける醫院を問はば先づ指
を千葉醫院に加せざるべからず院長千葉治作氏は
夙に志を刀圭界に寄せ學成りて本道に航し門を永
山の地に張り熱心獨特の妙手を揮ひて令聞あり。
◎林商店 永山村に於て吳服太物洋物類を販賣し
信用篤く老舗として知らるゝを金イ印林商店なり
店主林勘吉氏は徳島縣阿波の人夙に斯業に志し二
十五年現在の處に地を相し現業を營でより専ら薄
利と勉強とを以て顧客の利便を計りしかば信用頓
に加り遂に今日の隆を見るに至れり。
◎天野運送店 永山停車場前の好位置にありて信
用高く業務隆盛なるを以て有名なるを角ト印天野
運送店とす店主天野徳次郎氏は温厚篤實の人とし
て毫も輕浮に流れず町噂親切を旨として熱心經營
の衝に當り委託者の利便を計りしかば忽ちにして
名聲を知られ遂に今日の盛況を來せり。
◎根木商店 永山村に在り雜穀肥料商を營み幾多
企業者間に信用篤く取引盛大なり店主根木菊次郎
氏は諄朴にして正直なるが故に益取引確實となり
附近の農民に信賴厚く遂に現時の隆を見に至れり

天 鹽 縣

◎加藤製器工場 農家の福音とも稱すべき改良
製器を製造販賣して有名なるは加藤式改良製器
器製造工場なり場主加藤作太郎氏は山形縣の人多
年斯業の改良に苦心し漸くにして其技を極め昨年
永山村在の十三丁目に工場を設け旺びに製造販賣
をなすつゝあり殊に同器の特色とする處は從來在
振れたる製器の如く片齒摺れをなすが如き思ひ
なきは勿論如何なる場合に於ても嚙まざる等のこ
となきは改良加藤式の加藤式たる所以にして他に
其比を見ざる珍器なりと又大場万石製造所も全所
にあり
◎渡邊製器工場 も亦永山村に於ける屈指の工
場也場主渡邊利助氏は山形縣の人加藤式製器に
劣らざる良器を製造するを以て需用者多く工場倍
々隆盛に向ひつゝありと云ふ
◎植松蠶種製造所 春蠶種秋蠶種風充種各種の製
造販賣をなし其名を知らるゝを植松蠶種製造所と
す所主植松長吉氏は山形縣の人二十四年屯田兵と
して全地に移住し夙に斯業に志し桑園の改良蠶兒
の飼育及び蠶種製造等に熱心也

天 壇 編
比 布 村

比布村は明治三十九年四月一日鷹栖村より分れて二級町村制を施行せられたる新村なり、面積七方哩人口三千六百餘、住民の八部は農業にして他は商工業に従事す、昨秋土工組合設立せられ、本年七月より水路掘鑿工事に着手しつゝ、あれば水田の開発是より其緒に著くなるべし、其他工場の新設等諸般の施設頻繁なれば、數年を出ずして面目を一新するの氣運に向ふべし、地勢は石狩川を隔て、當麻村と相對し更に紛々たる小丘を隔て、近文愛別等に通ず地味肥沃四隣交通の要路に當る將來有望の地なり。

◎村役場 村長以下八名の吏員ありて村務に執掌し、各部落に部長十二名を置いて村務を補けしむ、村會議員は十名にして何れも熱心誠意に議事機關の本分を盡くし、村長以下吏員及び各部長等孰れも好評あり、本村の基本財産は未だ鷹栖村より分割せられざるを以て諸般の施設上困難少からず、さりとて分村以後に於て得たる財産は頗る僅少にして、完全なる町村を作らんに基礎未だ鞏固ならずと、現村長小室氏は村百年の大計を立つるには是非とも基本財産問題の解決を忽にすべからずと爲し、一方其筋に向つて數回の解決方法申請すると同時に、一方新財産の造成に勉めつゝ、ありと云ふ、郵便局あり三十八年の創立にして現任局長は佐竹儀藏氏なり、近年同局は著しく發展して取扱ひ件數一躍前年の一倍半に達せり。

◎教育機關 としては比布東尋常高等小學校比布西尋常高等小學校及び是れに附屬せる二實業補習學校外に教育所三ヶ所、合計五校にして、職員十一名内本科正教員二、尋常本科正教員三、同尋常本科准教員二、代用教員四にして現在就學児童五百七十七名あり現在小學校長は東は柴田菊藏にして西は安田貞藏氏なり。

◎農會と農場 村農會に尾崎桐五郎氏會長たり諸般の農事的設置は多々此會の事業に屬す、渠の土工組合の如き農會事業中の著しきもの也、農場は「ランル」に由利農場あり、山利公正子の經營なる此附近の大農場なるも、管理人の其人を得ざる爲め其發達の遅々たるは嘆かばし。

嘉永三年十二月江戸麴町半藏門外南部丹波守の藩邸に生る、稍長して安井息軒の門に學び得る所あり、慶應四年盛岡に移住し市の碩學内田彌太郎氏に英語を修む、明治二年陸奥國七戸に移住し翌三年藩學の教授に擧げらる、同六年起業の志を以て本道に漫遊し來り、普ねく諸所を遍歴し遂に渡島の江差に居を卜して漁業に従事す、爾來明治十四五年の交に至る間、君の身上的變化は頗る多端にして、或は役夫となり或は學生となり或は教師となり或は官吏と爲る、蓋し是れ君の生涯に於る弊根錯節の時期にして、而て君の堅忍不拔の氣象は多くは此間に修養し得られたるものならん、明治九年七月 畏くも 天皇陛下御館御巡幸の節酒饌料として金圓を下賜せられ、同年九月三條太政



安 田 眞 藏 君

大臣巡視の際酒饌料として金圓を下附せられたる如き、君が逆遇中に於ける最も輝ける光明なりき、明治廿二年九月札幌區に私立育成小學校を設け、自ら教師を兼ね専ら子弟の育英に従事す、三十五年官許を得て廣く寄附金を募り、宏大なる建物を建築し同時に幼稚園をも附屬せしむ、校運是より漸く舉らんとする者ありしに、圖らざりき、同年十二月悪少年の惡戯に由り高樓堂廓悉く烏有に歸し校主家族僅に身を以て免るの厄運に逢はんとは茲に於か君が積年の苦心は一朝にして灰燼に委し去れり、嗚呼是れ獨り君の不幸たるのみならず、實に札幌教育界の不幸と謂つ可き也爾來天は遂に君に再興の氣運を與へず、明治三十七年網走小學校々長より今年四十一年比布尋常高等小學校に榮轉し現に其職に在り。

◎佐竹東香堂 は比布村市街地に於ける唯一の藥種商にして、店主は佐竹儀藏氏なり、氏は現任比布郵便局長として濃厚切實の人なり。

◎川嶋運送店 全店は比布停車場前にあり、店主は川島房吉氏にして福嶋縣の人なり、其營業に忠實なる懇切なるを以て好評あり。

◎中野商店 金中印中野商店は比布村市街地におり全店は比布村に於ける唯一の金物店にして店主中野仲次氏は香川縣三豊郡萩原村字高尾の人なり明治三十四年本道比布村に移住し、全三十九年二月現在の處に居をトし斯業を開始するに至れるものなるが年々業務を擴張し今や全地方屈指の商店となれり。

◎喜多商店 九北喜多商店は比布村市街地に於ける第一等の荒物商店なり、店主は喜多松次郎氏にして常に村民の輿望を荷ひ村政に參與する有爲の人物なり、又其營業に關しても眞摯にして且つ懇切なるが故に店頭常に顧客を以て市をなすの繁昌を極めつゝあり。

◎高橋甘清堂 九五印高橋甘清堂は比布市街地に

於ける第一の菓子商なり、店主は高橋五郎吉氏にして愛媛縣宇摩郡兼崎村の人なるが明治三十年比布に移住し暫く農業に従事し居りしも同市街の發達と共に其商業に若かさるを察知し同三十八年現在の箇所に地を相し斯業を開始し以て今日に至れるものなりと云ふ。

◎高房商店 山カ印高房商店は比布村市街地におり店主は高橋房吉氏にして愛媛縣伊豫國宇摩郡寒川村の人にして明治三十年比布村北一線七號に移住し農業に従事せしが三十九年に至り現在の地に移り荒物商店を開業するに至れり。

◎山本商店 山正印山本商店は比布村に於ける唯一の荒物商店なり、店主は山本正成氏にして和歌山縣西牟婁郡南富田村の人なるが明治二十九年屯田兵として雨龍郡納内に移住し後此地に来れるもの也。

◎山ト工藤商店 天鹽線開留にて荒物商の大なるを同店とす店主貞義氏は日露の役に功七級を得たり店運日々に旺む也。

劍 淵 村

劍淵村は元「ケチナナ」と稱へたりしが、明治三十二年開村と同時に劍淵と改稱せられたるもの也、地勢率ね平坦にして三面山を以て圍まれ、東北の一方展開して土別村に達す、地味率ね泥炭不毛にして、僅かに一部分の肥沃地を見るのみ、面積四十二方里餘成盤地既に二千五百餘町歩に達し、貸附未効地又頗る多し、部落の重なるものは和寒、ベオツベ、オンチンベツ、エバノマツ、イブンウシベツ等にして、イブンウシベツは四十年程度始て區劃を設定せし新殖民地にして百餘戸を移住せしむるに足ると云ふ、本村は以上の如く地味概して不良なるを以て其發達する遅々たりしかば、灌溉給水の事業及飲料水の供給等専ら移民の吸集に努められたる結果、幾分從來の衰頹を挽回するに至れり、目今戸數千五百餘番外地の商家一同稍活氣を呈し來れり。

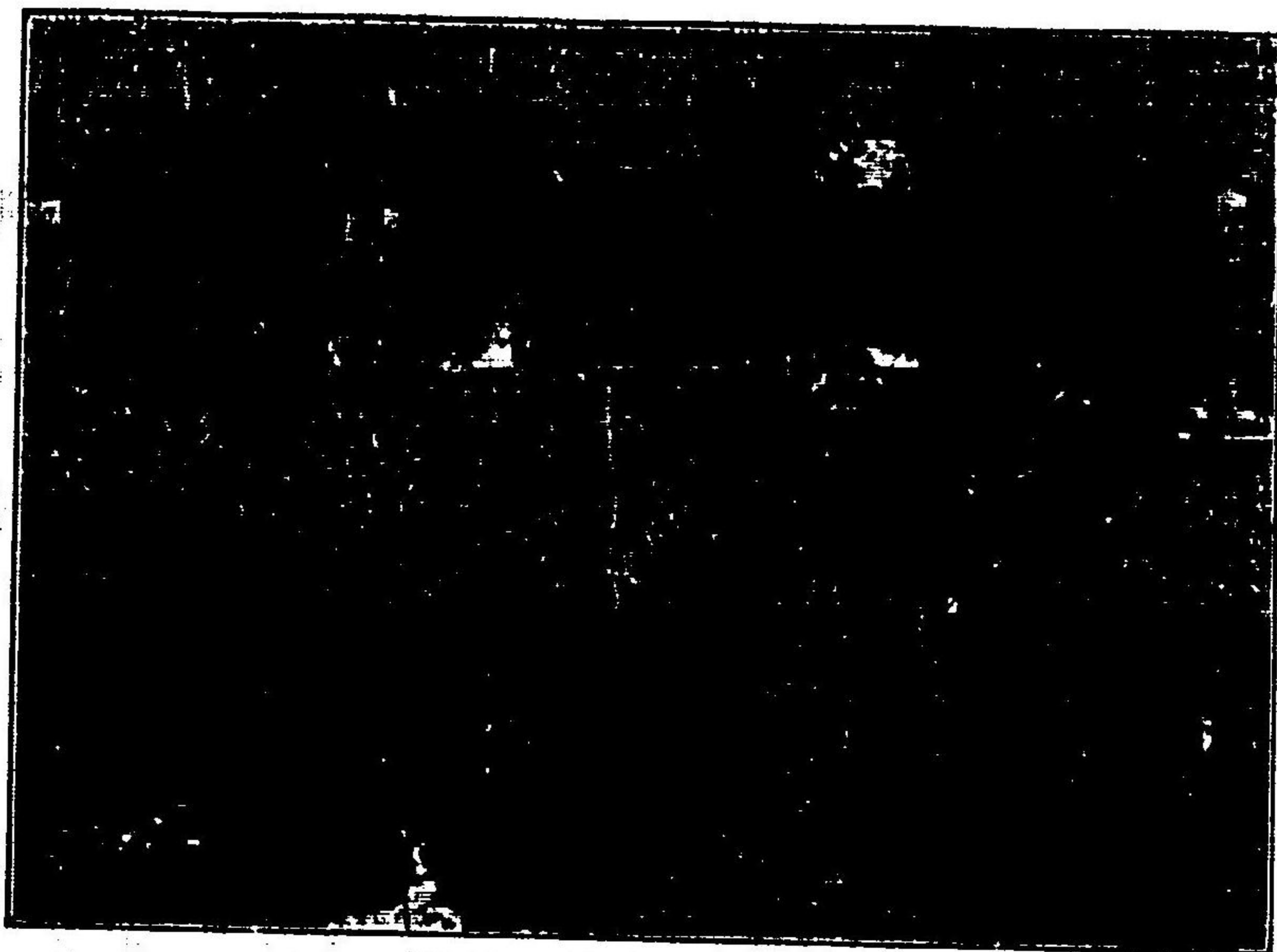
◎村役場と小學校 明治三十二年七月始て戸長役場を置き志垣泰矩氏戸長たり、其後兵村の滿期解除と共に住民も増加し三十九年四月二級町村を實

施せられ竹内景明氏村長に任せられたり、現任村長は松浦氏にして村民の氣受け頗る好し、巡查部長派出所あり部長川嶋角太郎氏駐在し敏腕の評あり、小學校には尋常高等併置一尋常小學校三簡易教育所四あり何れも設備完備せり、郵便局は劍淵局和寒局の二あり、前者の局長は富山富次郎氏後者の局長は須貝廣夫氏也俱に事務に精通の稱あり説教所には眞宗大谷派説教所眞宗本願寺説教所あり本願寺派は笠原靈瑞師是を管理し大谷派は尾崎法秀師之を管理す、農場は神原、秋野、豊島、宮腰等の諸農場及越中團體等也就中越中團體好評あり◎中本商店 丸中中本商店は番外地に在り店主中本爲助氏は商事に精はしき好人物なれば店頭常に顧客を以て市を爲す同村唯一の荒物店也。

◎一岡呉服店 丸イ印一岡呉服店之れ又番外地に在り一岡外次郎氏店主たり品質堅く値廉なるを以て顧客の氣受よく昨今頗る繁昌し來れり。

◎矢久保商店 山カ印矢久保商店は和寒に在り店主は矢久保佐助氏にして同地第一の荒物雜貨商店として店頭常に賑やかなり。

天 鹽 縣



劍淵尋常高等小學校

天 圖 編

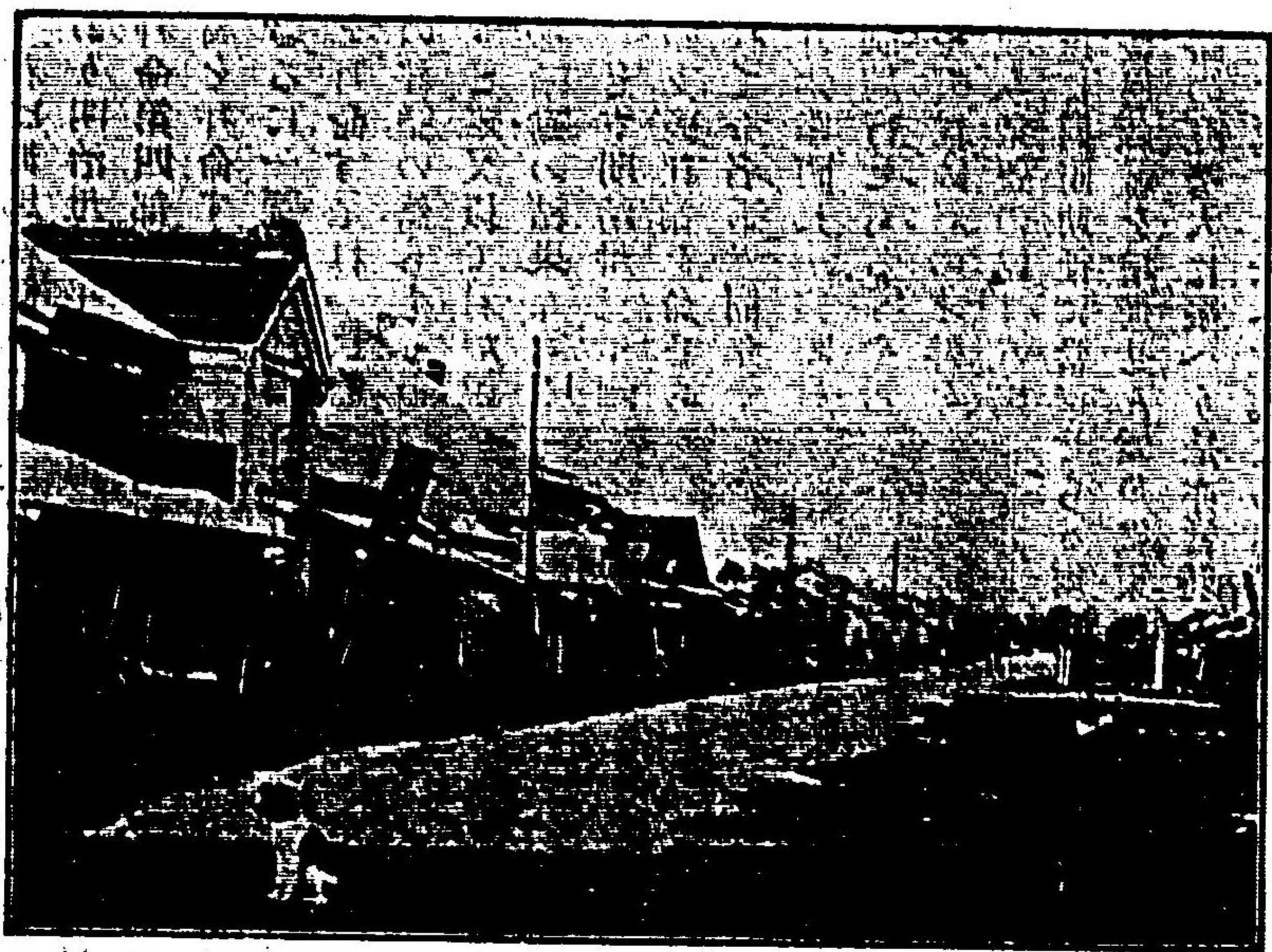
劍淵尋常高等小學校は上川郡劍淵村の中央部に在り、明治三十二年の創立にかゝる當時の學事關係者として戸長志垣泰矩第三中隊長福井重吉第四中隊長難波田憲欽氏及創立委員淺川友右衛門、大村丈市、高橋五郎左衛門、宮崎憲太郎等諸氏斡旋盡力せられたり、校舎の設備は敷地一万坪校舎總坪數百八十坪外に七十八坪あり、明治三十七年十二月廿八日始て、聖影を下賜せらる、爾來校運は倍々發展し學校園、体操場の設け並に校舎の増築等の爲め、現在に於ては總坪數約四百卅坪を見るに至れり、職員は明治三十二年十月鈴木規矩男氏始て校長に任せられ銳意創業の任に當る、翌年六月沼宮内秀實氏代りて校長と爲り卅六年須藤光顯氏又是れに代はる、現任校長は尾崎演太郎氏にして、職員六名兒童三百六十餘名を有せり、曾て尾崎氏の赴任するや銳意校務の改善を圖り能く職員を統轄し成績頗る見るべきものあり、三十二年創立以來大迫七師團長を初め大官貴紳の參觀せられたるもの多しと云ふ。

君は群馬縣館林の藩士なり幼にして聰明の間へあり明治卅二年始て北海道に渡り同年二月道廳雇拜命第四部勤務を命せられ同年四月累進して同廳屬を拜命す洵たる一雇吏員は勤績未だ幾干月ならざるに一躍して本官を拜命す是れ一に君の經歷の然らしむわりと雖又以て君が銳意精勵の結果ならずとせず明治卅三年劍路支廳在勤を命せられて令名あり同年十月劍路町に二級町村制施行せらるゝや否や町民は君の才幹を頼み衆望の歸する處遂に同町助役に當選せらる爾來町長を補け町民の發展福祉を増進せん爲め畫策經營せらるる無く劍路の町勢大に振へり是亦當時町長其人を得たるの致す處とは云へ做腕なる君の忠實なる補佐あるに



あらずんば到底如此なる能はざりしなるべし明治卅七年十月任期満了町民の多くは君の再任を冀望せしも君は在郷の實父病氣の故を以て止むなく町民の輿望に背き遂に役を辭して郷里館林に歸郷するに至りぬ明治卅八年三月再び渡道して更に道廳屬を拜命し官房課在勤を命せられ四十年九月空知支廳に轉勤す前年六月病を養ふて遂に退官を爲すの止むなきに至りぬ君が官海に於ける經歷は長しと云ふにあらねど而も其歴史は君の做腕才幹を飾るべき令聞ならざるは無し蛟龍は久敷池中に埋没すべきにあらず病の爲めに冠を掛けたる君は退官后まを脾胃の嘆を爲すの迫あらず月を超へて七月上川郡劍淵村の村長を拜命し現に其職に在り由來君夫れ村治の爲め天稟の性能を發揮せよ。

天 圖 編



士 別 市 街 全 景

天 邊 嶺

士 別 村

士別村は天鹽國上川郡の東南端に位し東は東北山脈を境して北見との國境をなし、北は同郡上名寄村及多寄村に接續し、南は石狩國上川郡に界し、東南の二面は山脈を以て隔まれ南は劍淵川の和寒山間より發して北流するものあり、抑も同村は明治三十年六月の開村にして當時は天鹽國天鹽郡天鹽村役場の管轄に屬せしが三十二年七月屯田兵の移住と同時に劍淵村戸長役場の管轄に屬することとなり三十五年九月劍淵村戸長役場の支配を脱し更らに役場新設せらるることとなり熊谷彦太郎氏戸長に任せられたり當時此の地は官設鐵道の終點なりしを以て北見地方に通行するもの夥しく爲めに非常なる繁榮を來す卅六年九月に至り鐵道の延長すると共に一時其の繁榮を阻害せられんとするの傾向仄に見へし其後附近部落の開發に伴ひ漸次舊狀に復するに至り現今にては天鹽線中名寄に次々の大市街を形成し其附近部落は勿論近村近郷等のものは皆何れも此の地より日用品の供給をなすに至れり目下戸數千二百有餘にして現任村長は江

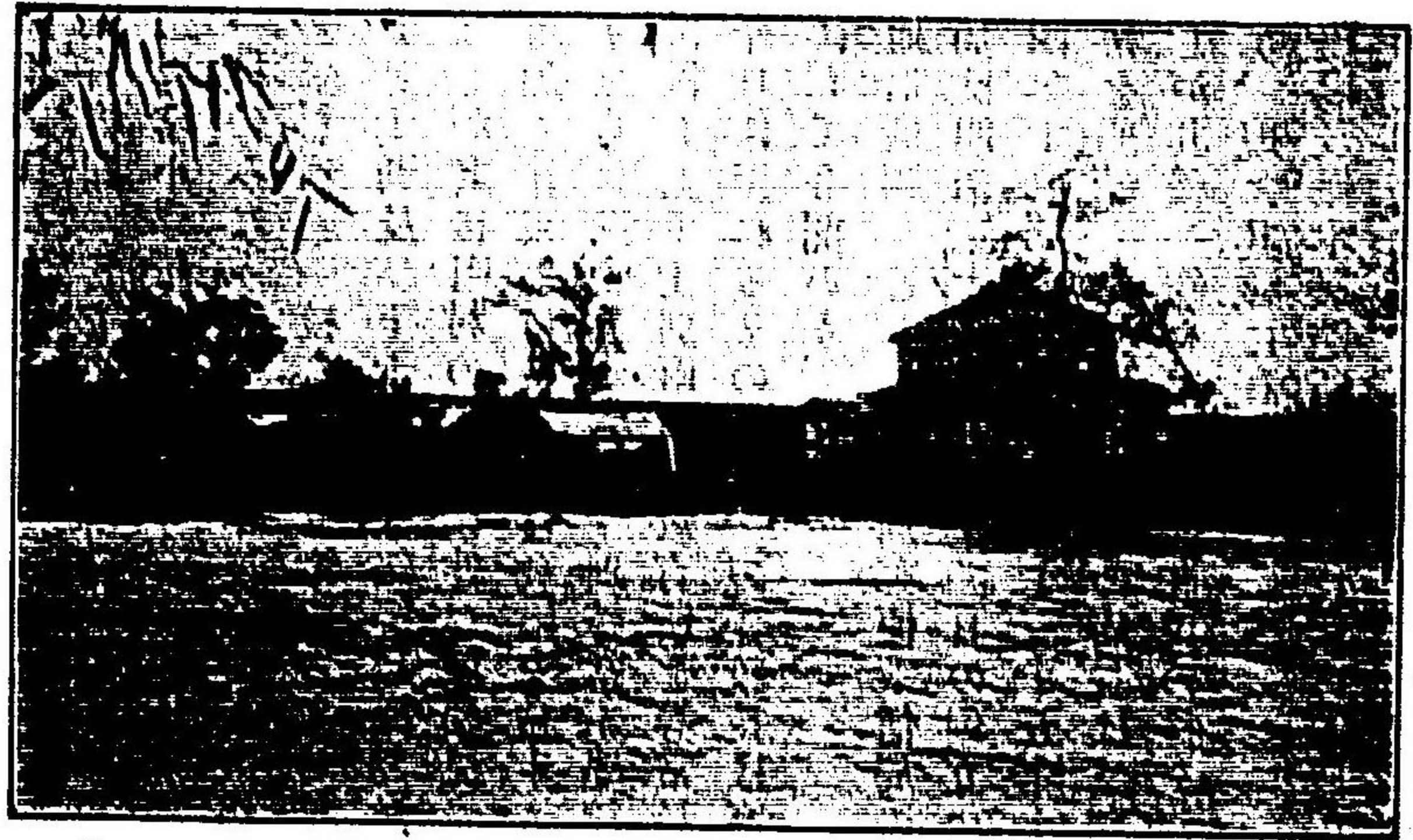
十

刺家雄吉氏なり。
 ◎教育機關 として士別尋常高等小學校及び第一第二尋常小學校の設けあり、從來士別尋常小學校の一枚のみなりしが卅五年度に至り俄然殖民の増加を來し到底一枚に就學せしむること能はざるを以て上士別及び下士別内大部等に簡易教育所を新設せしが其後町村の膨脹に伴ひ就學児童の數著しく増加し在來の校舍にては狹隘を感ずるに至りしより更らに三十五年六月士別尋常小學校に高等科を併置し上下士別兩簡易教育所を尋常校に改め以て今日に至れるものなり、現任校長は高平久之丞氏にして令聞あり。
 ◎通信機關 としては士別郵便電信局の設けあり同局は明治三十三年七月十一日の創立にして、三十四年十月局舎の増築をなし三十五年十二月電信事務を開始したり開局當時の局長は遠藤榮次氏なりしが其後一條利喜次氏遠藤氏の後を襲ふこととなり、現に其職に在り。
 ◎農場及軸木製造所 同村に於ける農場の重なるものは奥野農場、石川農場、富山農場とす、而し

天 邊 嶺

て之等農場は北陸地方より小作人を募集し來り奮勵以て之れが開墾に従ひ居れり、又日本燐寸製造所士別軸木工場は士別村番外地にあり目下旺んに製軸中なり。
 ◎八木澤商店 は士別村番外地にあり、店主八木澤權四郎氏は商業熱心の人なるを以て店頭常に顧客を絶ちたることなし。
 ◎向山旅館 山西印向山旅館は士別停車場前にあり、客室清潔にして食膳常に美味を備ふるを以て好評あり、之れ同地第一等旅館ならん。
 ◎藤田商店 丸五印藤田商店は士別村番外地に於ける唯一の農産肥料商なり、店主藤田長次郎氏は商業に機敏にして且つ愛嬌ある人物なれば其商業上の發達は宛然旭日冲天の勢あり。
 ◎金井搾乳所 は士別停車場前にあり、所主金井荒次郎氏は親切にして營業に熱心の人なれば頗る好評あり、殊に牛乳は至極精良のものなりと。
 ◎福田運送店 は士別停車場前に於ける唯一の運送店にして店主は福田菊松氏なり。

十一



大 内 渡 船 場

天 橋 船

上士別渡船場は 明治三十二年三月大内勇紀氏 始て其許可を得たるもの也、故に地方人呼びて是 を大内渡船場と稱す、同年七月第五中隊の將卒此 處を往返せるを以て紀念と爲す、場は士別停車場 を北に距る十八丁餘の處にあり、鐵橋と相對して 頗る風致に富む、天橋川を境して名寄に通ずる要 路に當り往返の客頗る頻繁也、場主大内氏本貫は 仙臺、明治十二年始て本道に渡り各地を遊歴する 數度、具さに北門開拓の時務を覺り、一旦歸郷し て再渡の計を爲す、二十三年再び渡道して雨龍郡 の深川に移住し日夕開墾の業に従ふ、三十一年更 に荆棘を踏破して士別に到る、當時固より士別に は一人の移住者さへなく、劍淵を去る三里餘人跡 絶へたる無人の境を、米三升を肩にし僅に「ヤマ ペ」など云へる魚類を漁りて糊口を凌ぎ漸く此地 に着くを得たり、翌年劍淵より僅かに國道を通じ 進て市街及殖民地の區劃爲り是より漸く移民來り 住す、當時蚊軍の襲來最も甚しく誠に堪へ難きも のありしと、寔に大内氏は士別移住の率先者也、 士別史乘に逸す可ざるの人也。



天 橋 船

米 雜 穀 肥 料
鹽 石 油 蕙 力 マ ス 繩

① 刃 銘 酒 笠 乃 雪 常 盤

② 味 噌 醬 油

③ 醬 油

各 特 約 大 販 賣

天 橋 國 上 川 郡 士 別 大 通 六 丁 目

⑤ 藤 田 商 店

電 界 (〇 五)

多 寄 村

多寄村は天道川の流域に半ば圍繞せられたる平野にして、石狩國雨龍郡に境し、南は士別村に隣り北は上多寄村宇風連に接す、地勢平坦にして地味肥沃なり、本村は明治三十三年の開村にして、其當時は交通不便なりし爲め充分なる開發を見るに至らざりしも其後鐵道の開通と共に漸次發達をなし既に今日に至りては些の空地を餘さざる迄に異數の開發をなしたるも、如何せん全地方は一般水利の便に乏しく、只僅かに畑耕作を目的とするより他に途なく若し之れを水田に改造せんとするには個人として容易に之れを爲し得べきことにはあらざるを以て心あるものは常に之れを遺憾とし如何にもして其善後策を講せずんば村將來の爲め策の得たるものにあらざるとなし本春來有志者屢次相會して其協議を凝したる結果遂に一大灌漑溝を堀穿することを決したり而して其の計畫といへるは士別川より引水をなし三千有余町歩の面積に灌漑するの方針にあり尙ほ而して其延長は約五里にして工費二十万圓なりといふ、若し此計畫にして村

有志の希望の如くなりとせば本村の將來は大いに
見るべきものありと信す。

◎教育機關 としては尋常校二、及び簡易教育所あり、尋常校は上多寄及び下多寄に設置しあり、下多寄尋常小學校長は前田正平氏にして上多寄尋常小學校長は一戸太助氏なり。

◎通信機關 としては多寄郵便局の設けあり、全局は明治三十九年の開局にして局長は小川氏なり、全局長は局務の傍ら木材營業をなし全地方の有志家として尊重せられつゝあり。

◎寺院 本村内に於ける寺院は寺號公務の者三説教所一都合四ヶ寺なるが其内上多寄に建立せる周圓寺は眞宗出雲路派にして現住職は荒川周圓氏なり全井八線に於ける説教所は眞宗眞正寺派にして現管理者は鴨部周圓氏なり亦下多寄に建立せる教岸寺は眞宗本願寺派にして現住職は岩橋首行氏なるが全寺は卅九年の寺號公稱に係り境内坪數は一干坪にて檀家三百有余なりと光臨寺は眞宗大谷派にして卅九年四月九日の寺號公稱にかゝり現住職は鹽谷利生氏全寺も又二百五十有余の檀家ありと

下 多 寄 正 木 才 次 郎 君

明治二年七月山口縣玖珂郡和木村に生る、長兄を榮と云ひ氏は其末弟也、明治二十六年屯田兵として上川郡富麻村に移住し第一中隊に編入せられ日ならずして上等兵に進む、日露戦端を開くや君歩兵第廿五聯隊に編入せられ第三回補充兵として出征、三十八年一月旅順に上陸す、爾來阿司牛、遠子堡、念嶺、刘家窩棚等其他各地の戦闘に力戦す此間能く分隊長を補佐し勇猛果敢定に軍人の好模範と稱せらる、殊に三月十六日刘家窩棚の戦闘の如き大隊は遊軍の危急を應援すべきの命に接し直ちに大隊を展開し一帯高く急進するや、敵軍は雨霰れと飛散し來り勢ひ頗る猛烈也、此役我軍に利あらずして中隊の死傷殆ど算なく、中隊將に全滅せんす計りの悲惨を極む、然も君は泰然自若とも加するの色なく、方戰奮闘克く部下を叱咤督勵し、一軍の士氣爲めに振ふ、其年四月一日直ちに伍長に任せられ、同月十四十五の兩日に亘れる太子家の戦闘には、君斥候長として數多の危險を冒し幾多の辛酸を嘗み、銳意熱心以て敵軍偵察の任

務を全ふす、君の敏捷にして而も正確なる活動は

行く所として有利なる報告を齎らざるはなく、中隊又君の勢によりて裨益する事少からざりしと云ふ、超へて六月十六日東平房に奮闘す翌七月一日高窩棚の激戦には、君分隊長として能く小隊長を補助し、細心の考慮を以て能く部下の射擊効力を發揚せしめたる等、兵卒として下士として、自家任務の上に於ても間然する處なし、然も敵軍の猛烈なる衆寡遂に敵せず、我中隊の慘憺たる光景は倍々慘憺たり、敵軍彌々勢を加へて益々我中隊に肉薄す、氣息奄々たる我中隊は全滅を塔し君に命するに右側面監視の重任を以てす、危險固より云ふばかりなし、秋偶々猛烈なる敵軍は更に一隊の精銳を率ひて君の守れる我中隊の右側に迫る、中隊全滅の機運に迫れる我中隊は茲に於て彌々急を告ぐ君奔つて、此急を告げんと頭を上ぐるや、敵軍君の頭部を見舞ひて鮮血淋漓たり、而も君毫も加する色なく任務を完ふして殊勳を樹つて戦死ひで凱旋するや功に依り金鵄勳章七級恩給七十圓を下賜せらる、偉なる哉。

君夙に公共に意あり、往年上多寄に移住して以來村公共の爲に盡瘁せられたりしもの決して妙なしとせず、曾て上多寄村に巡査駐在所建築の事あるや、君自ら進んで宅地九十坪と工費三分一を寄附し、又村校の成らんとするを見ては直に一町歩の土地を寄附し、更に秀間寺建築の舉あるや君亦自ら進んで二反五畝歩の土地を寄附せられたり、以て君の村公共に盡瘁するの一般を知る可き也、宜也君の村間に於ける信用の最も厚く郷黨の尊仰を收めつゝある事や、君明治十一年岐阜縣羽島郡松枝村に生る、幼より父祖を補けて耕稼の業に従ふ、長じて時勢を解するや君北海開拓の魚眉の急を覺り、又男兒立身の地たるを認め、明治二十三年遂に本道に渡り空知郡栗澤村に移住し以て農事



後 藤 真 作 君

に力む、爾來辛酸苦心開墾の事に従ふ事十餘年、恆産此處に成る、君の産を爲すに妙を得たる多年の苦心に爲れる貯蓄を資本として三十五年清眞布に一吳服商賈を開設す、未だ幾何ならざるに上多寄村原野に於ける貸附地三十九万二千餘坪の貸附を受け、知己後藤真作小川彦次郎岡專助等の三名と共同して該未開地の開拓經營の事に熱中す、茲に於てか君居を今の上多寄に移し、豫て開業し來れる吳服店を此地に開く、君の勉強なる一方かゝる大農場の施設經營に任ずるの側ら一方又かゝる大商店の經營に従事して寔も遠算なく家運彌々隆盛を極む、君の才、君の識寔に縦横と謂つ可き也、今や郷黨の信用を一心に收め闡村有爲の一異材として村組長の名譽職に舉られ、村公共の爲めに盡瘁しつゝありと云ふ。

上多寄 山田善太郎君
 文久二年十二月廿六日、山梨縣北巨摩郡菅原村に生る、山來山梨縣人襟度狹隘、膽區々として豆の如く加ふるに猜疑の僻ありと稱せらる、然るに君の人と爲りや、能く此普通の縣人の通弊に漏れ膽海の如く而も個傑にして大志あり、猜疑の念を去つて、温厚能く好むで人と和す、明治三十三年十一月北門開拓の壯圖を抱いて單身此地に航し、天鹽國上川郡多寄村字上多寄原野に移住す、而も當時已に移住者族々未開地の貸附を受くるに頗る困難也、然るに君の熱心なる百方奔走の結果、辛ふして未開地數十萬坪の貸附許可を得、直ちに小作人二十餘戸を募集し、自らは督して耕耘の業に力め、成蹟大に舉かり産亦成る、茲に於乎、立脚の基礎彌々鞏固に、村民の信頼倍々厚し、四十年上多寄市街地に一大家屋を建築し家具商店を開始し營業愈々旺む也、君多寄村開村以來終始總代人と爲り現に其職にあり、以て君が闡村に於ける信用を察すべき也。

上多寄 鴨部秀四師
 北海道第三教區講習會幹事長權小僧都鴨部秀四師は、明治十八年三月香川縣綾歌郡西分村に生る村校に普通學を修め、後ち私立仁誠中學宗教部に入り始て宗教の學を修む、研讀數年同部を卒業す夫より笈を負ふて神戸に赴き、中島通私立英語學校に入り英語を學ぶ處あり、遂に進んで興正寺派設置の敬愛學會高等學部に入り、更に宗教の蘊奥を極め、同學部の業を卒へ名僧知識としての資茲に備はる、三十九年九月擢られて北海道布教師を命ぜられ、興正寺派上多寄村說教所主幹として任に上多寄村に赴き、爾來專念布教に従事し令聞あり、昨年北海道第三教區講習會幹事長を命ぜられ權小僧都に任じ三等院家に擢進す、聞く興正寺派上多寄說教所は三十四年八月の創立にして爾來高木玄白、日笠了榮、大島海門等の破戒僧三代に亘り、信用と地を拂つて又頗るものなく荒廢又荒廢寔に慘たる光景なりしと、鴨部師苦心經營の結果今後再興の機運に會し狂瀾を既倒に防せげりしなりと、鴨部氏の功不朽に傳ふ可き也。

大凡世の中に職業の数は多かれども、教導職ばかり難きは傳ひ穿なるべし、いか程口に善知を説きたりとして、いか程口に善行を稱へたりとして、吾身の行ひのこれに則はずでやば、教導職としての價値は少しも添はぬ事ぞかし、數多善知を著へたるの智識が、躬自から人の子と模範と爲りてこそ教導職の價値は高かれ、去るを未世破戒の僧徒等口こそ能く善知を説きつれ、吾行ひの少しも是れに則はぬのみかは、色里の酒の味、おならぬ袖のうつり香、忘れられぬ放蕩僧侶もあれば、煩惱の犬に追はれ、物慾に惑ふて人の子の妻女を姦し恬として恥するを知らぬ破戒僧も數多しと聞きつる今日、師の如き世に傳ひ稀なる名僧智識ありまことや師の如き生ける佛の權化とや云ふならめ師



岩 橋 行 師

は明治八年八月、富山縣婦負郡金屋村に生る、廿八年富山縣佛教中學の業を卒へ、同じ歳の末つ方仙臺宮城校に佛教を修めしこと一年、翌年の九月更に京都佛教大學に入學、學びの間に遊ぶまた三年を出でざるに、偶々故郷に祝融氏の災の出で来て、師は止むなく中途業をやむべくならぬ、三十三年八月石狩國夕張郡紅葉山の開教を擔任し、任に當り一年餘り、其後は専ら本道各地を經廻りて布教につとめ、三十七年天鹽國下多寄に來り今の説教所を創立せりきこれより師の博識善行はよく郷黨と醇化しつとして信徒はいや増しぬ、三十八年十一月寺號公稱の認可を申請し、翌年の七月教岸寺と公稱するの許しを得ぬ、澆季末世の代師の如き高僧知識を見る、いと嬉し。

◎九大山田商店 開店未だ幾干ならずして克く名聲を馳せ上多寄市街地中良買として人の知るものを山田商店と爲す全店は家具漆器類販賣店にして上は高價なる品より下は廉價なるものに到る迄一度之れを同店に糺さば意に滿たざるはなく店頭常に顧客の足を絶たざるの盛大を來しつゝ、あり店主山田善太郎氏は山梨縣北戸摩郡の人明治三十三年本道に航し久しく農業に力を致せしも近來天鹽地方の開発と共に家屋建築をなすもの益々其の多きを加ふるに至りしより家具漆器類の販賣有利なるを認め遂ひに地を現在の箇所に相して斯業を開始するに至る爾來星霜幾許ならずと雖も其着實と信用の結果は次第に業務の隆盛を來し今年々利する處少なからずといふ。

◎山五後藤商店 上多寄市街地中興服太物洋物の精良なるものと尤も嶄新なる流行品多き商店を問は、先づ指を後藤商店に加せざるを得ず店主後藤良作氏は岐阜縣の人少壯本道に航し商業に従事すること多年其の精勵と熱心とは商界を案じ商機を察するの妙あること少なからず而して一度斯業を

開くや克く流行の赴く處を看破し洋物類の如きは尤も嶄新なる物品を備へて顧客の意を滿たさしめ加ふるに店員一同丁寧親切を以て客に接せらるゝが故店頭常に市をなすの隆盛を見るに至れり。

◎齊田商店 全店は荒物呉服商として下多寄市街地に名あり店主齊田山四郎氏は越中の人夙に斯業に身を委ねて熟達し北海に新天地を開かんと期してより地を下多寄に相して現業を開き尤も力を産地の選擇に盡し常に薄利を以て良品を廉價に販賣せしかば忽ち信用を薄し遂ひに現在の繁榮を來せり蓋し氏は篤實を以て成功せるの人なり。

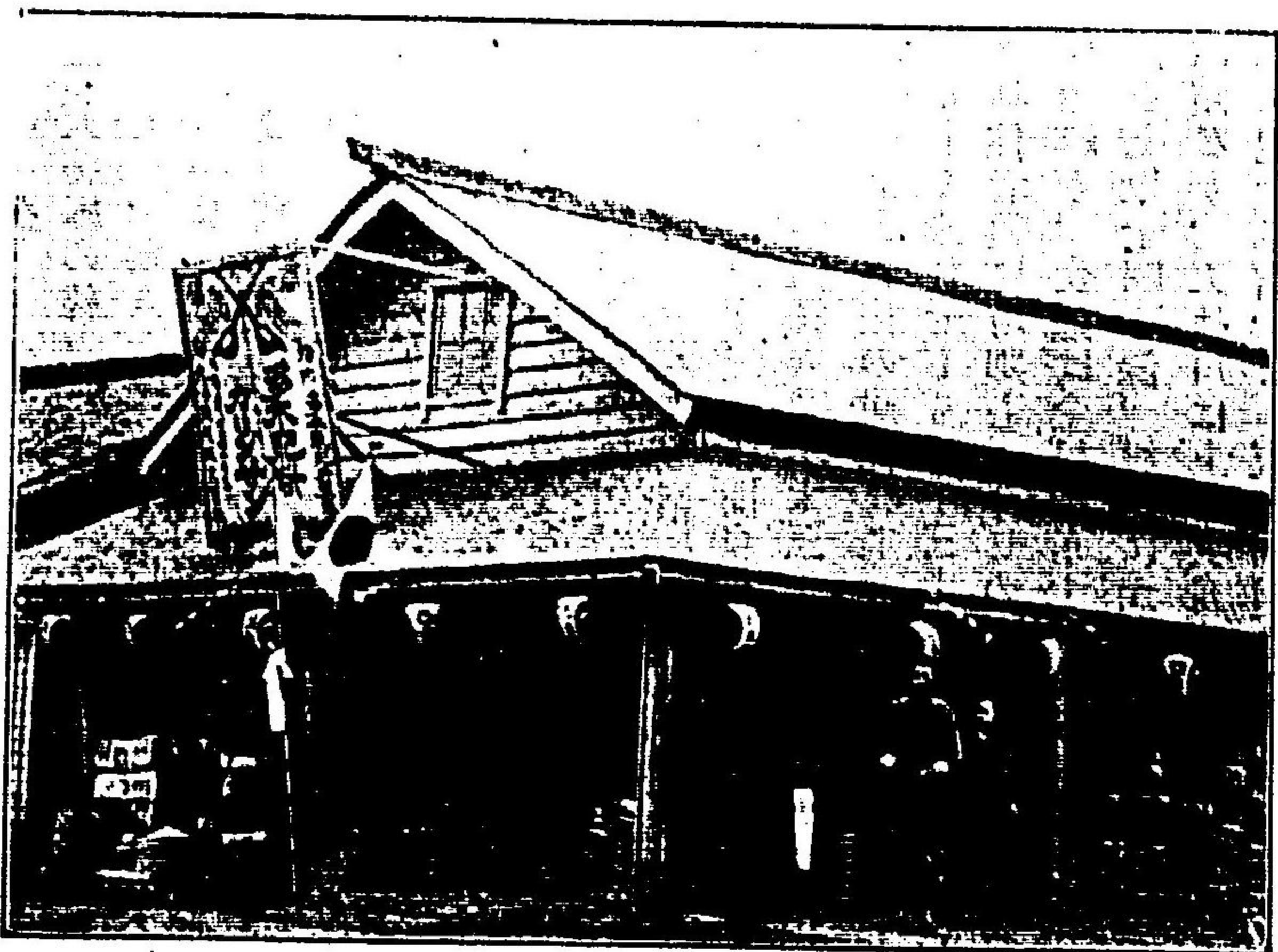
◎正木商店 米穀荒物雜貨商店として下多寄市街地に名あるを金正正木商店とす店主正木才次郎氏は山口縣玖珂郡の人明治二十六年屯田兵として上川郡當麻村に移住し解散後は専ら商業に其身を委し一度志別村に斯業を開始せしも志を得ず、三十七年現住地に移轉し現業を營む爾來其奮勵と勉強とは次第に順境を來し、遂ひに今日の盛大に至る。

荒川秀四師は、天埴國上川郡多寄村眞宗天埴山
 秀四寺の開基住職也、郷里福井縣越前に生る、明
 治三十五年六月山命を帯びて始て此地に渡道し同
 年十月多寄村三十六線西三番地に於て富生眞吉氏
 より敷地二反七畝歩の寄
 附を受け、一草庵を設け
 て布教傳道に従事したる
 が抑も此寺院の起りなり
 とす、超えて三十七年十
 月三十餘軒の堂宇建立し
 是れより眞宗説教所と公
 稱するを得たり、同三十
 九年後藤良作氏より同線
 西四番地に於て二反五畝
 六歩の寄附を受け敷地は
 彌々擴大し來れり、同年
 従來の殿宇を庫倉と爲し、更に五十餘坪の本堂を
 建立し寺號公稱の件を其筋に出願し、四十年三月
 其認可を得たり、依て眞宗派本山は寺格を内陳列
 座地に編入し、秀四師を以て第一世の住職と爲す、



荒 川 秀 四 師

然るに多年の辛苦經營になれる、幽邃閑雅の莊嚴
 なる此堂宇は、風泊雨師の襲來に得堪へずして、
 遂に顛覆破壊するに至りしを、返すくも遺憾な
 れ、不撓不屈の氣に富める師は決してコレ式の事
 に失望するのみに非ず、爾
 來再び本堂の改築に盡力す
 平生師の教化に浴しつゝあ
 る多寄の信徒は、草の風に
 於けるが如く靡然として相
 應し、互に淨材寄進して本
 堂の再建を圖り、昨今工若
 中にありと聞く、北海の地
 所謂破壊僧に饒めるは皆人
 の等しく慨嘆する處、願ふ
 に眞宗派の本山が特に師を
 拔擢して、此惡僧凡俗の群
 に投せしめ、能く心界荆棘の拓開を委任せられた
 るは深く師に信頼する處のものありしが故なるべ
 し、さなり渡道まだ幾千ならざるに早くも已に希
 望を負ふ、本山の管理者亦明ありと謂つ可き也。



呉服、太物、米雜穀
 各種肥料雜貨
 官製 塩 煙 草
 和 洋 酒 醬 油
 罐詰類其他日用品

天埴國上川郡多寄村二十五線

齋 田 商 店

電話(サ)又ハ(サイ)

天 埴 村 名 寄 村

天 埴 編

現時天埴線の終点地、將來天埴線の分岐する樞要地として、衆人の矚望せる處を名寄村とす、全村は上名寄及び風連の二大部落を總稱せしもの也、本村は戸數千九百七十五、人口七千九百七十七にして内名寄市街戸數七百餘人口三千内外、舊土人十二戸四十二人なり、地勢は東及北に山岳を負ひ中部は丘陵地帯として相連り天埴川「アールベツ」川「ナヨロ」川の横流する平原肥沃の地なり、ナヨロ川の流域より天埴川沿岸に至る一帯の地を名寄原野と稱し、天埴川兩岸の地を名寄原野と稱す本村は明治三十三年の開村にて、新潟縣人齋藤卯之吉氏、佐賀縣人荒木太三氏、富山縣人徳田卯太郎氏の如き移住の祖先にして爾來日に月に移民續々として來住せしむ就中三十六年九月鐵道開通以來移住者頗る増加し、今日の如き人口戸數を見るに至れり、交通は全村より士別停車場に至る陸路凡そ七里十四丁餘、旭川に至る鐵路三十三哩二十四鎖なり、天埴川は上下共舟楫を通する便あり、殊に現今は當村より天埴川口に至る運漕船數十艘

二二二

ありて頗る交通運輸の便を圖れり、本村は最初劍淵戸長役場の管轄に屬せしが、明治三十五年九月分離して名寄市街中央停車場の東北四五丁のヶ所に戸長役場を開廳せり現任戸長嶋恒義氏最近の赴任なるも事務整然令聞あり、目下筆生四人臨時三人雇二人を以て其局に當れりと云ふ。

本村は上名寄風連の二大部落を一括せるものなるも其實十一ヶ所の小部落より形成せるものなれば面積も隨つて廣漠にして、東西十三里南北三里餘に亘れる廣漠肥沃の地なり、名寄市街は東西六百九間南北九百八間にして、面積五十五万九千六百坪なり、本本市街は三十六年鐵道開通以來非常の盛況にて尙第二期たる天北線の起工眼在に迫まらる處より、三十八九年より四十年に跨り市街の般賑、商家の繁榮は他の及ぶ處にあらざりしが日露戰役の結果國費の膨脹より第二期線たる天北線の起工無期繰延べとなりしと、本道一般不景氣の影響を蒙り、昨年初秋より俄然として衰頹の非運に接したりしは本村の爲め嘆すべき現象なり、蓋し本村市街の宅地は最初當局其法を誤りて

競賣に付したる結果、其所有者は各地に散在して急に家屋を建設するの運びを爲さず故に停車場通を除くの外市街散漫として空地多く、却つて越後團體地方面に開發しつゝあり之れ一は本市街の萎靡振はざる所以なり。

本村の官公署としては、戸長役場、警察分署、郵便局、尋常高等小學校(風連に尋常小學校一)林務課員駐在所等あり小學校長は飯田復鹿氏にして上川支廳管内有爲の良教員なり目下同校は職員校長以下二十一名在學兒童六百四十九にして天埴線第一の學校たり、農牧場の主なるものは越後團體、佐賀團體にして市街の大なるものは名寄倉庫株式會社、大久保木材店農牧部、三ツ星運送店、名取酒造場、曲り笹原酒造場、友成醬油醸造所、丸太荒木荒物店、丸徳木製米穀荒物店、曲イ河村雜穀賣買店、三浦雜穀仲買店、九二谷井藥舖、曲二高橋九天合同、河井の三運漕店及び遠藤、山端の待合所等あり、又醫士としては淺田醫院外三ヶ所にして寺院は淨覺寺外説教所三ヶ所なり、此他風連部落の概略を舉れば左の如し

天 埴 編

◎風連市街地 全市街地は本村字風連驛にあり、此の地は明治三十五年の開發にして初め大久保候爵所有の農場に屬せしも往年徳島縣人近藤増藏氏の所有に移り全氏が日用品の供給に不便なりし爲め市設市街地を設定したるが抑も開闢の原因なるも其後近藤氏が該地の起業方法に違背を爲したる爲め其一部即ち市街地及び附近の返還を命せらるることとなり目下官有地に屬し居れり、然れども政府若し之を競賣に附するが如き方針に出づるとせば現住者の恐慌一方ならざるのみならず又以て由々敷大車なるを以て全地在住のもの其善後策の一助として無願建築現住の者には其在住地の貸付を上川支廳へ連署稟請したりといへば還からずして其解決を見るに至るべし、而して此地が近來著しき發展を視るに至りたるは附近部落の發達と鐵道開通以來木材の搬出盛んなりしに因るものなりといふ、尙ほ市街には郵便局及び學校寺院等の諸機關あり、市街戸數は百有余戸にして各商家共何れも般賑にして且つ活氣を呈し居れり、又農場は盛岡、徳田、神谷、林、足羽等其重なるものなり。

二二三

君は明治五年五月を以て、高知縣長岡郡東山村に生る、幼にして穎悟、少壯已に圖商の志あり、明治二十六年年齒僅かに二十又一有にして單身杖を北門の荒野に曳き、始て居を樺戸郡浦臼村に移し、手づから鋤鋤を把りて困苦奮勵荒野の開拓に従事する事數年、立脚の基礎茲に爲る、移住后まだ十年を出てざるに、獨力遂に農場を經營するの機運に向ひ、明治三十四年天鹽國美深に於て三十餘万坪餘の農場を經營するに至れり、堅忍不撓の意氣に富める事君の如くなるに非ずんば焉ぞ能く其成功を見るを得ん、而も君の進取の氣に饒める區々の成效を以て満足せず腕を得て蜀を望むの念感は倍々旺かに、三十八年上川郡名寄に轉住して木材業を開店し續いて四十年二月自づから率先



して名寄倉庫株式會社なるものを組織して専務取締役となり専ら社務に執掌す、同年中更に美瑛村に六十五万有餘坪の農牧場を經營し、數十の農牧夫を雇備して或は開墾に或は牧畜に銳意熱中す、現今旭川町宮下通十一丁目に出張所を開き、木材業に牧畜業に彌々店務を擴張す徒手空拳を以て渡道したる年齒二十餘の青年に假するに未だ二十年の歳月を以てせずして早くも已に成效を見る、天運の君に幸するものありと云へ、抑も亦氣力充隆の人に非ずんば能はず、情力の超凡の人たるに非ずんば能はざる事に屬す果然君は精力主義の人なり、活動主義の人なり、篤實人をして信頼せしむるに足り又其沈毅にして寡言なる處却つて其經綸の大にして志氣の豪邁なるを知るに足らしむ。



大久保牧場利風號

天 雄 國 名 寄 驛

大久保木材部

電 署 (オ)

旭川町宮下通十二丁目

大久保出張所

電話 (二六一)

石狩國美瑛驛

大久保牧場

●馬匹放牧並ニ種馬交尾ノ依頼ニ應ス

濃厚にして着實なる中、快活明敏意氣軒昂一見以て人をして敬服せしむるものを、荒木太三君とす、君は佐賀縣の産にして明治三十三年初めて本道に移住し名寄市街開拓の當時第一着として居を構へたるものなり、三十四年劍淵村より分れて名寄村に戸長役場を設けせらるゝや、君の友たりし久松榮作氏戸長に任せられ君亦村惣代として、村治の衝に當れり、翌三十五年五月全村市街宅地は競賣法の制定さるや、當時君は市街繁榮の策に非ずと爲し、有志と會見して極力是が撤回に力められ不幸事遂に成らず、現今名寄市街地が樞要の地域を占めながら發達遲々として廣漠散漫尙狐狸の出沒するあるを見るは一に競賣法の惡果なるは皆人の知る處なり、以て君の先見卓識を察すべき



荒 木 太 三 君

也、三十三年移住以來村惣代たりし事前后四回にして、村治公共事業一として關與せざることなく殊に教育事業に就ては常に留意獎勵竭きざるなし君は又一面公共に熱中すると同時に一面商業に熱心にして暇あれば店舗に座して、帳簿を處理し顧客に應答すると眞に手代も及ばざる處たり、蓋君が天稟周匠緻密にして内外の大小、殆んど規矩を以て度りたる如く整然たるは、常に世人の嘆美する處なり、就中商事取引の如きは、更に期日を過りたるなとく一言一行殆んど符節を合せたる等しきは全業者の常に畏懼する處たり君今や齡不惑にして人生二代の運命を百尺竿頭に試るの好時機たり君の才學君の卓識にして尙益活動するあらん乎今一層の發展と一大飛躍を見るや信じて疑はざる處也君夫れ奮勵せよ。

朝 倉 惠 見 師

威儀端然として鬼神も爲に去り、惡魔性童も爲に走るの位徳あるものを、眞宗本派名寄山淨覺寺住職朝倉惠見師とす、君は福井縣越前國足羽郡一葉谷村字城戸の産にして、全村淨覺寺住職朝倉順應正の二男なり、成年の後京都堀川通本双寺派佛教大學に在りて斯道の修學を極めつゝありしが明治三十七年三月突如として、本山より天鹽國開教師の命に接し、全時に名寄駐在を命せられたり本院は卅七年五月説教所として創立せしを初めとし、村の開發と共に漸次信者を増し、四十年に至りては信徒二百戸以上に及びしより、今年六月現在の敷地を求め、尙之れと全時に永續資財として土地の寄附者ありし爲め、直ちに本堂並に庫裡を建築し寺號公稱の出願手續を爲せしに四十一年三月十一日を以て許可せられたり、是れ名寄として

は寺號公稱の開祖なり、目下檀家は二百五十戸餘にして尙益々増加の形勢なるも昨年以來地方不振の結果舊檀家の内幾分か他に移轉せしものなきにわらず、檀家惣代としては坪下米治、富田幸太郎淺野龜吉、清水長次郎の諸氏にして、能く本院の經營に盡力せらる、又本院には基本財産として畑四町九反餘あれば是れが収利も亦多大にして餘裕綽々たりと云ふ、蓋本院が説教所として開設以來漸く五星霜の短日月に於て斯る隆運に接したるは名寄市街發達の長足進歩に由來するや固よりなるべしと雖も現住職たる師が布教誘導の高徳に起因するや大なりと云ふべし、師卓識大度にして年齒未だ不惑に達せざるも俗脱悟道超然として凡俗の比にわらず、須からく衆生の濟度に力を勉め地方の改善を圖るに吝なる勿れ。

上名寄村の實業家中、若手辣腕の稱あるを君と爲す。君の實業勤勉は以て同業者間の信用を厚くするに足り、君の營々公事に盡瘁して未だ曾て倦色あるを見ざるは、以て閩村の重望を委するに足る日本の鑛山王古河市兵衛氏、曾て人に語て曰く實業家の要恵は、運、鈍根にありと、君の實業に従事するや古川氏の所謂運、根の二根を併有するも其鈍根に至りては全く古川氏と正反對にして鈍れを以て往々浮沈常なきの免れざる事なれど、其運根の二根は能く君の事業に追隨し、君をして常に失敗の淵より遠ざけたるのみか、遂に今日の成功を見るに至りしなり、明治十一年、愛媛縣周桑郡立岡村に生る、幼にして村校に在り、側ら父祖の業を補けて耕耘の事に



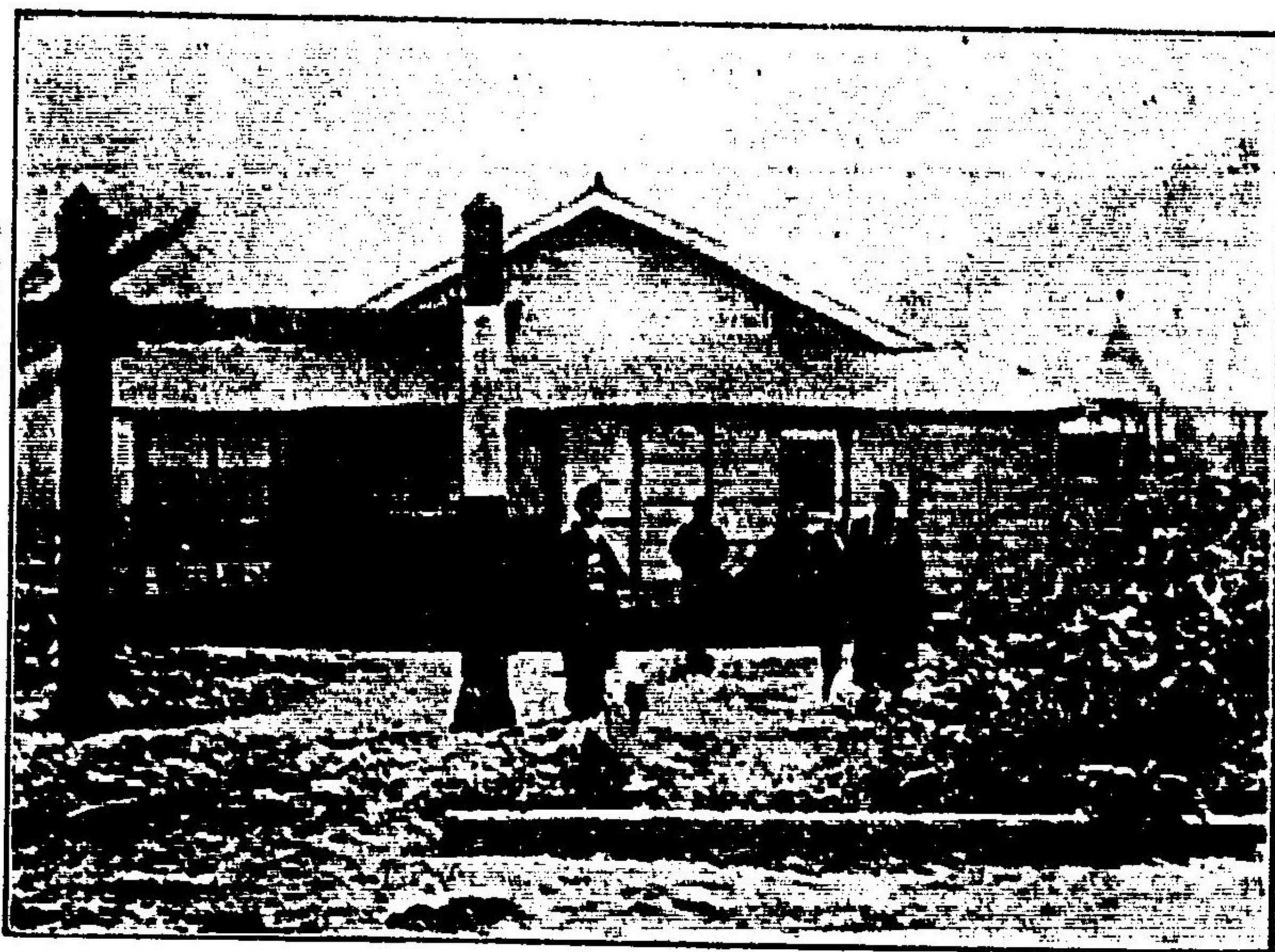
近 藤 豊 吉 君

從ふ稍々長じて事理を解するや、謂へらく男兒生を聖代に享け、豈に碌々父祖の遺撤をのみ嗣き死するに墳墓の地のみを期せん、青山は常に吾等の行く處にありと、意氣軒昂徒手單身滿々たる冀望を堪へて、三十四年空知郡瀧川村江部乙に移住す、辛酸二年雨に浴し風を櫛り、營々孜々以て開墾の事に従ふ、三十六年上名寄附近の土地音波にして且將來發達の望みあるを見や移つて同村字風連に居を下し、主として木材業に従事し側ら農事に力む移住後未だ歳を経ざるに産此處に成り閩村の信用倍々高く組長學務委員等に歷任し現に組長として合開あり運鈍根は古川子の所謂二根を具し其鈍根に至りてや却て反對に鋭根を具す、之君が夙に名寄實業家中若手辣腕の稱ある以所歎、一異材と謂つ可也。



曲 吉 河 井 運 漕 店

天鹽國名寄より天鹽川口に至る沿岸一帯の地方に貨物の運輸、交通の利便を與へつゝあるものを名寄渡船場曲吉印河井運漕店とす、店主は河井和五郎氏にして、徳島縣那珂郡の人明治三十九年一度比本道の視察を遂げ、一應歸國の上四十年特に爲す處あらんとて渡道し、是を此地に止め現業の社會公益に利すると、尙前途有望なることを認め全年八月より開業することせり、本運漕店は開業日も亦足らざるの形勢にて、船の新造水夫の募集に力を盡し、常に貨物の停滯せざらん事に汲々とし今や運漕船二十艘内外人夫四十人餘を以て是れが經營に當り、乗客及び貨物取扱所としては、名寄市街曲吉藤井旅館、丸石印石川旅館の二ヶ所に置き、尙中川郡サツクリにも全扱所を設け特に交通運輸の便に供せり、殊に四十二年解氷後即ち四月一日より十一月末日迄は毎月六回三六の日に以て定期船を發し名寄ボンピラ間の航行に供する計奮なり、蓋河井氏が渡道尙日淺きに不拘斯る有益なる公共事業に熱中せらるゝは、自己の利益以外、本道開發の点に着眼せるものと謂べし。



寺 覺 妙

天鹽國上川郡風連驛妙覺寺は、住職南谷眞了師の開基にかゝるもの也、抑も此等が始めて本願寺布教所の許可を得たるは、明治三十六年十一月の事なりき、同四十年四月、若狭國遠敷郡鳥羽村妙覺寺の徒弟、南谷眞了師なるもの、北海布教の途次始めて此地に來り駐在するに及び同月直に寺號の公稱を出願し、同年八月二十六日を以て遂に其の認可なる常寺の信徒は百餘戸にして本堂は間口八間奥口七間の伽藍なり、建築の宏壯なる境内の幽邃なる寔に寺院の位地に適へりと謂つ可き也、信徒の百餘戸は敢て大なる數に非ず、然れども此微々たる風連驛にとりては百餘戸の信徒必しも少なるにあらざる也、加之南谷師來道常寺を開基して以來布教の事に従ふ未だ二袋袴に及ばず、而も能く多數の信徒を有し、廣大なる寺院の建築を見る、蓋し是れ南谷師の熱心布教の結果に外ならず、風連驛妙覺寺の名は不朽に傳はらん、而して開基南谷師の名は妙覺寺と共に亦不朽に傳ふ可き也。

師は上川郡風連驛、妙覺寺の開基住職なり、本業は若狭國遠敷郡鳥羽村に在り、明治十三年五月を以て孤々の聲を擧ぐ、幼にして温厚篤實君子の風あり、里人呼びて神と云ひ佛と爲す、明治十九年始めて小學校に入り同二十三年業を卒ふ、爾來鄉村の寺僧に師事する事多年學大に進む、二十四年某宗教學校に入り夜を日に繼ぎて刻苦勉勵する數年、造詣頗深し、二十九年遂に業を卒へ、爾來一身を布教に委ね、近江に越前に其他わらゆる地方に巡錫して熱心に布教の事に力む、明治四十年師は新開地の布教の最急務なるを認め、漂然經文を負ふて本道に渡り、秋冬春夏風を冒し雪と闘ひ千辛萬苦も毫も意に介せず布教最も励めたり前年四月天鹽國風連驛に來り、曾て郷貫に於て師事せ



師了眞南谷

られたる、若狭國遠敷郡鳥羽村の妙覺寺に做らひ自ら妙覺寺を開基して其の住職と爲り現に今日に至れり、師が此地に來り一布教所を開基して以來寺號を公稱するの今日に至る迄の苦心は到底得て筆紙の名狀する處にあらざと、物的文明は彌々進歩して、心界の惡風兎角吹き荒さるべきの今日、斯界の廓清斯道を以て一生の任とする僧侶等が他く無き物慾に眩惑され自家一生の任務を忘れ碌々何の爲す處も無く無用なるお寺の番人たるか外何等能無きもの比々皆然らざるはなき今日偶師の如き一身を布教に委ねて敢て又他の意ある無の高僧を見る宗教界の爲に喜べき也師の智識固く敢て一世に卓越せりと云ふ可らず人格亦敢て一世に冠絶せりと云ふ可らず而も其布教に熱心なるの一事に至りて他に多く其儔を見ず